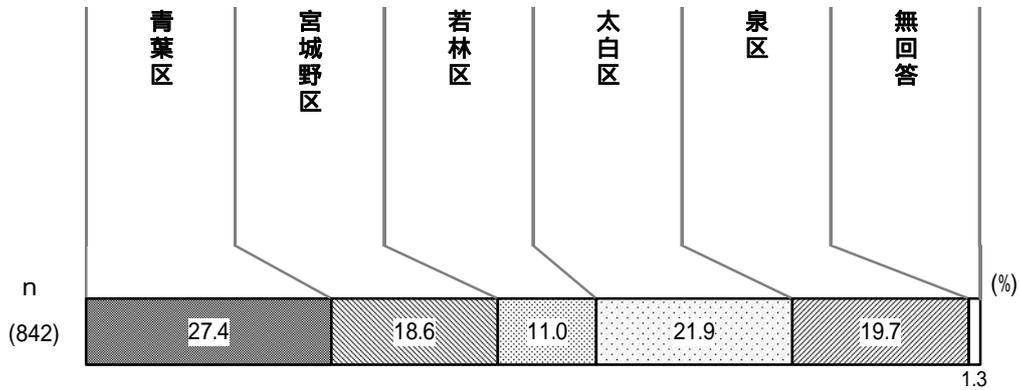


アンケート調査  
(身体障害者本人)

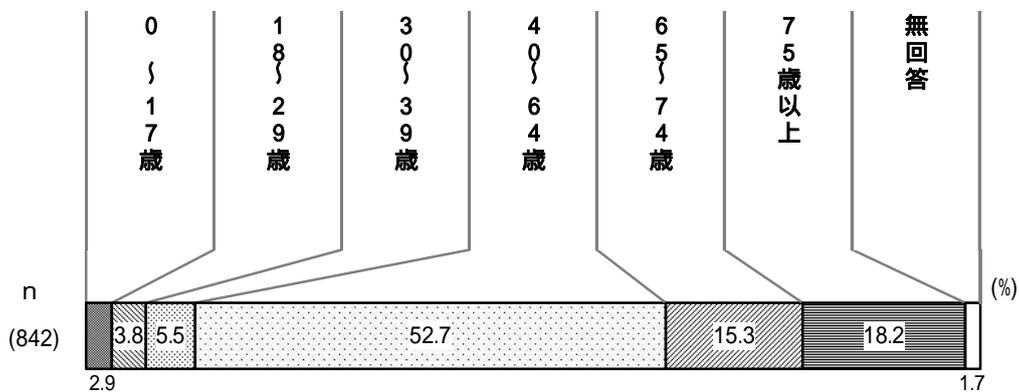
## 1 基本的な属性について

問1 ご本人のお住まいの区はどこですか。( S A )



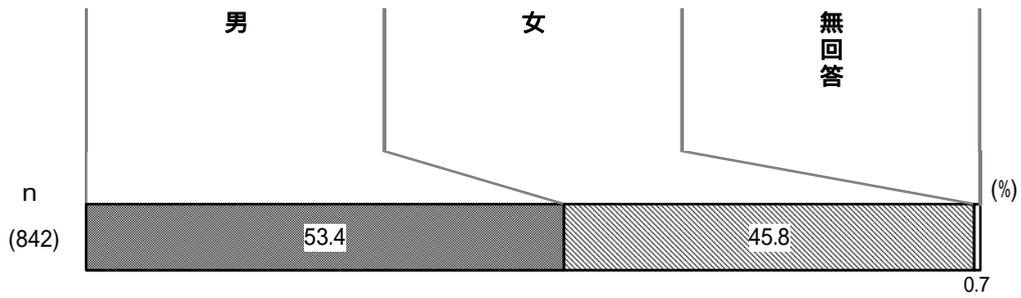
居住地区については、「青葉区」(27.4%)が最も多く、以下「太白区」(21.9%)、「泉区」(19.7%)、「宮城野区」(18.6%)となっている。

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(数値)



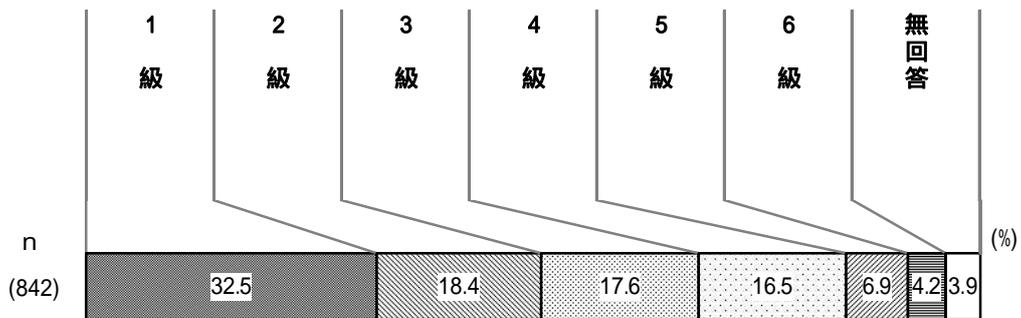
年齢については、「40～64歳」(52.7%)が最も多く、以下「75歳以上」(18.2%)、「65～74歳」(15.3%)と、40歳以上の人が全体の86.2%を占めている。

問3 あなたの性別は男、女のどちらですか。(SA)



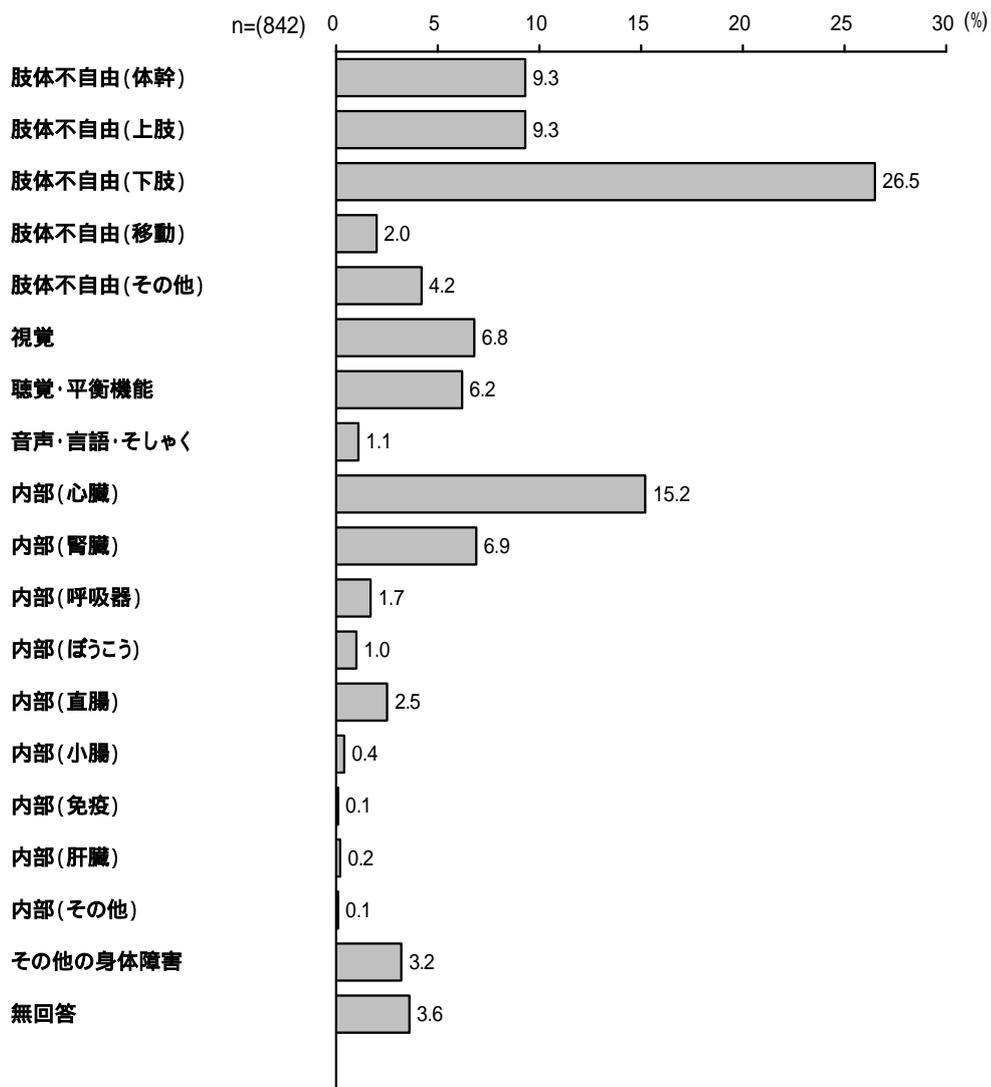
性別については、「男」が53.4%、「女」が45.8%となっている。

問4 あなたの障害の等級は何級ですか。(数値)



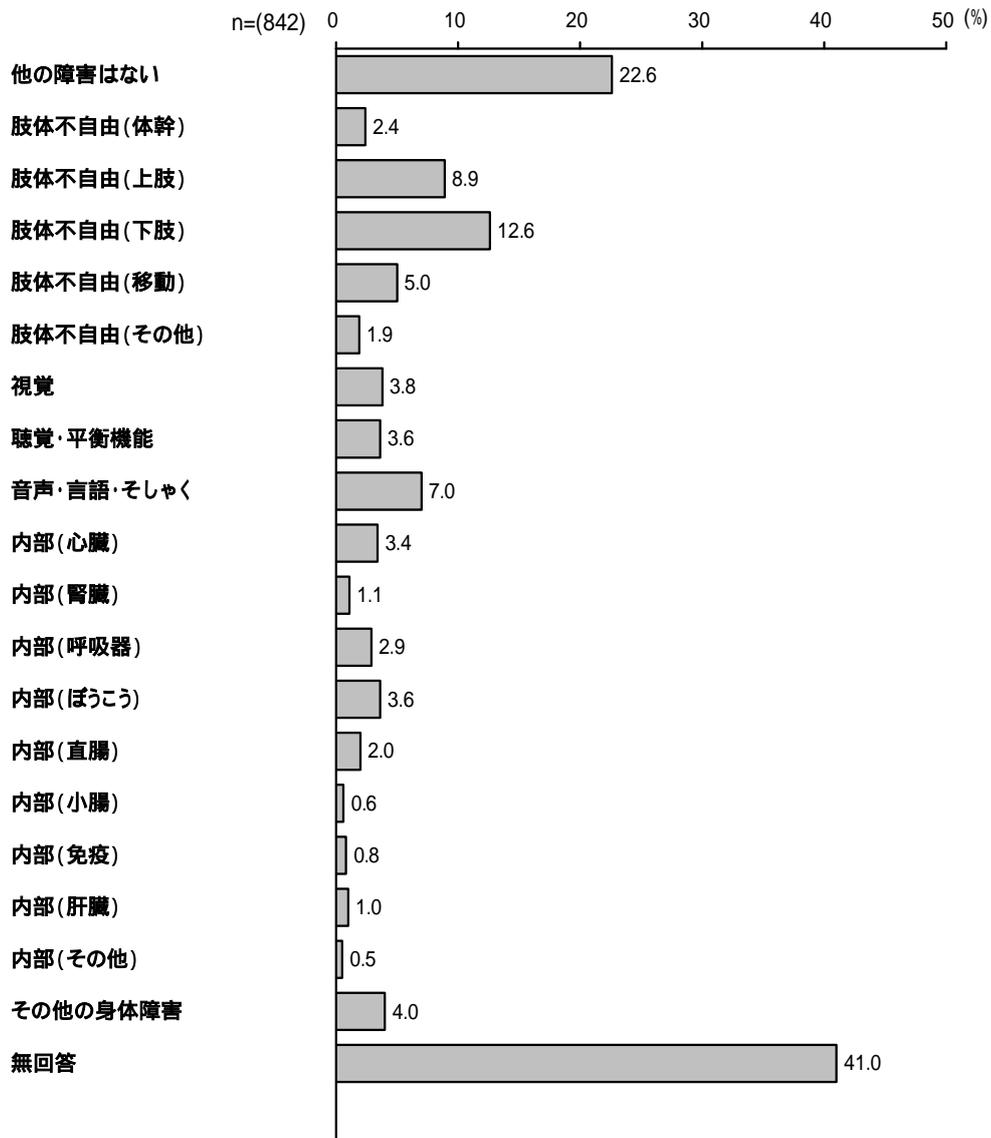
障害の等級については、「1級」(32.5%)と「2級」(18.4%)を合わせた《重度》の人は50.9%、「3級」(17.6%)と「4級」(16.5%)を合わせた《中度》の人は34.1%、「5級」(6.9%)と「6級」(4.2%)を合わせた《軽度》の人は11.1%となっている。

問5 あなたの主たる障害の種類は次のうちどれですか。( S A )



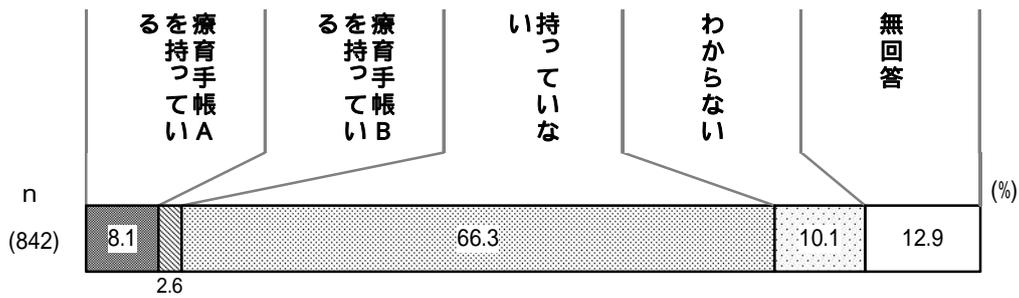
主たる障害については、「肢体不自由(下肢)」(26.5%)が最も多く、以下「内部(心臓)」(15.2%)、「肢体不自由(体幹)」、「肢体不自由(上肢)」(ともに9.3%)となっている。

問6 問5で選んだ以外に障害はありますか。(MA)



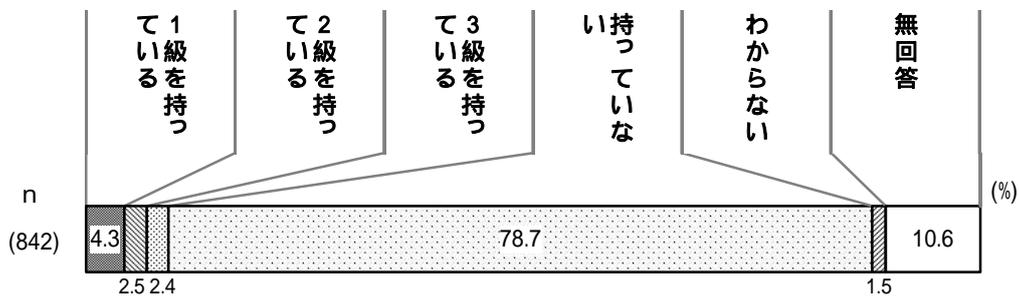
主たる障害以外の障害の有無については、「他の障害はない」(22.6%)が最も多く、以下「肢体不自由(下肢)」(12.6%)、「肢体不自由(上肢)」(8.9%)、「音声・言語・そしゃく」(7.0%)となっている。

問7 あなたは療育手帳を持っていますか。( S A )



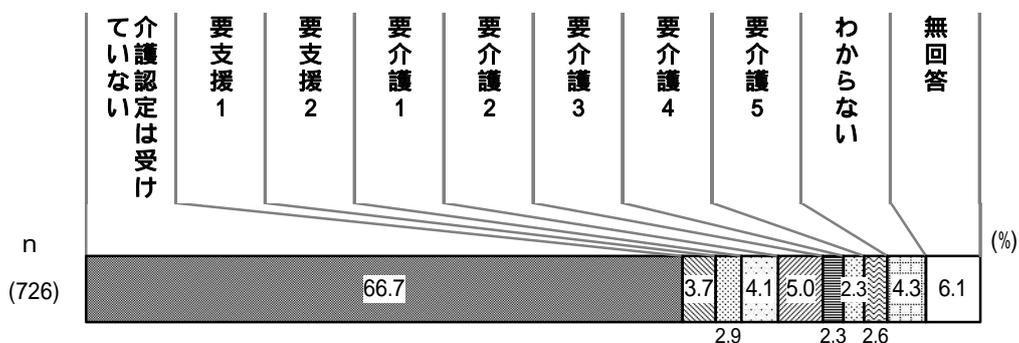
療育手帳の有無については、「療育手帳Aを持っている」(8.1%)、「療育手帳Bを持っている」(2.6%)は少なく、一方、「持っていない」が66.3%を占めている。

問8 あなたは精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。( S A )



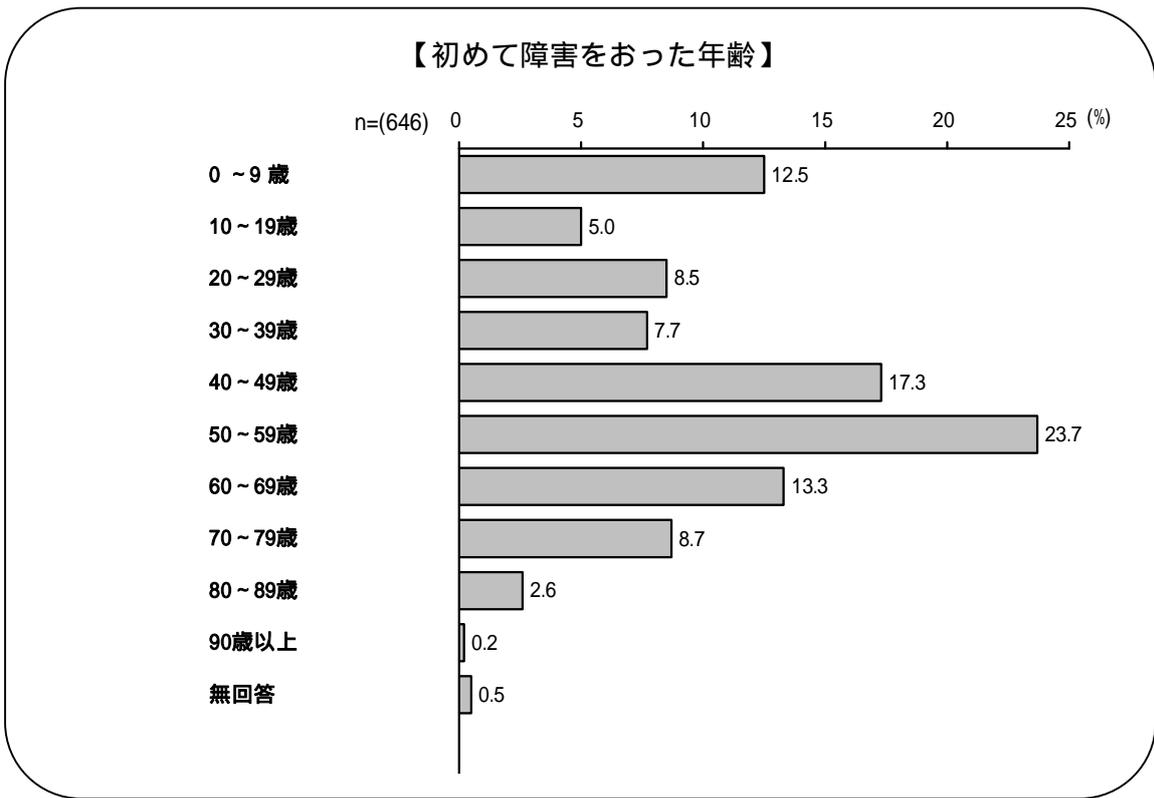
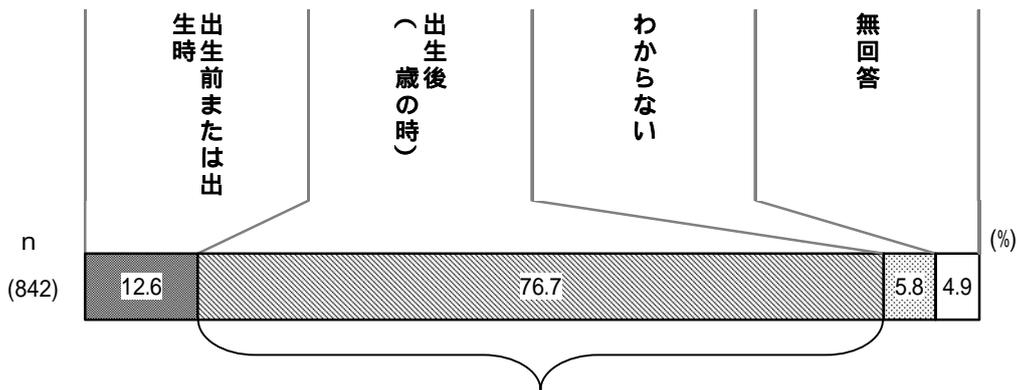
精神障害者保健福祉手帳の有無については、「1級を持っている」(4.3%)、「2級を持っている」(2.5%)、「3級を持っている」(2.4%)は少なく、一方、「持っていない」が78.7%を占めている。

問9 あなたは介護保険の認定を受けていますか。(40歳以上の方のみ記入)( S A )



介護保険の認定の有無については、「介護認定は受けていない」が66.7%を占めている。一方、介護認定を受け要支援または要介護認定がある人は22.9%となっている。

問10 あなたが初めて障害をおった時期はいつ頃でしたか。( S A )

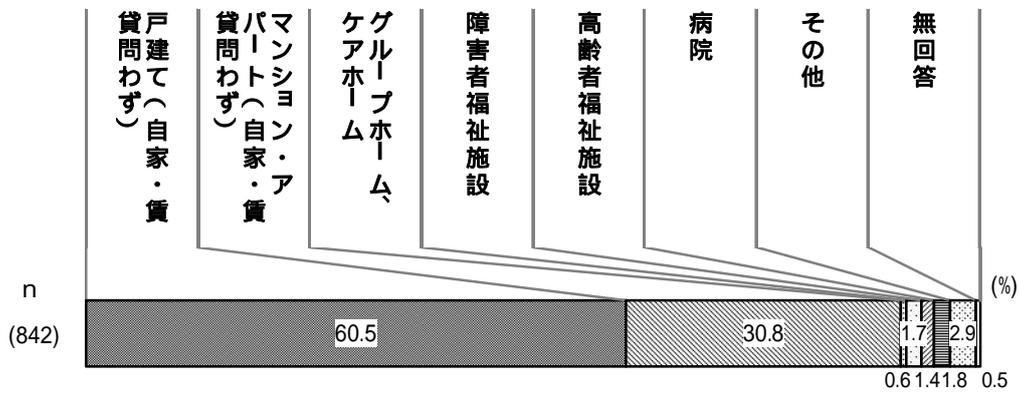


初めて障害をおった時期については、出生後が76.7%を占めている。

初めて障害をおった年齢については、「50～59歳」(23.7%)が最も多く、以下「40～49歳」(17.3%)、「60～69歳」(13.3%)、「0～9歳」(12.5%)となっている。

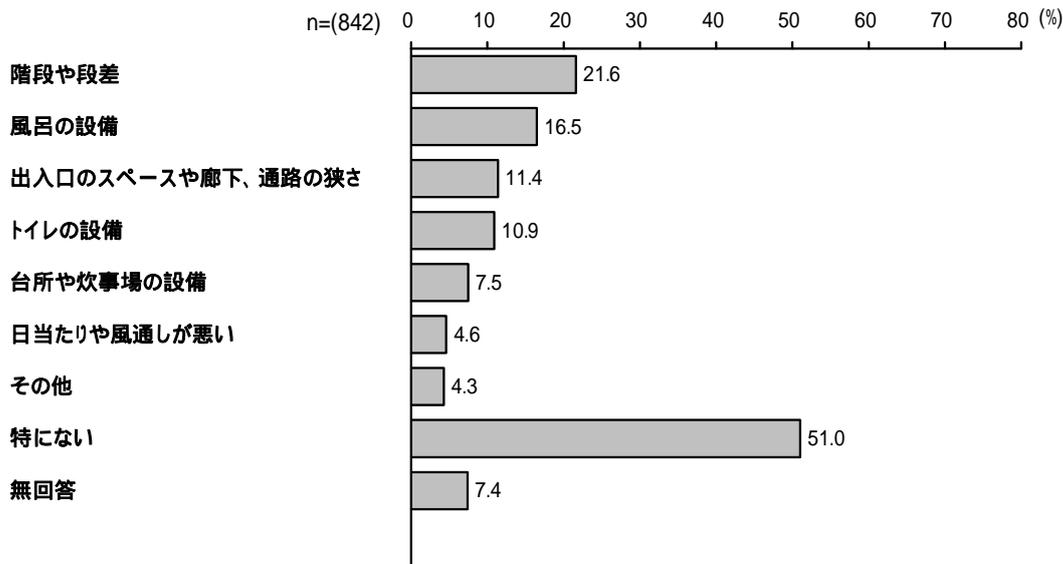
## 2 住環境について

問 11 現在、あなたのお住まいは次のうちどれですか。( S A )



現在の住まいについては、「戸建て(自家・賃貸問わず)」(60.5%)が最も多く、以下「マンション・アパート(自家・賃貸問わず)」(30.8%)となっている。

問12 現在、あなたはお住まいのことで困っていることがありますか。(MA)



現在の住まいで困っていることについては、「階段や段差」(21.6%)が最も多く、以下「風呂の設備」(16.5%)、「出入口のスペースや廊下、通路の狭さ」(11.4%)、「トイレの設備」(10.9%)となっている。

なお、「特にない」は51.0%となっている。

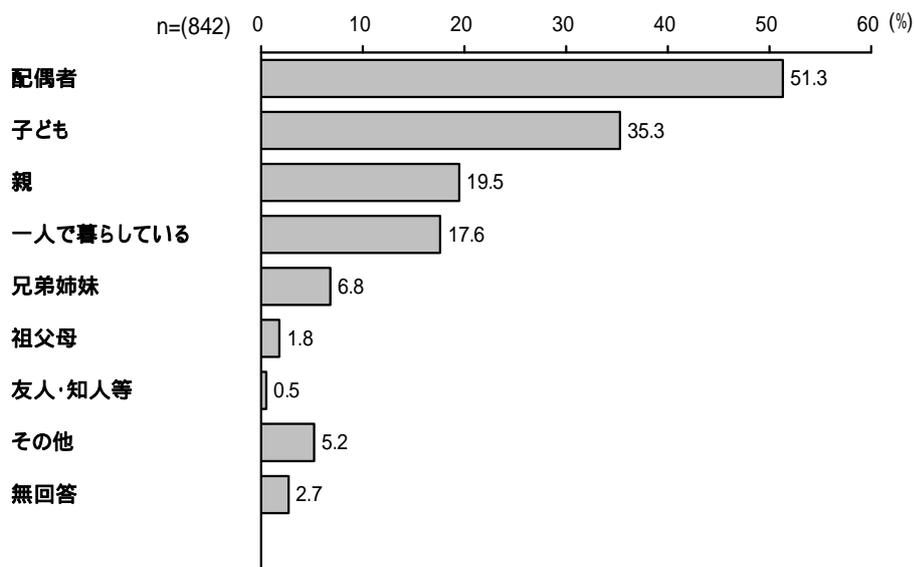
【主たる障害別】

	調査数 (n)	階段や段差	風呂の設備	下出入口のスペースや廊下、通路の狭さ	トイレの設備	台所や炊事場の設備	日当たりや風通しが悪い	その他	特にない	無回答
全体	842	182	139	96	92	63	39	36	429	62
	100.0	21.6	16.5	11.4	10.9	7.5	4.6	4.3	51.0	7.4
肢体不自由	431	125	91	66	52	35	15	18	192	26
	100.0	29.0	21.1	15.3	12.1	8.1	3.5	4.2	44.5	6.0
視覚・聴覚・音声障害	118	21	13	11	7	10	7	10	66	10
	100.0	17.8	11.0	9.3	5.9	8.5	5.9	8.5	55.9	8.5
内部障害	236	24	27	14	27	14	14	6	148	14
	100.0	10.2	11.4	5.9	11.4	5.9	5.9	2.5	62.7	5.9
その他の身体障害	27	2	2	2	2	2	3	2	13	4
	100.0	7.4	7.4	7.4	7.4	7.4	11.1	7.4	48.1	14.8

主たる障害別にみると、肢体不自由では「階段や段差」、「風呂の設備」、「出入口のスペースや廊下、通路の狭さ」が他の障害に比べて多くなっている。

問13 あなたと一緒に住んでいる人は誰ですか。(MA)

問14 あなたと一緒に住んでいる人は何人いますか。(数値)



一緒に住んでいる人については、「配偶者」(51.3%)が最も多く、以下「子ども」(35.3%)、「親」(19.5%)、「一人で暮らしている」(17.6%)となっている。

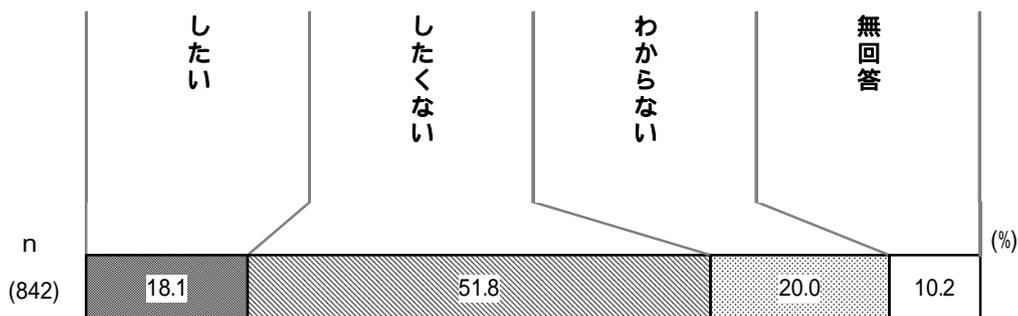
一緒に住んでいる人数については、平均2.26人となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	配偶者	子ども	親	一人で暮らしている	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人等	その他	無回答
上段：件数 下段：%										
全体	842 100.0	432 51.3	297 35.3	164 19.5	148 17.6	57 6.8	15 1.8	4 0.5	44 5.2	23 2.7
0~17歳	24 100.0	0 0.0	0 0.0	23 95.8	0 0.0	17 70.8	3 12.5	0 0.0	1 4.2	0 0.0
18~29歳	32 100.0	2 6.3	1 3.1	22 68.8	6 18.8	9 28.1	5 15.6	0 0.0	1 3.1	1 3.1
30~39歳	46 100.0	10 21.7	7 15.2	28 60.9	6 13.0	7 15.2	5 10.9	1 2.2	2 4.3	0 0.0
40~49歳	86 100.0	34 39.5	33 38.4	31 36.0	14 16.3	8 9.3	0 0.0	0 0.0	3 3.5	3 3.5
50~64歳	358 100.0	218 60.9	146 40.8	53 14.8	76 21.2	10 2.8	1 0.3	2 0.6	18 5.0	6 1.7
65~74歳	129 100.0	86 66.7	45 34.9	4 3.1	18 14.0	4 3.1	0 0.0	1 0.8	7 5.4	4 3.1
75歳以上	153 100.0	80 52.3	63 41.2	0 0.0	26 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 7.8	5 3.3

年齢別にみると、0~39歳では「親」が最も多く、40~49歳は「配偶者」、「子ども」、「親」などが多い。50~64歳は「一人で暮らしている」が21.2%と他の年齢に比べてやや多い。

問 15 あなたは今後（今後も）家族から独立して生活したいですか。（ S A ）



今後（今後も）家族から独立しての生活意向については、独立したくない人が 51.8%と多く、一方、独立したい人は 18.1%となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	したい	したくない	わからない	無回答
全体	842 100.0	152 18.1	436 51.8	168 20.0	86 10.2
0～17歳	24 100.0	3 12.5	8 33.3	12 50.0	1 4.2
18～29歳	32 100.0	16 50.0	4 12.5	11 34.4	1 3.1
30～39歳	46 100.0	16 34.8	11 23.9	18 39.1	1 2.2
40～49歳	86 100.0	18 20.9	41 47.7	20 23.3	7 8.1
50～64歳	358 100.0	63 17.6	190 53.1	66 18.4	39 10.9
65～74歳	129 100.0	17 13.2	82 63.6	17 13.2	13 10.1
75歳以上	153 100.0	17 11.1	96 62.7	21 13.7	19 12.4

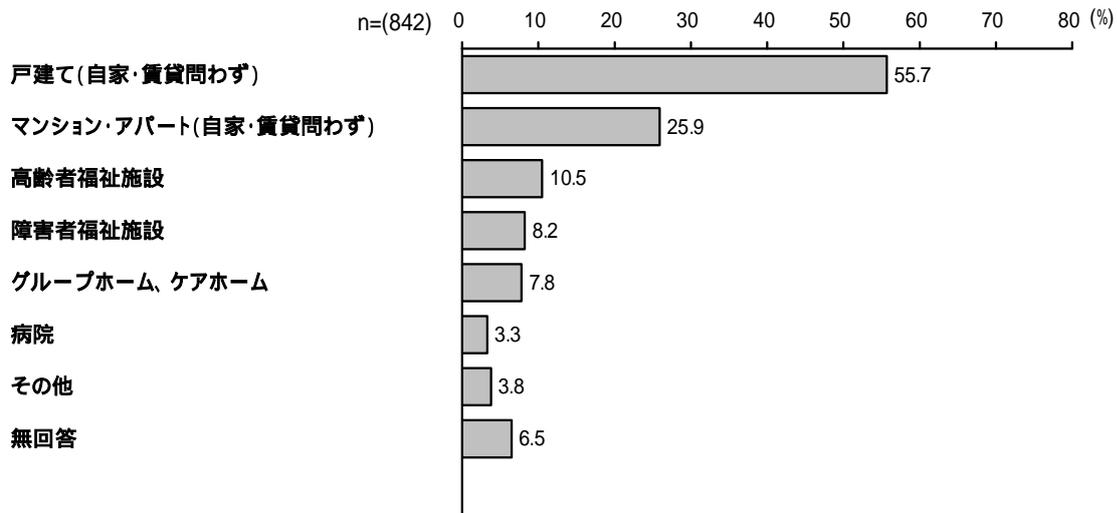
年齢別にみると、18～39歳では独立したい人が多くなっているが、他の年齢は独立したくないとの意向が高い。

【日常生活における動作の可否別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	したい	したくない	わからない	無回答
全体	842 100.0	152 18.1	436 51.8	168 20.0	86 10.2
一人でできる	563 100.0	115 20.4	302 53.6	100 17.8	46 8.2
時間をかければ一人でできる	81 100.0	9 11.1	47 58.0	18 22.2	7 8.6
一部介助が必要	103 100.0	17 16.5	55 53.4	19 18.4	12 11.7
全部介助が必要	75 100.0	8 10.7	26 34.7	27 36.0	14 18.7

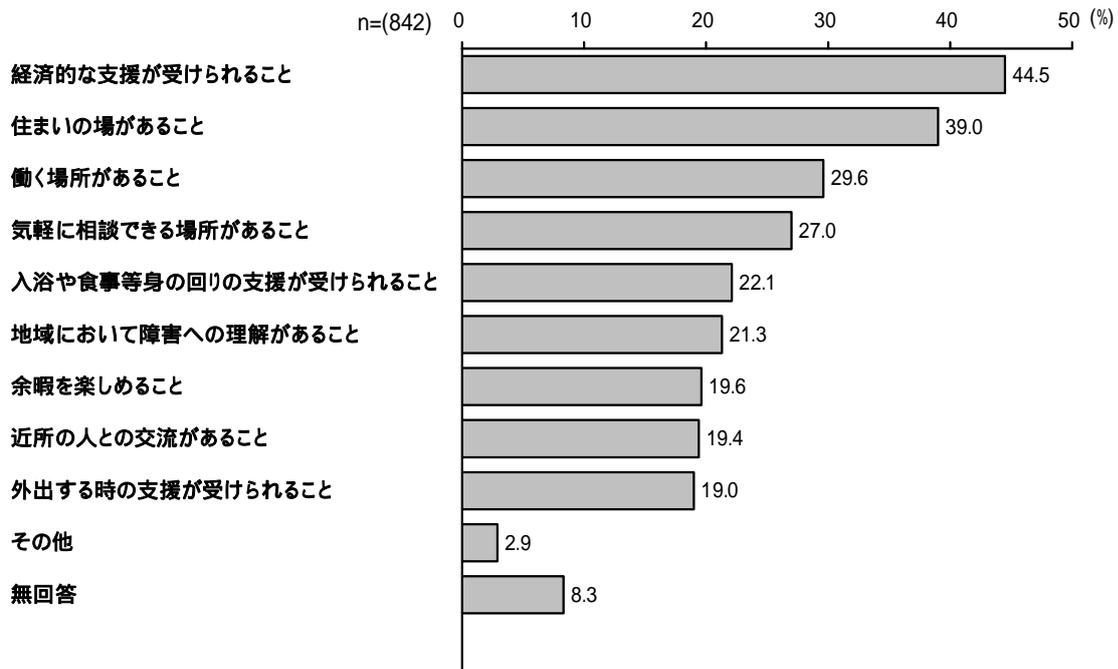
日常生活における動作の可否別にみると、日常生活の動作が一人でできる人の 20.4%が独立したいと考えている。

問 16 あなたは将来、どこを住まいの場として希望しますか。( M A )



希望する将来の住まいの場については、「戸建て(自家・賃貸問わず)」(55.7%)が最も多く、以下「マンション・アパート(自家・賃貸問わず)」(25.9%)、「高齢者福祉施設」(10.5%)となっている。

問 17 地域で生活していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。( M A )



地域で生活していくために必要なことについては、「経済的な支援が受けられること」(44.5%)が最も多く、以下「住まいの場があること」(39.0%)、「働く場所があること」(29.6%)、「気軽に相談できる場所があること」(27.0%)となっている。

【主たる障害別】

	調査数 (n)	経済的な支援が受けられること	住まいの場があること	働く場所があること	気軽に相談できる場所があること	入浴や食事等身の回りの支援が受けられること	地域において障害への理解があること	余暇を楽しめること	近所の人との交流があること	外出する時の支援が受けられること	その他	無回答
全体	842	375	328	249	227	186	179	165	163	160	24	70
上段：件数 下段：%	100.0	44.5	39.0	29.6	27.0	22.1	21.3	19.6	19.4	19.0	2.9	8.3
肢体不自由	431	182	162	134	116	118	89	73	65	87	10	35
上段：件数 下段：%	100.0	42.2	37.6	31.1	26.9	27.4	20.6	16.9	15.1	20.2	2.3	8.1
視覚・聴覚・音声障害	118	55	52	40	33	21	34	13	21	25	3	9
上段：件数 下段：%	100.0	46.6	44.1	33.9	28.0	17.8	28.8	11.0	17.8	21.2	2.5	7.6
内部障害	236	112	100	65	63	33	36	70	63	35	7	20
上段：件数 下段：%	100.0	47.5	42.4	27.5	26.7	14.0	15.3	29.7	26.7	14.8	3.0	8.5
その他の身体障害	27	16	9	7	5	8	12	3	5	4	0	2
上段：件数 下段：%	100.0	59.3	33.3	25.9	18.5	29.6	44.4	11.1	18.5	14.8	0.0	7.4

主たる障害別にみると、肢体不自由では「入浴や食事等身の回りの支援が受けられること」、視覚・聴覚・音声障害は「地域において障害への理解があること」、内部障害は「近所の人との交流があること」が他の障害に比べて多くなっている。

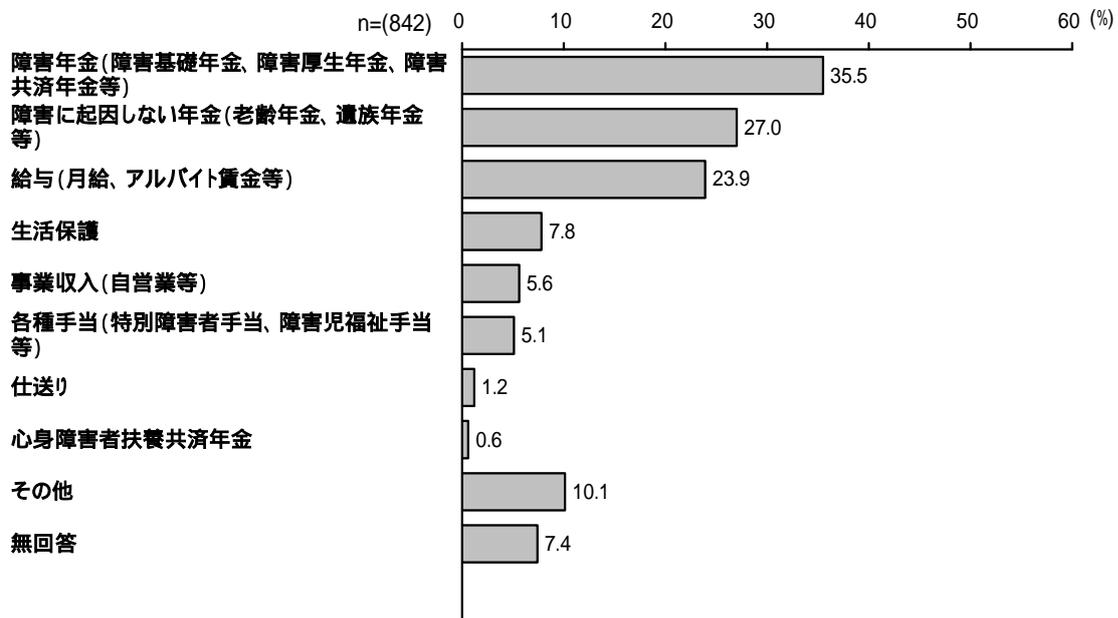
【年収別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	経済的な支援が受けられること	住まいの場があること	働く場所があること	気軽に相談できる場所があること	入浴や食事等身の回りの支援が受けられること	地域において障害への理解があること	余暇を楽しむこと	近所の人との交流があること	外出する時の支援が受けられること	その他	無回答
全体	842 100.0	375 44.5	328 39.0	249 29.6	227 27.0	186 22.1	179 21.3	165 19.6	163 19.4	160 19.0	24 2.9	70 8.3
12万円未満	79 100.0	41 51.9	42 53.2	31 39.2	27 34.2	13 16.5	20 25.3	6 7.6	15 19.0	11 13.9	0 0.0	4 5.1
12万円以上～60万円未満	78 100.0	34 43.6	33 42.3	23 29.5	16 20.5	23 29.5	20 25.6	19 24.4	13 16.7	22 28.2	2 2.6	1 1.3
60万円以上～120万円未満	216 100.0	115 53.2	84 38.9	46 21.3	56 25.9	76 35.2	47 21.8	31 14.4	36 16.7	49 22.7	7 3.2	13 6.0
120万円以上～300万円未満	233 100.0	100 42.9	79 33.9	69 29.6	64 27.5	36 15.5	45 19.3	64 27.5	51 21.9	41 17.6	8 3.4	19 8.2
300万円以上～500万円未満	54 100.0	17 31.5	28 51.9	26 48.1	14 25.9	8 14.8	9 16.7	20 37.0	9 16.7	3 5.6	1 1.9	4 7.4
500万円以上	51 100.0	18 35.3	18 35.3	22 43.1	14 27.5	4 7.8	11 21.6	14 27.5	10 19.6	9 17.6	2 3.9	5 9.8

年収別にみると、300万円未満では「経済的な支援が受けられること」が最も多く、4～5割となっている。

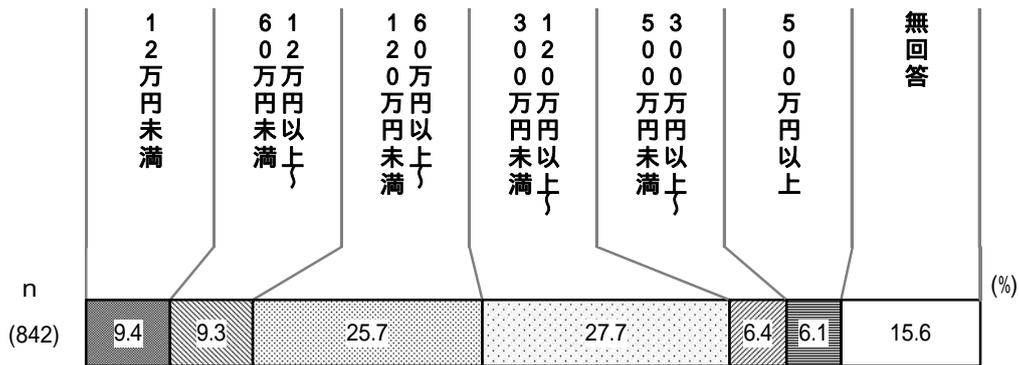
### 3 所得状況について

問 18 あなたが得ている収入は次のうちどれですか。(M A)



得ている収入の種類については、「障害年金(障害基礎年金、障害厚生年金、障害共済年金等)」(35.5%)が最も多く、以下「障害に起因しない年金(老齢年金、遺族年金等)」(27.0%)、「給与(月給、アルバイト賃金等)」(23.9%)となっている。

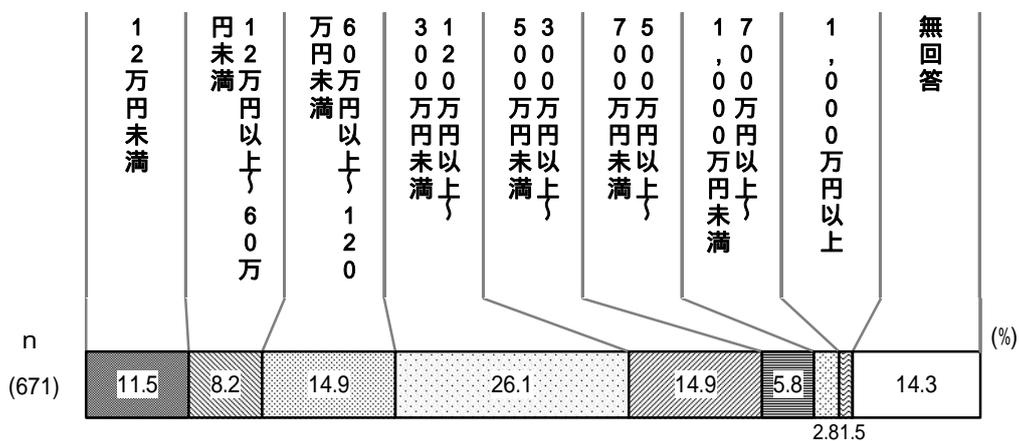
問 19 あなたの年収（税込）はだいたいどのくらいですか。（S A）



年収については、「120万円以上～300万円未満（27.7%）」、「60万円以上～120万円未満（25.7%）」がともに多くなっている。

問 20 一緒に暮らしている家族（あなたを除く）の年収（税込）はだいたいどのくらいですか。

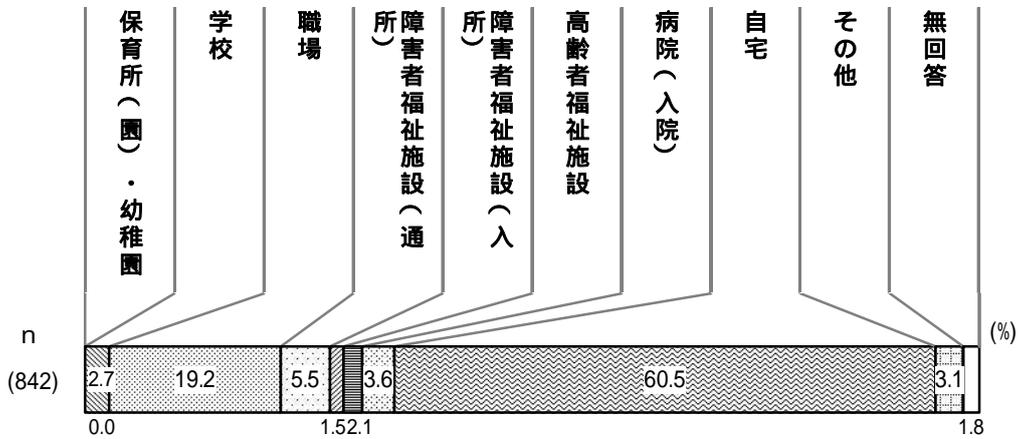
（S A）



同居している家族（本人を除く）の年収については、「120万円以上～300万円未満」（26.1%）が最も多く、以下「60万円以上～120万円未満」、「300万円以上～500万円未満」（ともに14.9%）となっている。

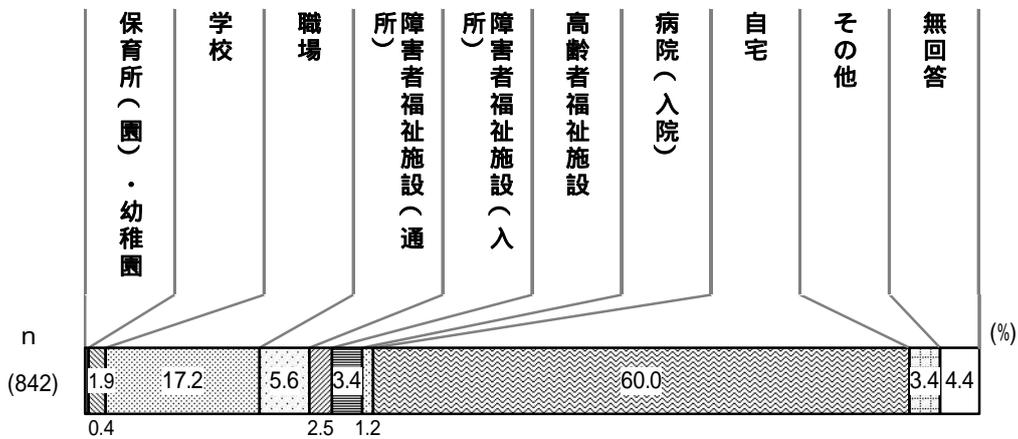
#### 4 日常生活について

問 21 平日の日中、あなたが主に過ごしている場所はどこですか。( S A )



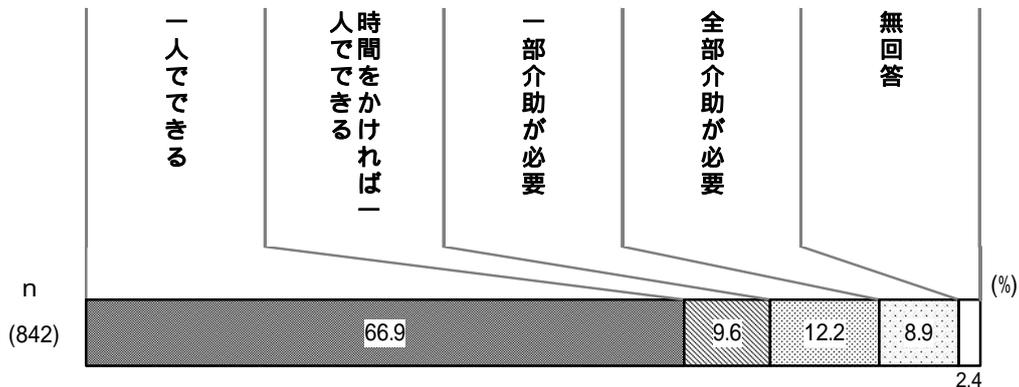
平日の日中主に過ごしている場所については、「自宅」(60.5%)が最も多く、以下「職場」(19.2%)となっている。

問 22 今後、平日の日中、あなたが主に過ごしたいと思う場所はどこですか。( S A )



今後、平日の日中主に過ごしたいと思う場所については、現在主に過ごしている場所と同様に、「自宅」(60.0%)が最も多く、以下「職場」(17.2%)となっている。

問 23 あなたは、食事や排泄など日常生活における動作を、自分ひとりでできますか。この場合、「できる」「できない」の判断は、現在所持している補装具や自助具を使用した状態で考えてください。( S A )



日常生活における動作の可否については、「一人でできる」(66.9%) が最も多くなっているが、「一部介助が必要」(12.2%) と「全部介助が必要」(8.9%) を合わせた《介助が必要》な人も 21.1% となっている。

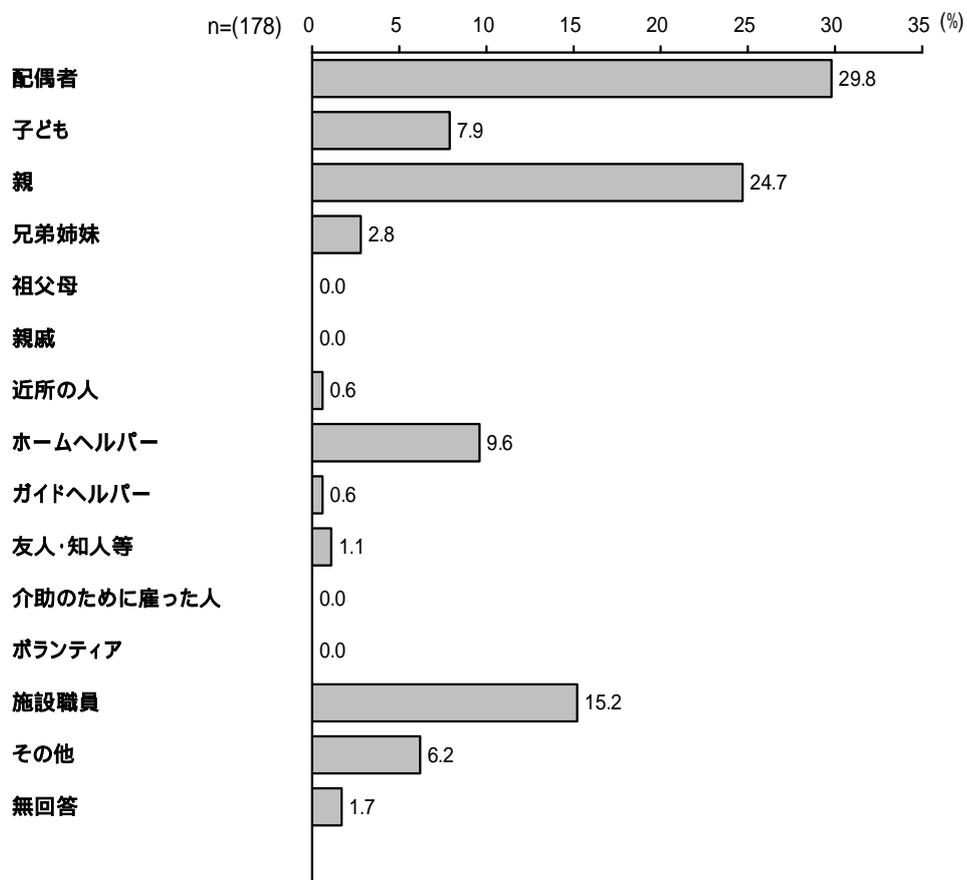
【主たる障害別】

	調査数 (n)	一人でできる	時間をかければ一人でできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
上段：件数 下段：%						
全体	842	563	81	103	75	20
	100.0	66.9	9.6	12.2	8.9	2.4
肢体不自由	431	247	58	62	56	8
	100.0	57.3	13.5	14.4	13.0	1.9
視覚・聴覚・音声障害	118	90	5	14	7	2
	100.0	76.3	4.2	11.9	5.9	1.7
内部障害	236	195	11	21	2	7
	100.0	82.6	4.7	8.9	0.8	3.0
その他の身体障害	27	13	4	2	6	2
	100.0	48.1	14.8	7.4	22.2	7.4

主たる障害別にみると、いずれの障害でも「一人でできる」が最も多くなっているが、肢体不自由では何らかの介助が必要な人も 27.4% となっている。

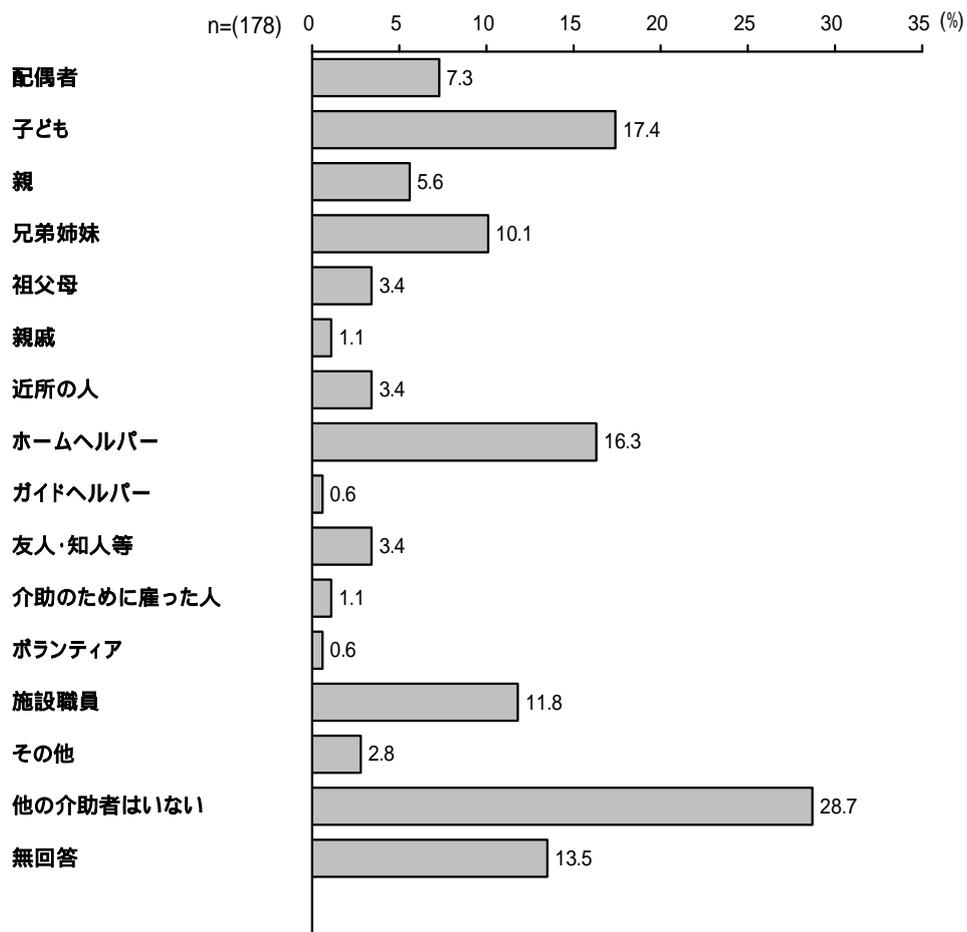
問 24 問 23 において「3 一部介助が必要」または「4 全部介助が必要」を選択した方におた  
ずねします。

(1) 主な介助者は誰ですか。( S A )



主な介助者については、「配偶者」(29.8%)や「親」(24.7%)が多く、以下「施設職員」(15.2%)  
「ホームヘルパー」(9.6%)などの専門職との回答が続いている。

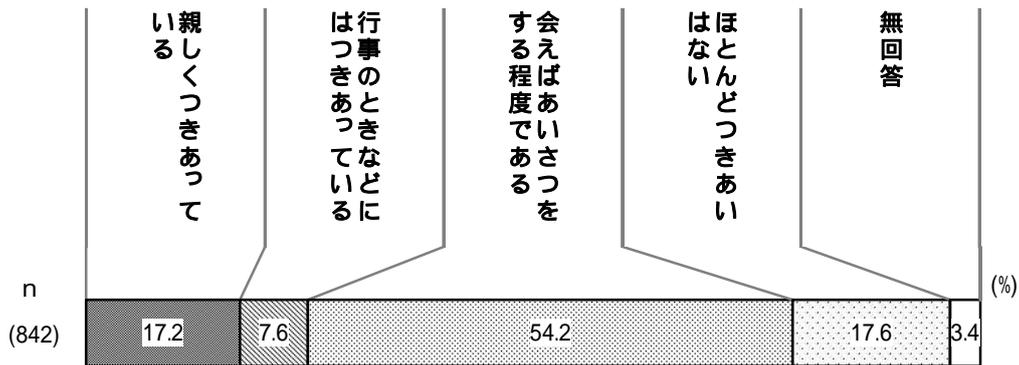
(2)(1) 以外に介助者はいますか。(MA)



主な介助者以外の介助者については、「子ども」(17.4%)、「ホームヘルパー」(16.3%)が多く、以下「施設職員」(11.8%)、「兄弟姉妹」(10.1%)、「配偶者」(7.3%)となっている。

なお、「他の介助者はいない」は28.7%となっている。

問 25 あなたは隣近所の人とどのようにつきあっていますか。( S A )



隣近所の人とのつきあいの程度については、「会えばあいさつをする程度である」(54.2%)が最も多く、以下「親しくつきあっている」(17.2%)、「行事のときなどにはつきあっている」(7.6%)となっている。

一方、「ほとんどつきあいはない」も17.6%となっている。

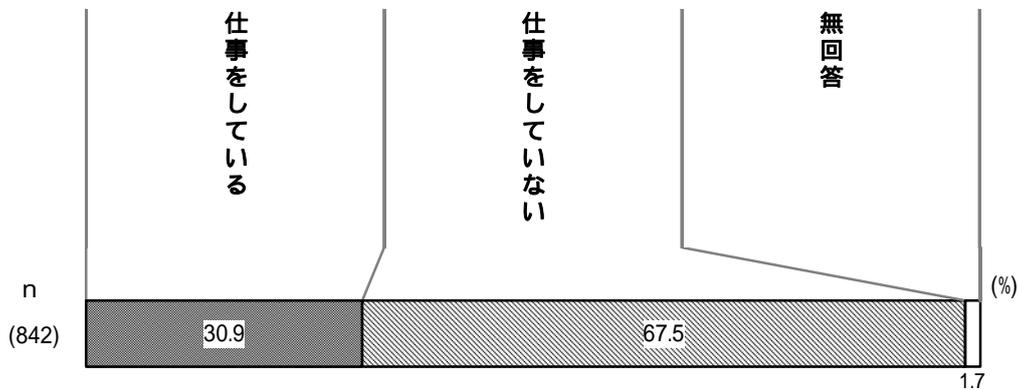
【年齢別】

	調査数 (n)	親しくつきあっている	行事のときなどにはつきあっている	会えばあいさつをする程度である	ほとんどつきあいはない	無回答
上段：件数 下段：%						
全体	842 100.0	145 17.2	64 7.6	456 54.2	148 17.6	29 3.4
0～17歳	24 100.0	4 16.7	2 8.3	13 54.2	5 20.8	0 0.0
18～29歳	32 100.0	2 6.3	0 0.0	24 75.0	6 18.8	0 0.0
30～39歳	46 100.0	5 10.9	1 2.2	29 63.0	11 23.9	0 0.0
40～49歳	86 100.0	6 7.0	8 9.3	53 61.6	18 20.9	1 1.2
50～64歳	358 100.0	54 15.1	27 7.5	204 57.0	61 17.0	12 3.4
65～74歳	129 100.0	29 22.5	14 10.9	62 48.1	17 13.2	7 5.4
75歳以上	153 100.0	44 28.8	11 7.2	64 41.8	26 17.0	8 5.2

年齢別にみると、いずれの年齢でも「会えばあいさつをする程度である」が最も多いが、65歳以上では「親しくつきあっている」が他の年齢に比べて多い。

## 5 就労状況について

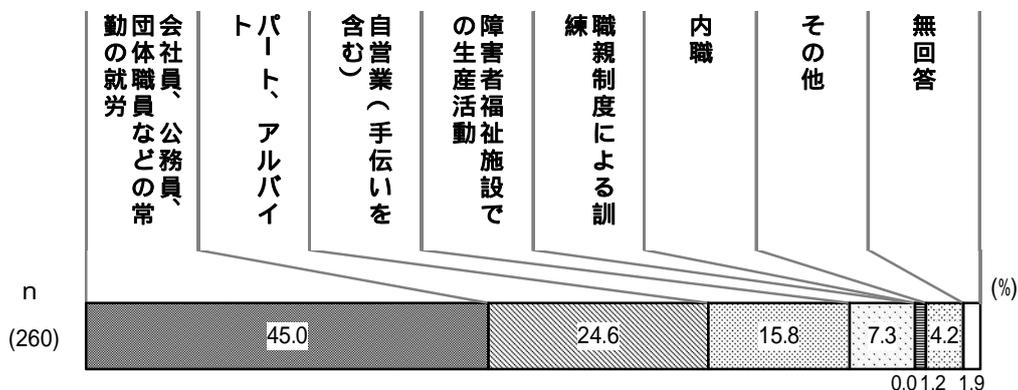
問 26 あなたは仕事をしていますか。( S A )



仕事の有無については、仕事をしている人は 30.9%で、仕事をしていない人が 67.5%を占めている。

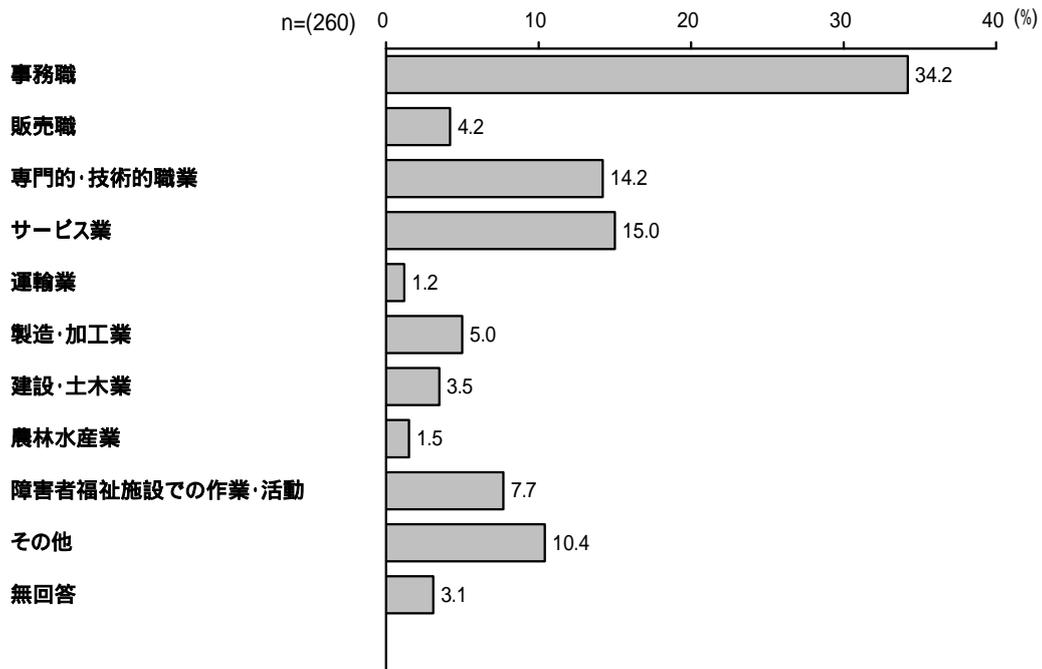
問 27 26 において「1 仕事をしている」を選択した方におたずねします。

(1) どのような仕事に就いていますか。( S A )



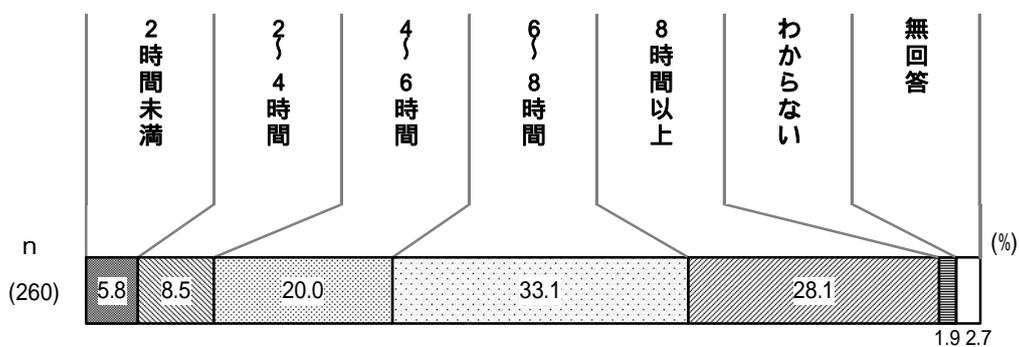
就いている仕事の種類については、「会社員、公務員、団体職員などの常勤の就労」(45.0%)が最も多く、以下「パート、アルバイト」(24.6%)、「自営業(手伝いを含む)」(15.8%)、「障害者福祉施設での生産活動」(7.3%)となっている。

(2) どのような内容の仕事をしていますか。( S A )



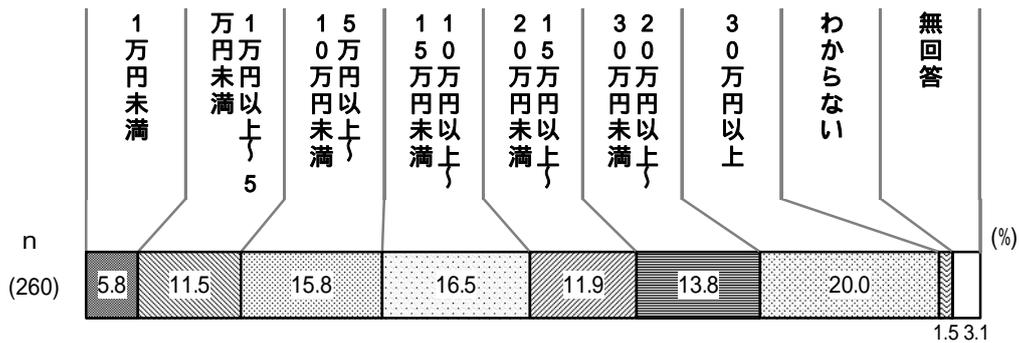
仕事の内容については、「事務職」(34.2%)が最も多く、以下「サービス業」(15.0%)、「専門的・技術的職業」(14.2%)となっている。

(3) 1日あたりの仕事の時間はどのくらいですか。( S A )



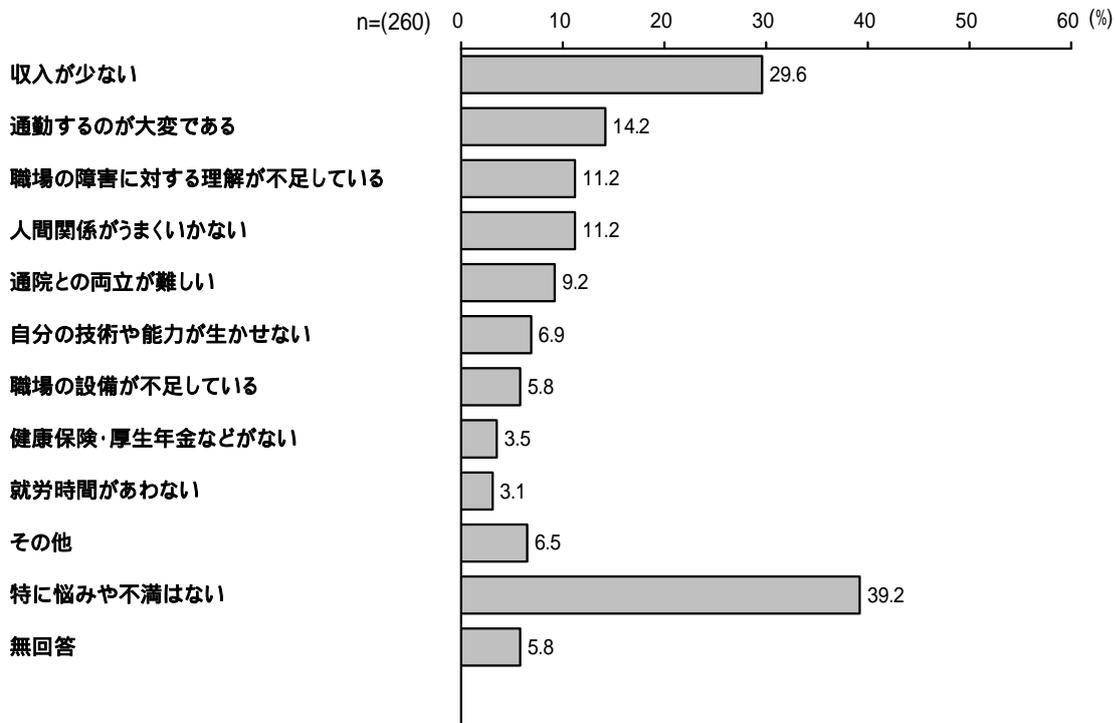
1日あたりの仕事時間については、「6~8時間」(33.1%)が最も多く、以下「8時間以上」(28.1%)、「4~6時間」(20.0%)となっている。

(4) 仕事による収入は月額どのくらいですか。(SA)



仕事による月収については、「30万円以上」(20.0%)が最も多く、以下「10万円以上～15万円未満」(16.5%)、「5万円以上～10万円未満」(15.8%)、「20万円以上～30万円未満」(13.8%)、「15万円以上～20万円未満」(11.9%)、「1万円以上～5万円未満」(11.5%)となっている。

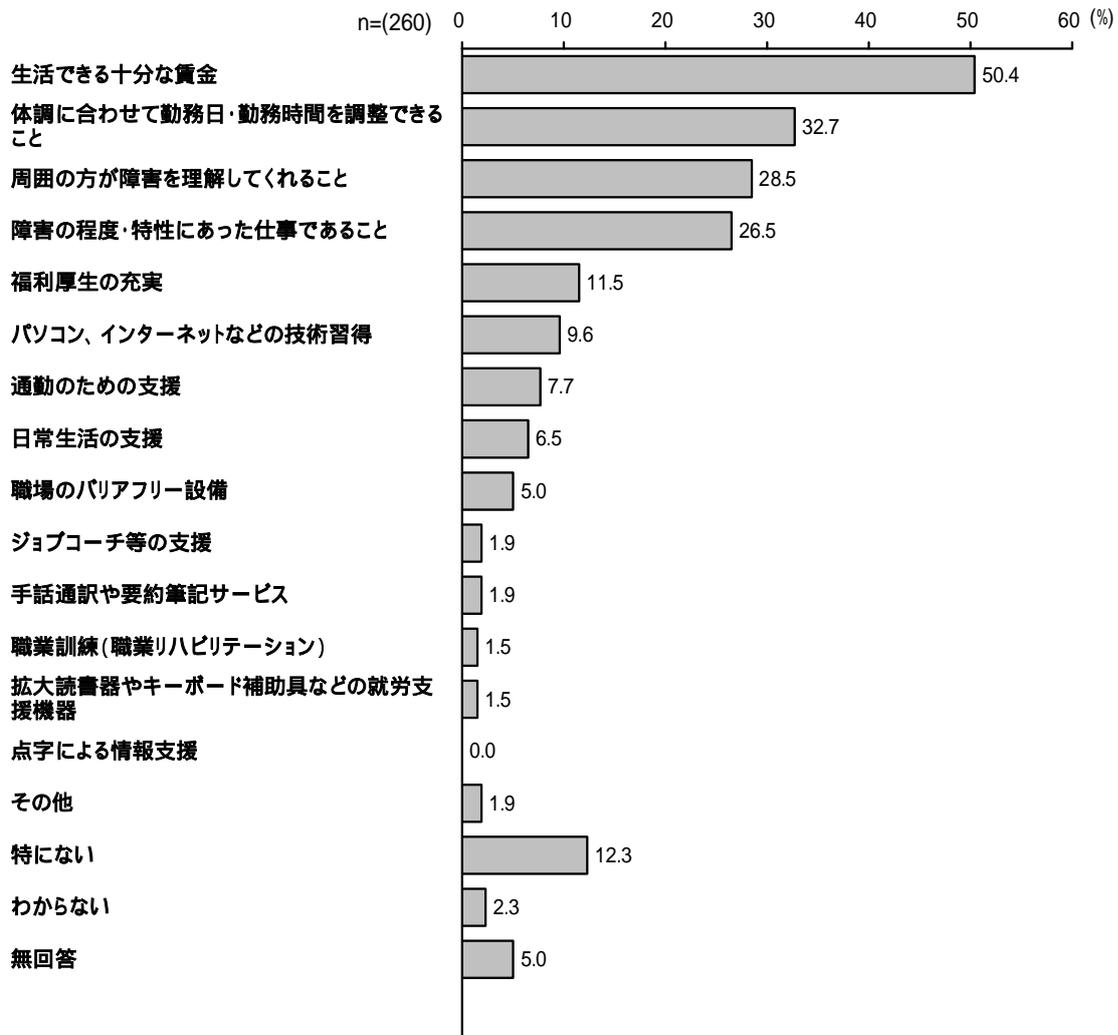
(5) あなたは仕事をしている上で、何か悩みや不満などがありますか。(MA)



仕事をしている上での悩みや不満については、「収入が少ない」(29.6%)が最も多く、以下「通勤するのが大変である」(14.2%)、「職場の障害に対する理解が不足している」、「人間関係がうまくいかない」(ともに11.2%)、「通院との両立が難しい」(9.2%)となっている。

なお、「特に悩みや不満はない」は39.2%となっている。

(6) 仕事を続ける(就職する)ためには何が必要ですか。(MA)



仕事を続ける(就職する)ために必要なことについては、「生活できる十分な賃金」(50.4%)が最も多く、以下「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」(32.7%)、「周囲の方が障害を理解してくれること」(28.5%)、「障害の程度・特性にあった仕事であること」(26.5%)となっている。

【主たる障害別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	賃生活 金で できる 十分 な	調務体 務日に 合わせ て勤務 時間を 調整 できる こと	と理周 解し てく れら れる こと	障に 害の 程度 ・特 性 にあ った 仕事 であ ること	福 利 厚 生 の 充 実	技 術 習 得	パ ソ コ ン 、 イ ン テ ル ネ ッ ト な ど の	通 勤 の た め の 支 援	日 常 生 活 の 支 援	職 場 の バ リ ア フ ー 設 備	支 援 ジ ョ ブ コ ー チ 等 の	手 話 通 訳 や 要 約 筆 記 サ ー ビ ス	職 業 訓 練 （ ハ ビ リ テ ィ シ ョ ン）
全体	260 100.0	131 50.4	85 32.7	74 28.5	69 26.5	30 11.5	25 9.6	20 7.7	17 6.5	13 5.0	5 1.9	5 1.9	5 1.9	4 1.5
肢体不自由	131 100.0	74 56.5	42 32.1	36 27.5	41 31.3	14 10.7	14 10.7	16 12.2	9 6.9	10 7.6	3 2.3	0 0.0	0 0.0	2 1.5
視覚・聴覚・音声障害	40 100.0	22 55.0	7 17.5	7 17.5	13 32.5	2 5.0	3 7.5	1 2.5	2 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 10.0	1 2.5
内部障害	79 100.0	31 39.2	31 39.2	19 24.1	12 15.2	14 17.7	7 8.9	3 3.8	6 7.6	3 3.8	2 2.5	0 0.0	0 0.0	1 1.3
その他の身体障害	5 100.0	3 60.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0

上段：件数 下段：%	のボ 就 支 援 機 器	拡 大 読 書 機 や キ ー ボ ー ド 支 援 機 器 な ど	援 点 字 に よ る 情 報 支 援	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	4 1.5	0 0.0	5 1.9	32 12.3	6 2.3	13 5.0	
肢体不自由	2 1.5	0 0.0	2 1.5	10 7.6	2 1.5	6 4.6	
視覚・聴覚・音声障害	2 5.0	0 0.0	1 2.5	3 7.5	3 7.5	3 7.5	
内部障害	0 0.0	0 0.0	2 2.5	18 22.8	0 0.0	2 2.5	
その他の身体障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

主たる障害別にみると、「生活できる十分な賃金」と「障害の程度・特性にあった仕事であること」は肢体不自由と視覚・聴覚・音声障害が多くなっている。「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」は肢体不自由と内部障害で3割台となっている。「周囲の方が障害を理解してくれること」は視覚・聴覚・音声障害で4割以上と他の障害に比べて多い。

【仕事による月収別】

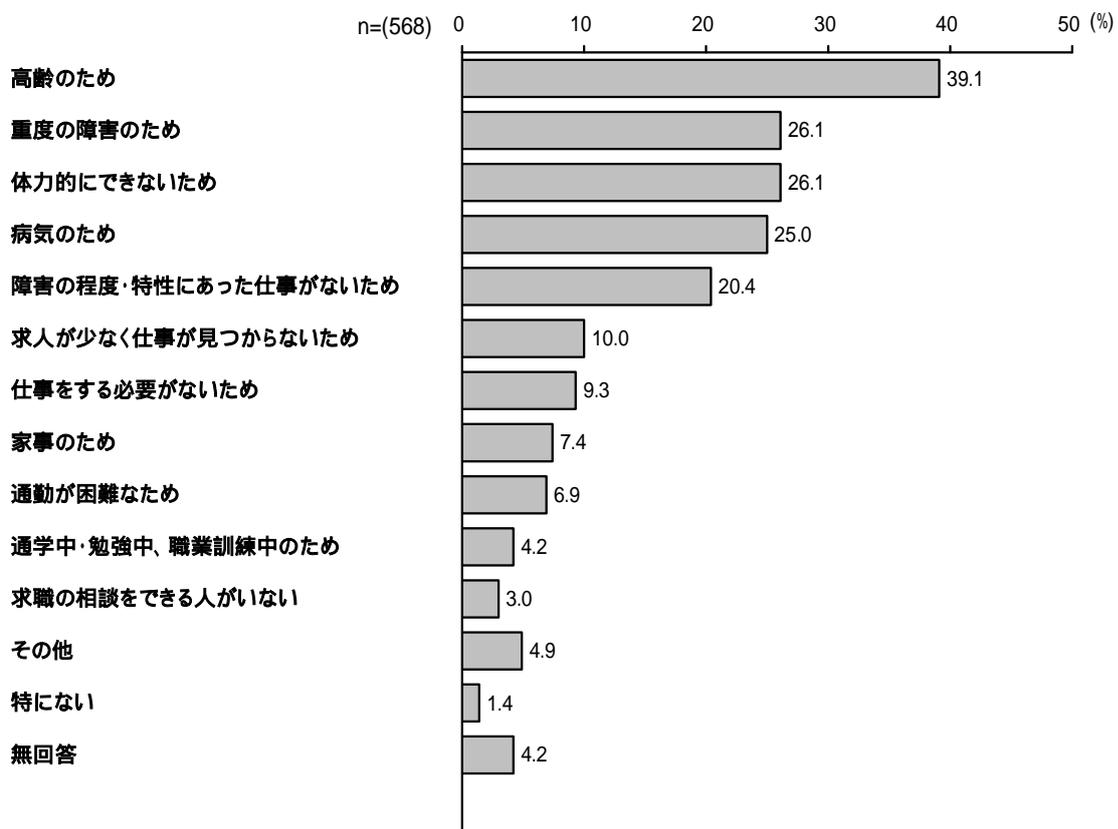
上段：件数 下段：%	調査数（n）	賃生活 金生活 できる 十分な	調整日 務日・勤 務時間 を調整 できる こと	と理周 解困の して方 が障害 を	るにあ つた程 度の障 害・特 殊な事 務であ る	福利厚 生の充 実	技術習 得	パソコン ・ネット などの インフ ルエンス	通勤の ための 支援	日常生 活の支 援	職場の バリア フリー 設備	支援 ジョブ コーチ 等の	手話通 訳や要 約筆 記サー ビス	職業訓 練（職 業リテ ラシー ）
全体	260 100.0	131 50.4	85 32.7	74 28.5	69 26.5	30 11.5	25 9.6	20 7.7	17 6.5	13 5.0	5 1.9	5 1.9	5 1.9	4 1.5
1万円未満	15 100.0	4 26.7	2 13.3	5 33.3	7 46.7	1 6.7	0 0.0	1 6.7	4 26.7	2 13.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
1万円以上～5万円未満	30 100.0	13 43.3	12 40.0	5 16.7	7 23.3	3 10.0	4 13.3	5 16.7	3 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
5万円以上～10万円未満	41 100.0	26 63.4	13 31.7	14 34.1	11 26.8	2 4.9	4 9.8	3 7.3	1 2.4	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4
10万円以上～15万円未満	43 100.0	26 60.5	7 16.3	11 25.6	8 18.6	5 11.6	5 11.6	2 4.7	2 4.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	4 9.3	2 4.7
15万円以上～20万円未満	31 100.0	15 48.4	12 38.7	11 35.5	11 35.5	7 22.6	4 12.9	1 3.2	2 6.5	1 3.2	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2
20万円以上～30万円未満	36 100.0	21 58.3	19 52.8	11 30.6	11 30.6	2 5.6	2 5.6	5 13.9	2 5.6	4 11.1	1 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30万円以上	52 100.0	19 36.5	17 32.7	13 25.0	14 26.9	9 17.3	6 11.5	2 3.8	2 3.8	3 5.8	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0

上段：件数 下段：%	のボ拡 就！大 ！ド読 支補書 援助器 機具や キなど	援点 字に による 情報支	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	4 1.5	0 0.0	5 1.9	32 12.3	6 2.3	13 5.0
1万円未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7
1万円以上～5万円未満	0 0.0	0 0.0	2 6.7	5 16.7	1 3.3	1 3.3
5万円以上～10万円未満	1 2.4	0 0.0	0 0.0	3 7.3	1 2.4	2 4.9
10万円以上～15万円未満	2 4.7	0 0.0	0 0.0	8 18.6	1 2.3	1 2.3
15万円以上～20万円未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2	2 6.5
20万円以上～30万円未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.6	0 0.0	1 2.8
30万円以上	1 1.9	0 0.0	3 5.8	12 23.1	0 0.0	3 5.8
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0

仕事による月収別にみると、いずれも「生活できる十分な賃金」が最も多いが、5万円以上～15万円未満と20万円以上～30万円未満では6割前後と多くなっている。また、20万円以上～30万円未満は「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」も5割以上と他に比べて多い。

問 28 問 26 において「2 仕事をしていない」を選択した方におたずねします。

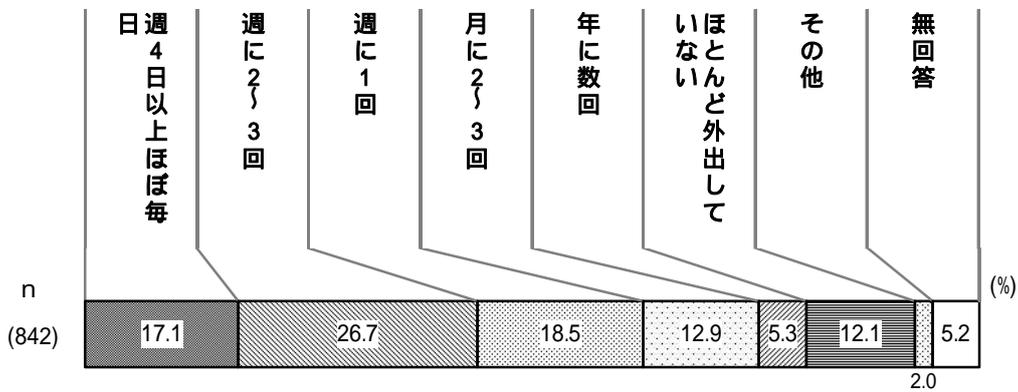
あなたが仕事をしていない理由は何ですか。( M A )



仕事をしていない理由については、「高齢のため」(39.1%)が最も多く、以下「重度の障害のため」、「体力的にできないため」(ともに26.1%)、「病気のため」(25.0%)、「障害の程度・特性にあった仕事がないため」(20.4%)となっている。

## 6 社会参加について

問 29 あなたはどの程度外出していますか（通勤、通学、通院、通所を除く）（SA）



外出頻度（通勤、通学、通院、通所を除く）については、「週に 2～3 回」（26.7%）が最も多く、以下「週に 1 回」（18.5%）「週 4 日以上ほぼ毎日」（17.1%）となっており、「週 1 回以上外出する」人は 62.3%を占めている。

### 【年齢別】

	調査数 (n)	週 4 日以上ほぼ毎日	週に 2 ~ 3 回	週に 1 回	月に 2 ~ 3 回	年に数回	いほとんど外出していない	その他	無回答
全体	842	144	225	156	109	45	102	17	44
	100.0	17.1	26.7	18.5	12.9	5.3	12.1	2.0	5.2
0～17歳	24	6	9	4	1	0	4	0	0
	100.0	25.0	37.5	16.7	4.2	0.0	16.7	0.0	0.0
18～29歳	32	10	10	4	4	1	3	0	0
	100.0	31.3	31.3	12.5	12.5	3.1	9.4	0.0	0.0
30～39歳	46	11	14	14	3	1	1	0	2
	100.0	23.9	30.4	30.4	6.5	2.2	2.2	0.0	4.3
40～49歳	86	13	25	22	10	4	8	1	3
	100.0	15.1	29.1	25.6	11.6	4.7	9.3	1.2	3.5
50～64歳	358	65	90	69	50	17	37	8	22
	100.0	18.2	25.1	19.3	14.0	4.7	10.3	2.2	6.1
65～74歳	129	24	42	21	14	8	13	1	6
	100.0	18.6	32.6	16.3	10.9	6.2	10.1	0.8	4.7
75歳以上	153	14	31	20	26	13	33	7	9
	100.0	9.2	20.3	13.1	17.0	8.5	21.6	4.6	5.9

年齢別にみると、いずれの年齢でも《週 1 回以上外出する》人は 6 割以上となっているが、75 歳以上では 4 割台と少なく、「ほとんど外出していない」が約 2 割となっている。

【障害の等級別】

	調査数 (n)	週4日以上 ほぼ毎日	週に2 〜 3回	週に1 回	月に2 〜 3回	年に数回	いほとんど 外出していな	その他	無回答
上段：件数 下段：%									
全体	842 100.0	144 17.1	225 26.7	156 18.5	109 12.9	45 5.3	102 12.1	17 2.0	44 5.2
1級	274 100.0	42 15.3	73 26.6	54 19.7	33 12.0	15 5.5	38 13.9	3 1.1	16 5.8
2級	155 100.0	17 11.0	35 22.6	38 24.5	19 12.3	15 9.7	24 15.5	2 1.3	5 3.2
3級	148 100.0	32 21.6	38 25.7	26 17.6	25 16.9	4 2.7	13 8.8	5 3.4	5 3.4
4級	139 100.0	25 18.0	41 29.5	21 15.1	24 17.3	6 4.3	9 6.5	5 3.6	8 5.8
5級	58 100.0	18 31.0	18 31.0	9 15.5	3 5.2	0 0.0	5 8.6	1 1.7	4 6.9
6級	35 100.0	5 14.3	15 42.9	6 17.1	2 5.7	2 5.7	3 8.6	0 0.0	2 5.7

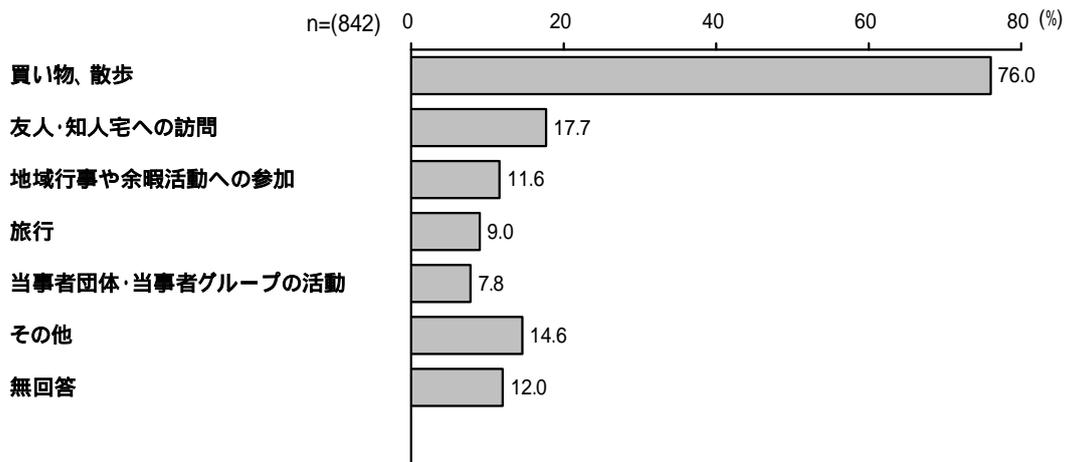
障害の等級別にみると、いずれの等級でも5〜7割が週1回以上外出しているが、1〜2級は「ほとんど外出していない」が1割台となっている。

【主たる障害別】

	調査数 (n)	週4日以上 ほぼ毎日	週に2 〜 3回	週に1 回	月に2 〜 3回	年に数回	いほとんど 外出していな	その他	無回答
上段：件数 下段：%									
全体	842 100.0	144 17.1	225 26.7	156 18.5	109 12.9	45 5.3	102 12.1	17 2.0	44 5.2
肢体不自由	431 100.0	60 13.9	110 25.5	84 19.5	52 12.1	24 5.6	69 16.0	11 2.6	21 4.9
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	25 21.2	29 24.6	22 18.6	14 11.9	6 5.1	17 14.4	0 0.0	5 4.2
内部障害	236 100.0	51 21.6	70 29.7	44 18.6	36 15.3	10 4.2	11 4.7	4 1.7	10 4.2
その他の身体障害	27 100.0	4 14.8	9 33.3	4 14.8	4 14.8	0 0.0	3 11.1	1 3.7	2 7.4

主たる障害別にみると、《週1回以上外出する》人は、肢体不自由では58.9%、視覚・聴覚・音声障害は64.4%、内部障害は69.9%となっている。一方、肢体不自由と視覚・聴覚・音声障害は「ほとんど外出していない」も1割台となっている。

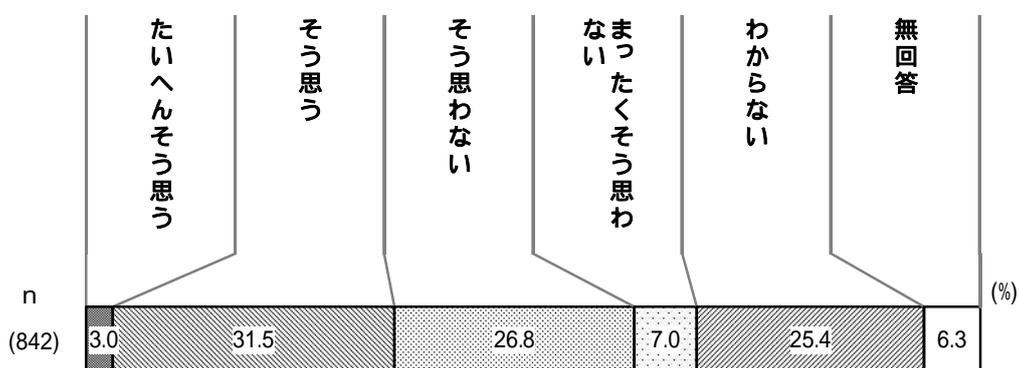
問 30 あなたの主な外出の目的は何ですか（通勤、通学、通院、通所を除く）。（M A）



外出の主な目的については、「買い物、散歩」(76.0%)が最も多く、以下「友人・知人宅への訪問」(17.7%)となっている。

なお、「その他」は14.6%となっており、その内容として、趣味や習い事、運動のためなどの理由があげられている。

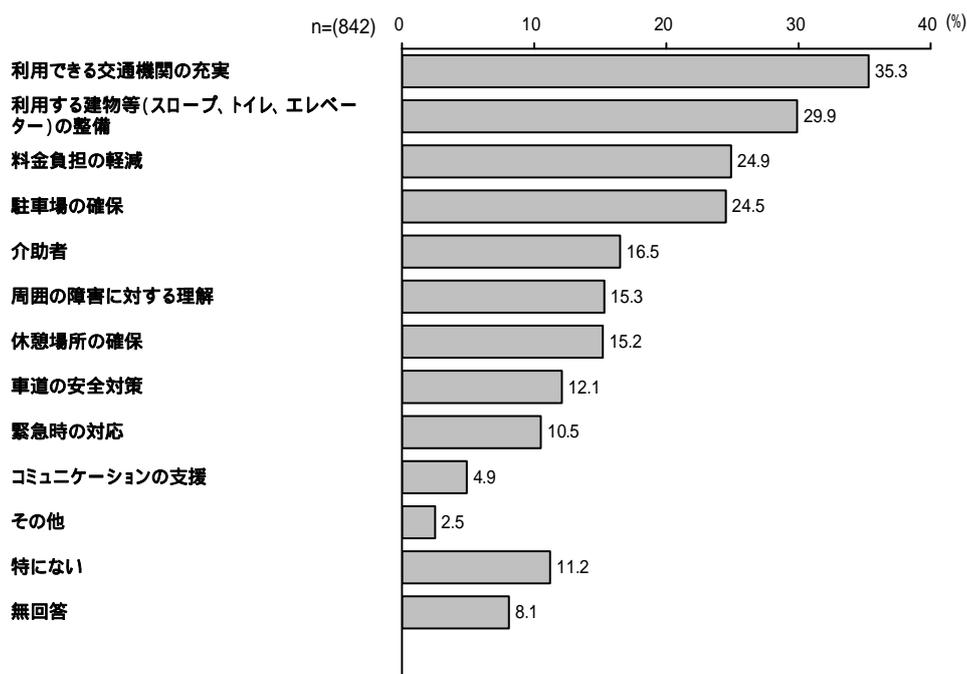
問 31 年々、外出しやすい環境が整ってきていると思いますか。（S A）



年々、外出しやすい環境が整ってきているかについては、「そう思う」(31.5%)が最も多く、「たいへんそう思う」(3.0%)を合わせた《外出しやすい環境に整ってきたと思う》人は34.5%となっている。

一方、「そう思わない」(26.8%)と「まったくそう思わない」(7.0%)を合わせた《外出しやすい環境に整ってきたと思わない》人は33.8%とほぼ同率となっている。

問 32 あなたがより外出しやすくなるためには何が必要ですか。(MA)



より外出しやすくなるために必要なことについては、「利用できる交通機関の充実」(35.3%)が最も多く、以下「利用する建物等(スロープ、トイレ、エレベーター)の整備」(29.9%)、「料金負担の軽減」(24.9%)、「駐車場の確保」(24.5%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n)	利用できる交通機関の充実	利用する建物等(スロープ、トイレ、エレベーター)の整備	料金負担の軽減	駐車場の確保	介助者	周囲の障害に対する理解	休憩場所の確保	車道の安全対策	緊急時の対応	コミュニケーションの支援	その他	特になし	無回答
全体	297 35.3	252 29.9	210 24.9	206 24.5	139 16.5	129 15.3	128 15.2	102 12.1	88 10.5	41 4.9	21 2.5	94 11.2	68 8.1
0~17歳	6 25.0	8 33.3	8 33.3	7 29.2	5 20.8	11 45.8	4 16.7	1 4.2	2 8.3	5 20.8	0 0.0	2 8.3	1 4.2
18~29歳	17 53.1	13 40.6	11 34.4	11 34.4	7 21.9	10 31.3	5 15.6	3 9.4	5 15.6	2 6.3	2 6.3	1 3.1	0 0.0
30~39歳	15 32.6	11 23.9	14 30.4	18 39.1	4 8.7	9 19.6	7 15.2	4 8.7	8 17.4	4 8.7	2 4.3	8 17.4	2 4.3
40~49歳	30 34.9	35 40.7	26 30.2	24 27.9	19 22.1	21 24.4	12 14.0	12 14.0	8 9.3	6 7.0	3 3.5	5 5.8	3 3.5
50~64歳	129 36.0	101 28.2	92 25.7	94 26.3	38 10.6	50 14.0	53 14.8	44 12.3	35 9.8	16 4.5	8 2.2	40 11.2	34 9.5
65~74歳	47 36.4	39 30.2	33 25.6	31 24.0	20 15.5	10 7.8	23 17.8	17 13.2	12 9.3	6 4.7	3 2.3	9 7.0	10 7.8
75歳以上	47 30.7	39 25.5	21 13.7	21 13.7	44 28.8	14 9.2	21 13.7	16 10.5	17 11.1	2 1.3	3 2.0	29 19.0	16 10.5

年齢別にみると、0~17歳では「周囲の障害に対する理解」、30~39歳は「駐車場の確保」、40~49歳は「利用する建物等(スロープ、トイレ、エレベーター)の整備」が最も多く、それ以外では「利用できる交通機関の充実」が最も多い。75歳以上はそれに加えて「介助者」も28.8%と多くなっている。

【障害の等級別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	利用 できる 交通機 関の 充実	利用 する 建物等 (ス ロープ、 トイレ、 エレベ ーター) の整 備工 ス	料 金負 担の 軽減	駐 車場 の確 保	介 助者	理 周 解 の障 害に 対す る	休 憩場 所の 確保	車 道 の安 全対 策	緊 急時 の対 応	コ ミュ ニケ ーシ ョン の支 援	そ の他	特 に な い	無 回 答
全体 842 100.0	297 35.3	252 29.9	210 24.9	206 24.5	139 16.5	129 15.3	128 15.2	102 12.1	88 10.5	41 4.9	21 2.5	94 11.2	68 8.1
1級 274 100.0	84 30.7	83 30.3	64 23.4	70 25.5	63 23.0	42 15.3	36 13.1	38 13.9	41 15.0	12 4.4	8 2.9	29 10.6	20 7.3
2級 155 100.0	52 33.5	48 31.0	36 23.2	37 23.9	38 24.5	31 20.0	22 14.2	15 9.7	20 12.9	9 5.8	5 3.2	11 7.1	15 9.7
3級 148 100.0	58 39.2	40 27.0	38 25.7	37 25.0	12 8.1	22 14.9	23 15.5	21 14.2	12 8.1	8 5.4	3 2.0	18 12.2	12 8.1
4級 139 100.0	56 40.3	53 38.1	34 24.5	37 26.6	11 7.9	13 9.4	25 18.0	14 10.1	8 5.8	6 4.3	4 2.9	15 10.8	9 6.5
5級 58 100.0	26 44.8	15 25.9	17 29.3	17 29.3	6 10.3	11 19.0	14 24.1	8 13.8	3 5.2	0 0.0	0 0.0	8 13.8	3 5.2
6級 35 100.0	11 31.4	5 14.3	14 40.0	7 20.0	3 8.6	6 17.1	3 8.6	3 8.6	1 2.9	5 14.3	1 2.9	9 25.7	2 5.7

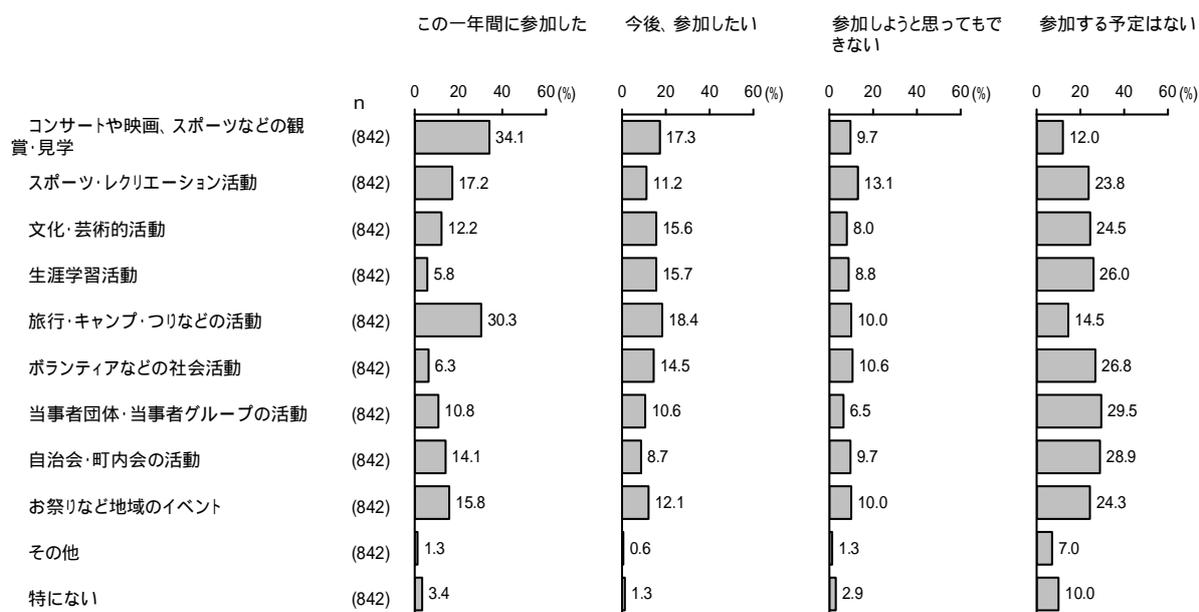
障害の等級別にみると、おおむね等級が軽くなるにしたがって「利用できる交通機関の充実」が多くなっている。1～2級では「介助者」や「緊急時の対応」を必要としている人が多い。

【主たる障害別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	利用 できる 交通機 関の 充実	利用 する 建物等 (ス ロープ、 トイレ、 エレベ ーター) の整 備工 ス	料 金負 担の 軽減	駐 車場 の確 保	介 助者	理 周 解 の障 害に 対す る	休 憩場 所の 確保	車 道 の安 全対 策	緊 急時 の対 応	コ ミュ ニケ ーシ ョン の支 援	そ の他	特 に な い	無 回 答
全体 842 100.0	297 35.3	252 29.9	210 24.9	206 24.5	139 16.5	129 15.3	128 15.2	102 12.1	88 10.5	41 4.9	21 2.5	94 11.2	68 8.1
肢体不自由 431 100.0	148 34.3	167 38.7	101 23.4	124 28.8	86 20.0	64 14.8	68 15.8	47 10.9	37 8.6	12 2.8	12 2.8	36 8.4	31 7.2
視覚・聴覚・音声障害 118 100.0	39 33.1	19 16.1	34 28.8	21 17.8	21 17.8	30 25.4	10 8.5	20 16.9	16 13.6	16 13.6	4 3.4	16 13.6	8 6.8
内部障害 236 100.0	87 36.9	50 21.2	61 25.8	52 22.0	20 8.5	28 11.9	41 17.4	32 13.6	28 11.9	11 4.7	5 2.1	35 14.8	20 8.5
その他の身体障害 27 100.0	12 44.4	7 25.9	5 18.5	4 14.8	7 25.9	3 11.1	4 14.8	0 0.0	3 11.1	2 7.4	0 0.0	5 18.5	3 11.1

主たる障害別にみると、肢体不自由では「利用する建物等（スロープ、トイレ、エレベーター）の整備」、「駐車場の確保」、視覚・聴覚・音声障害は「周囲の障害に対する理解」、「コミュニケーションの支援」が他の障害に比べて多くなっている。

問 33 あなたは過去一年間に、余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などをしましたか。  
また、今後どのような活動をしたいと思いますか。(MA)



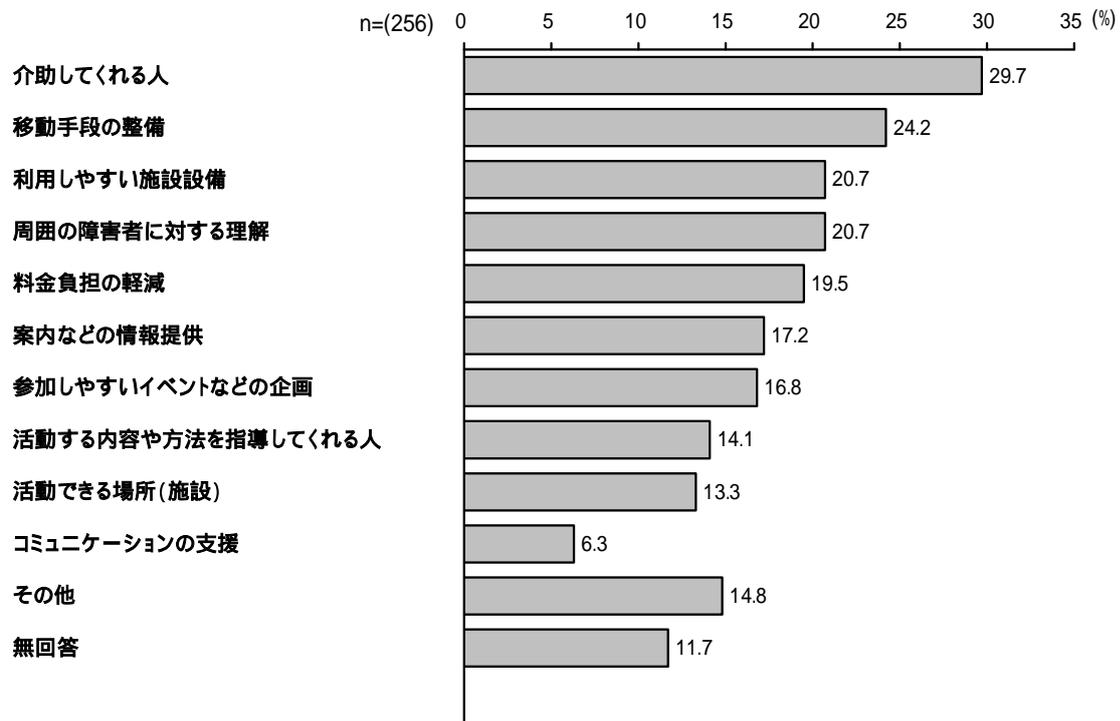
過去一年間に参加した（参加したい）余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動については、「この一年間に参加した」活動は、『コンサートや映画、スポーツなどの観賞・見学』（34.1%）と『旅行・キャンプ・つりなどの活動』（30.3%）が多くなっている。

「今後、参加したい」活動は、『コンサートや映画、スポーツなどの観賞・見学』（17.3%）、『文化・芸術的活動』（15.6%）、『生涯学習活動』（15.7%）、『旅行・キャンプ・つりなどの活動』（18.4%）、『ボランティアなどの社会活動』（14.5%）が他の項目に比べてやや多くなっている。

「参加しようと思ってもできない」活動は、『スポーツ・レクリエーション活動』（13.1%）が他の項目に比べてやや多くなっている。

「参加する予定はない」活動は、『生涯学習活動』（26.0%）、『ボランティアなどの社会活動』（26.8%）、『当事者団体・当事者グループの活動』（29.5%）、『自治会・町内会の活動』（28.9%）が多くなっている。

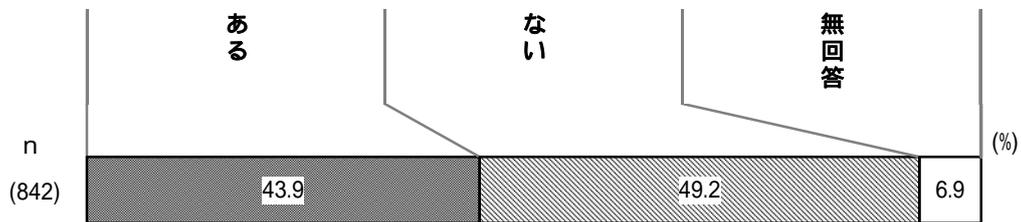
問 34 問 33 において「3 参加しようと思ってもできない」を選択した方におたずねします。  
 参加するためには何が重要だと思いますか。( M A )



参加できない人が参加するために必要なことについては、「介助してくれる人」(29.7%)が最も多く、以下「移動手段の整備」(24.2%)、「利用しやすい施設設備」、「周囲の障害者に対する理解」(ともに20.7%)、「料金負担の軽減」(19.5%)となっている。

## 7 健康・医療について

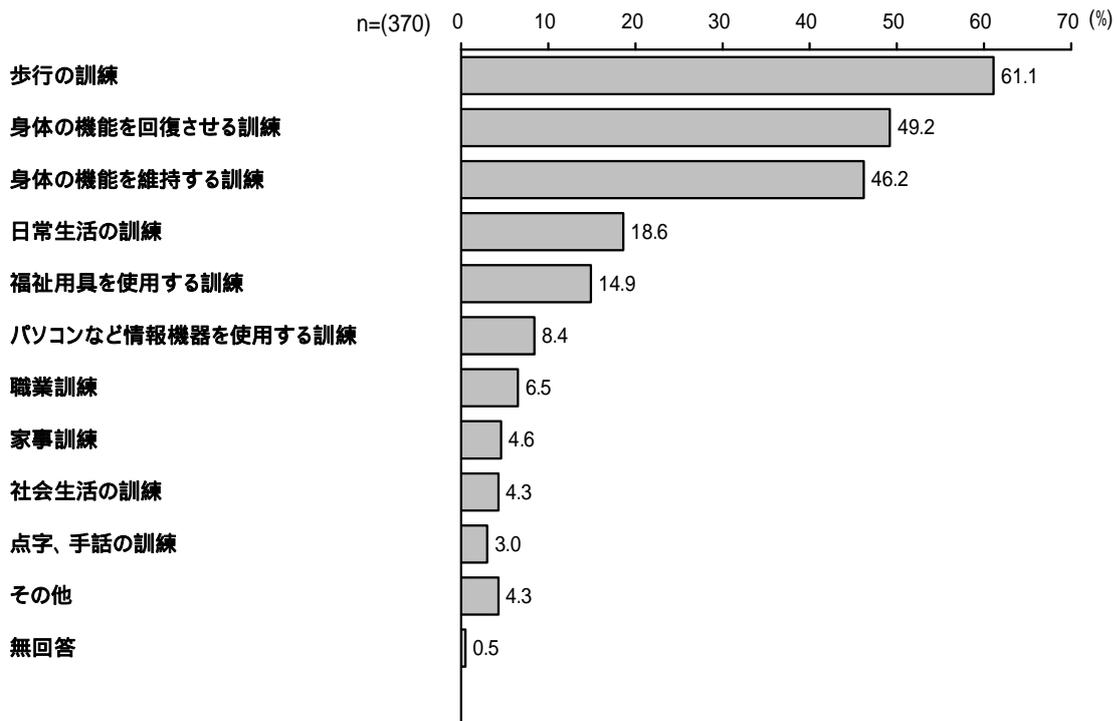
問 35 各種訓練やリハビリテーションを受けたことがありますか。( S A )



各種訓練やリハビリテーションを受けたことの有無については、各種訓練、リハビリテーションを受けたことがある人は 43.9%、各種訓練、リハビリテーションを受けたことがない人は 49.2% となっている。

問 36 問 35 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

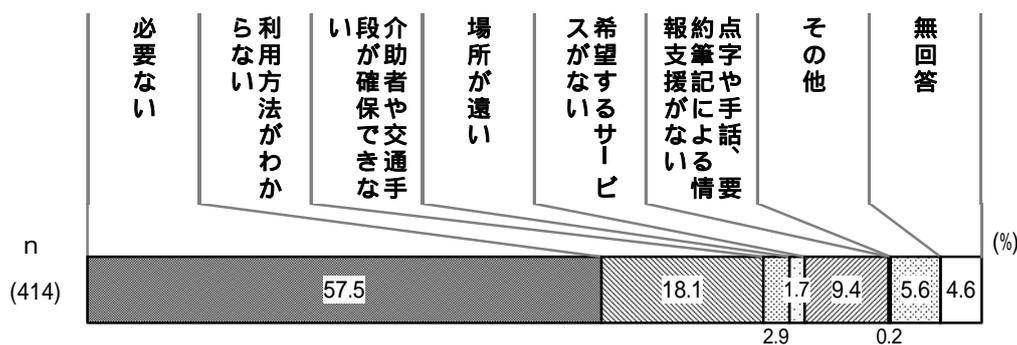
どのような訓練やリハビリテーションを受けましたか。( M A )



受けた訓練やリハビリテーションについては、「歩行の訓練」( 61.1% ) が最も多く、以下「身体の機能を回復させる訓練」( 49.2% )、「身体の機能を維持する訓練」( 46.2% ) となっている。

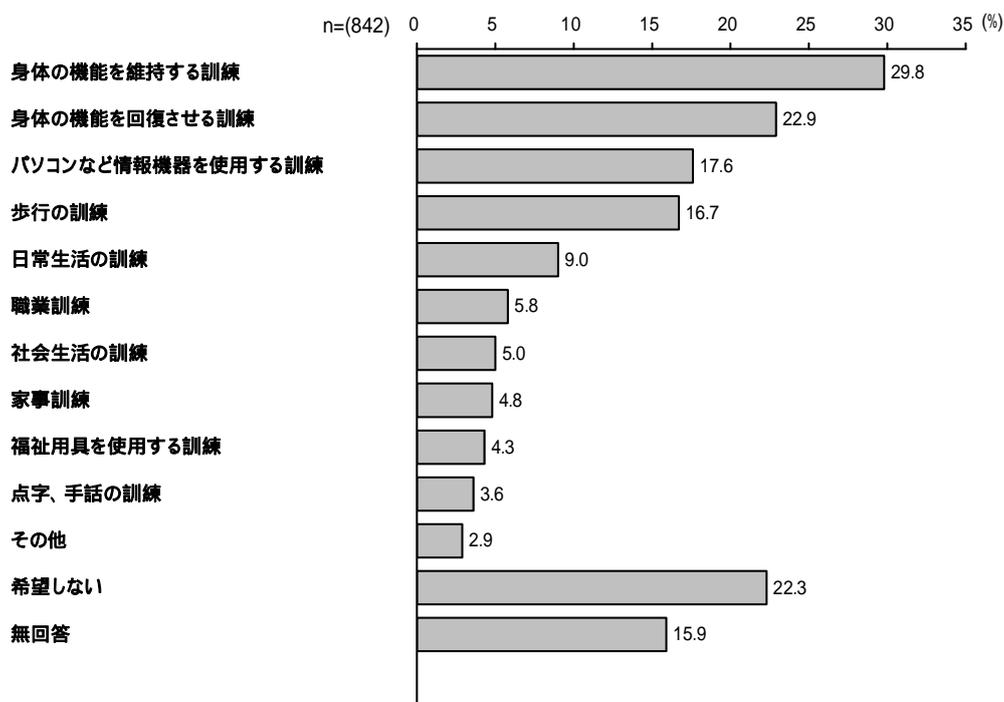
問 37 問 35 において「2 ない」を選択した方におたずねします。

各種訓練やリハビリテーションを受けたことがない理由は何ですか。( S A )



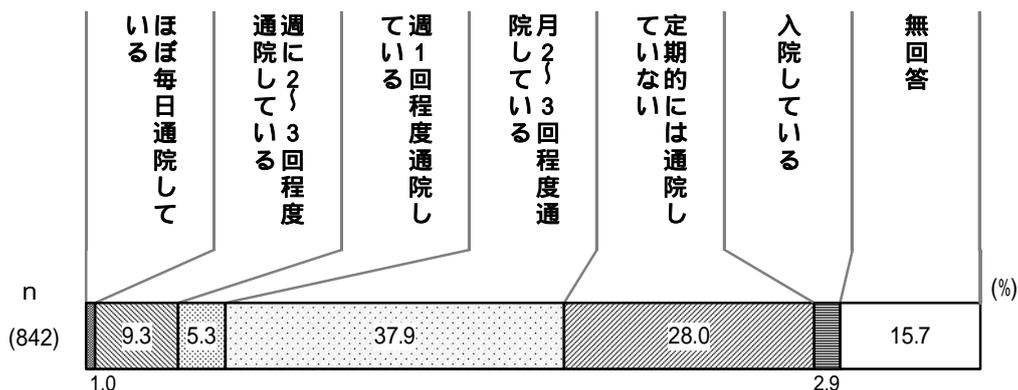
各種訓練やリハビリテーションを受けたことがない理由については、「必要ない」(57.5%)が最も多く、以下「利用方法がわからない」(18.1%)、「希望するサービスがない」(9.4%)となっている。

問 38 今後、日常生活または社会生活を営む上で、どのような訓練やリハビリテーションを受けたいと思いますか。( M A )



受けたい訓練やリハビリテーションについては、「身体の機能を維持する訓練」(29.8%)が最も多く、以下「身体の機能を回復させる訓練」(22.9%)、「パソコンなど情報機器を使用する訓練」(17.6%)、「歩行の訓練」(16.7%)となっている。

問 39 普段、定期的に通院していますか。( S A )

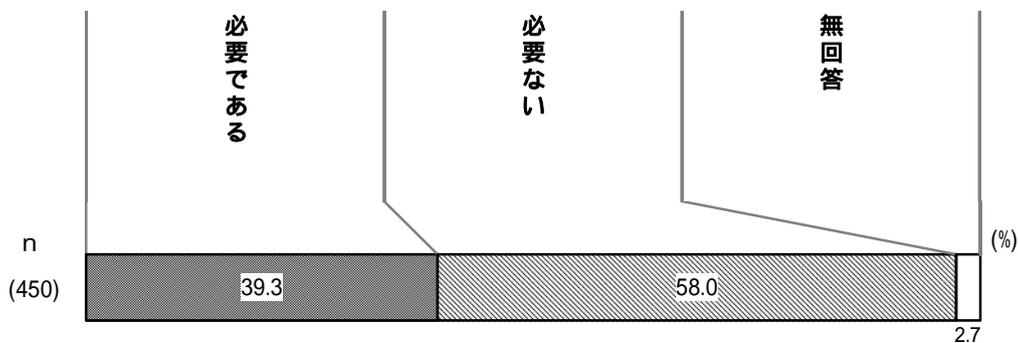


定期的通院の有無については、「月2~3回程度通院している」(37.9%)が最も多く、「ほぼ毎日通院している」(1.0%)、「週に2~3回程度通院している」(9.3%)、「週1回程度通院している」(5.3%)を合わせた《通院している》人は53.5%となっている。

一方、「定期的には通院していない」は28.0%となっている。

問 40 問 39 において「1 ほぼ毎日通院している」、「2 週に2~3回程度通院している」、「3 週1回程度通院している」、「4 月2~3回程度通院している」のいずれかを選択した方におたずねします。

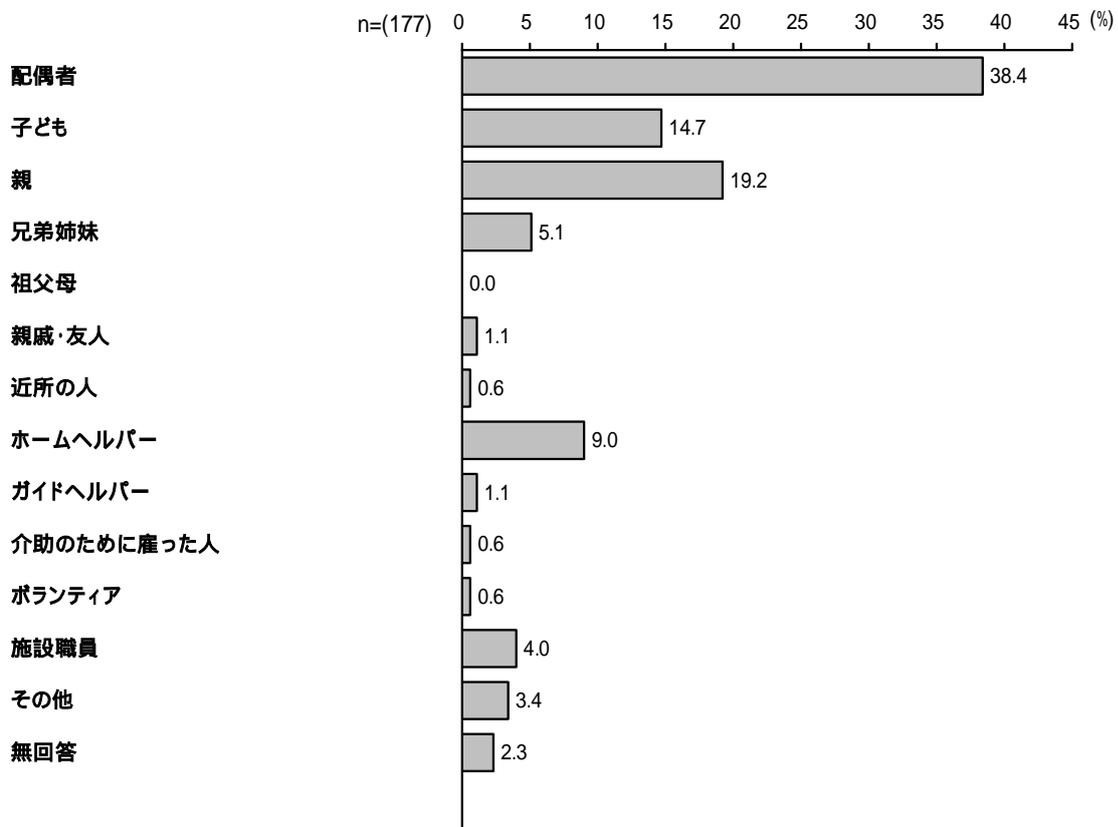
通院の際に介助は必要ですか。( S A )



通院の際の介助の必要性については、介助の必要がない人が58.0%と最も多いが、介助が必要である人も39.3%となっている。

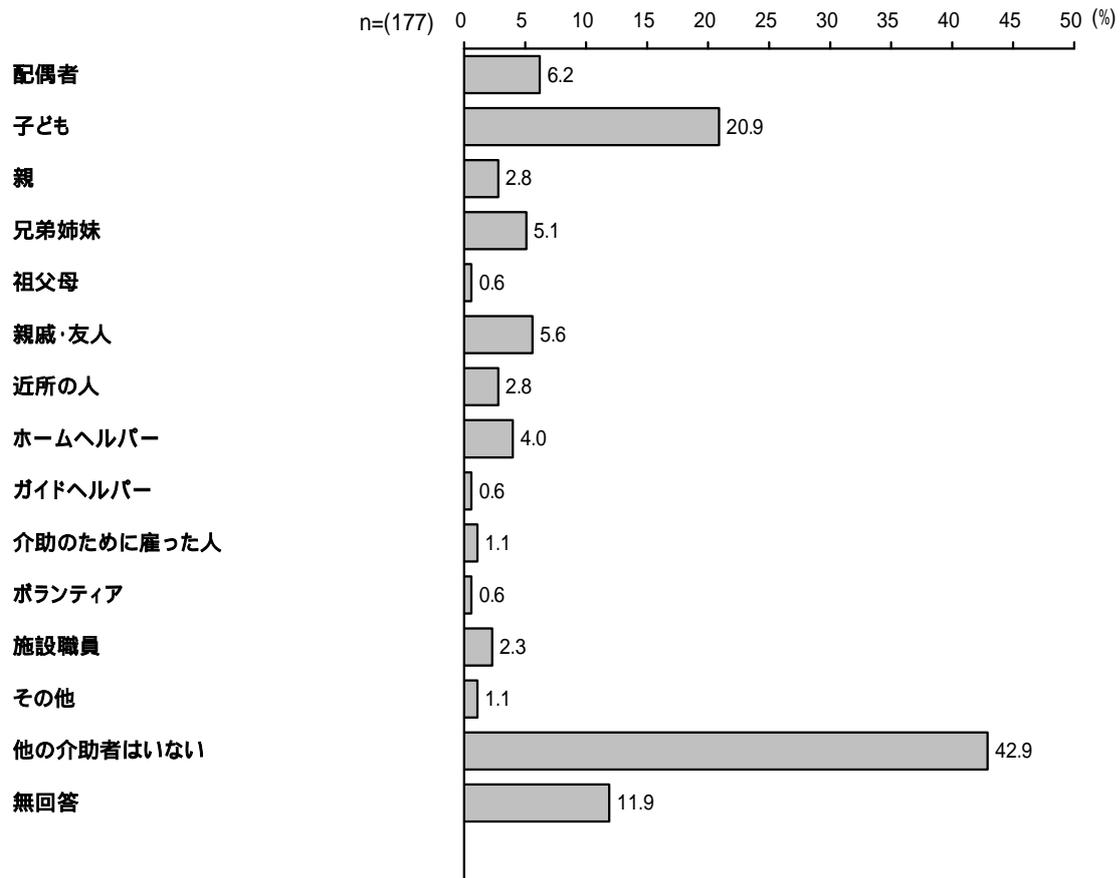
問 41 問 40 において「1 必要である」を選択した方におたずねします。

(1) 主な介助者は誰ですか。( S A )



通院の際の主な介助者については、「配偶者」(38.4%)が最も多く、以下「親」(19.2%)、「子ども」(14.7%)、「ホームヘルパー」(9.0%)、「兄弟姉妹」(5.1%)となっている。

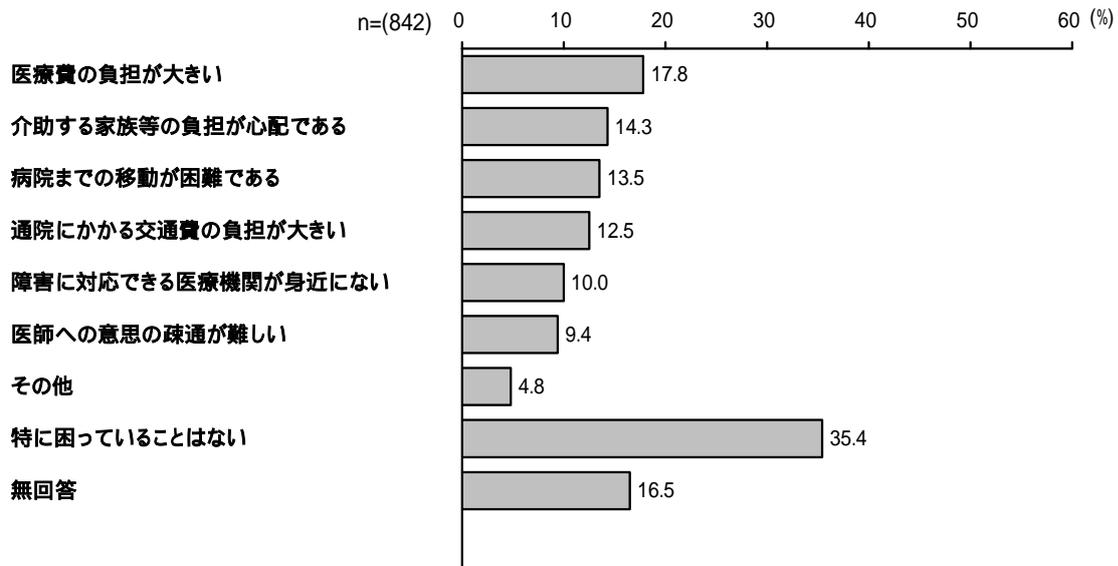
(2)(1) 以外に介助者はいますか。( M A )



通院の際の主な介助者以外の介助者については、「子ども」(20.9%)、「配偶者」(6.2%)、「親戚・友人」(5.6%)、「兄弟姉妹」(5.1%) などとなっている。

なお、「他の介助者はいない」は42.9%となっている。

問 42 医療機関を利用する際に困っていることは何ですか。( M A )

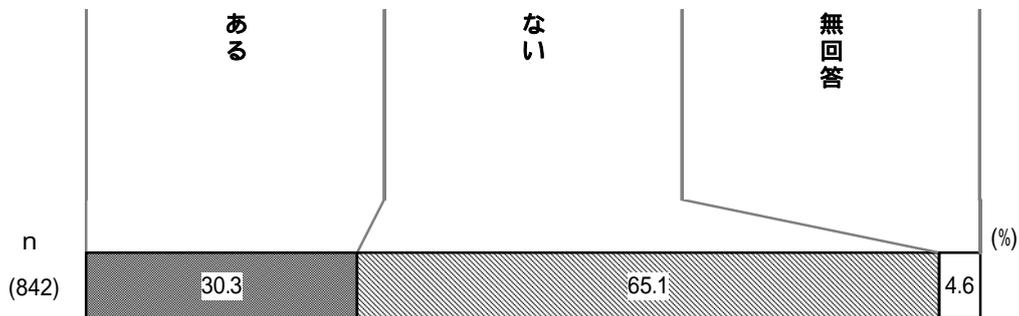


医療機関を利用する際に困っていることについては、「医療費の負担が大きい」(17.8%)が最も多く、以下「介助する家族等の負担が心配である」(14.3%)、「病院までの移動が困難である」(13.5%)、「通院にかかる交通費の負担が大きい」(12.5%)となっている。

なお、「特に困っていることはない」は35.4%となっている。

## 8 福祉サービスについて

問 43 あなたは障害者の福祉サービスを利用したことがありますか。( S A )



障害者の福祉サービス利用の有無については、利用したことがある人は30.3%となっており、一方、利用したことがない人は65.1%となっている。

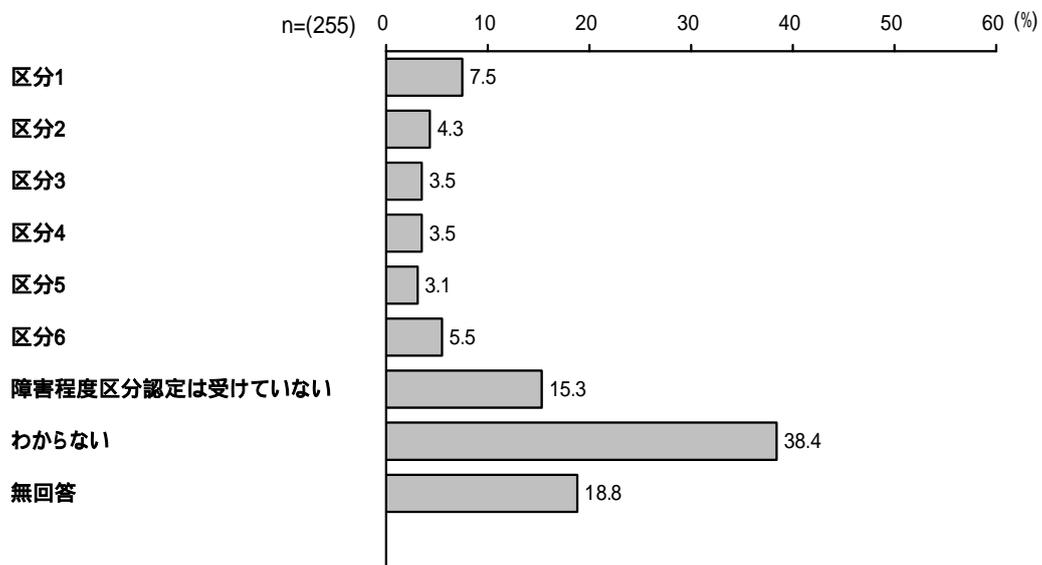
【年齢別】

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
上段：件数 下段：%				
全体	842 100.0	255 30.3	548 65.1	39 4.6
0～17歳	24 100.0	16 66.7	7 29.2	1 4.2
18～29歳	32 100.0	16 50.0	15 46.9	1 3.1
30～39歳	46 100.0	21 45.7	23 50.0	2 4.3
40～49歳	86 100.0	27 31.4	58 67.4	1 1.2
50～64歳	358 100.0	92 25.7	254 70.9	12 3.4
65～74歳	129 100.0	30 23.3	92 71.3	7 5.4
75歳以上	153 100.0	46 30.1	92 60.1	15 9.8

年齢別にみると、30歳以上では利用したことがない人が半数以上だが、29歳以下では半数以上が利用したことがあると回答している。

問 44 問 43 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

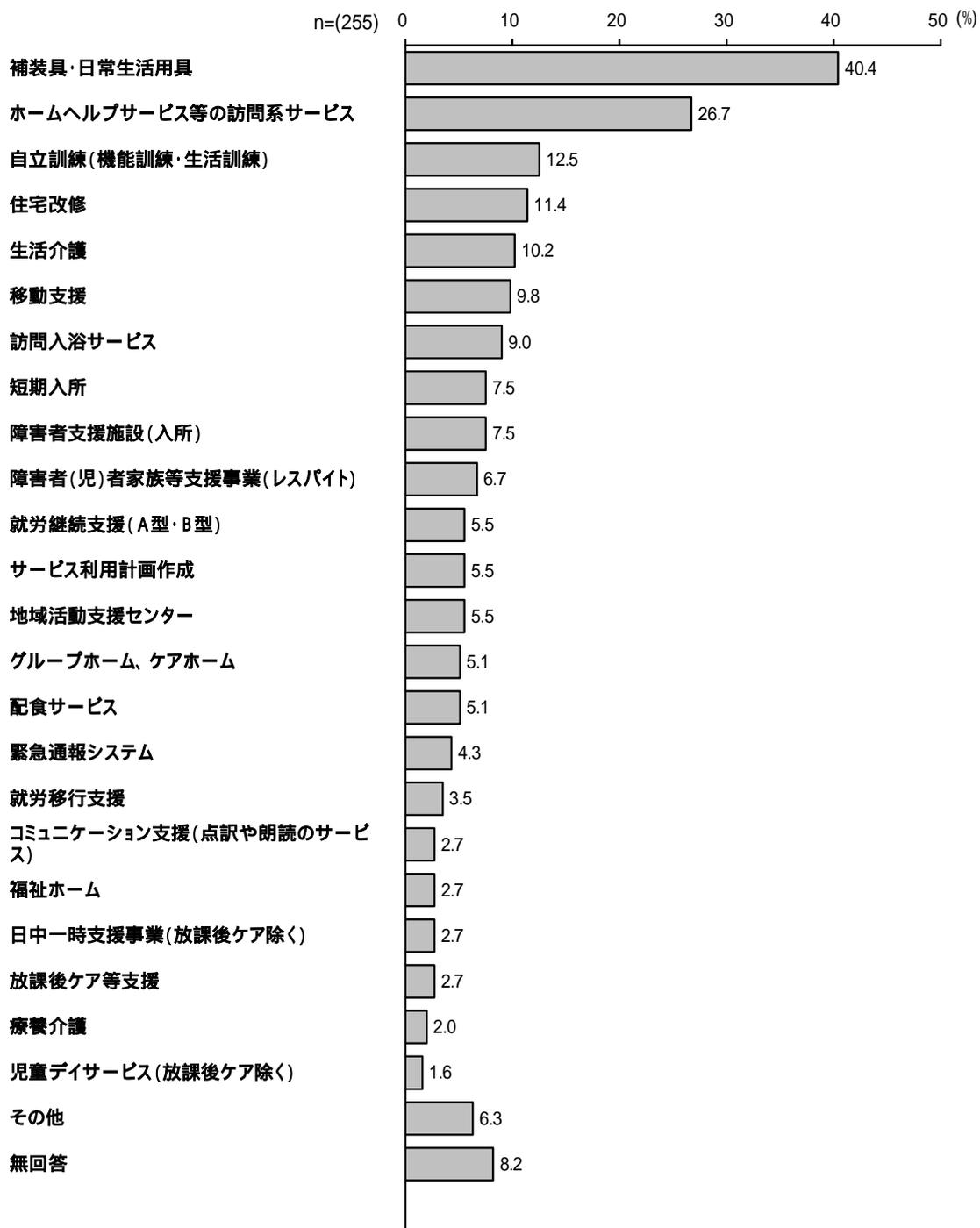
(1) あなたはサービスを利用するための、障害程度区分認定を受けていますか。( S A )



サービスを利用するための障害程度区分認定の有無については、障害程度区分の認定を受けている人では「区分1」(7.5%)が他の区分よりやや多くなっている。

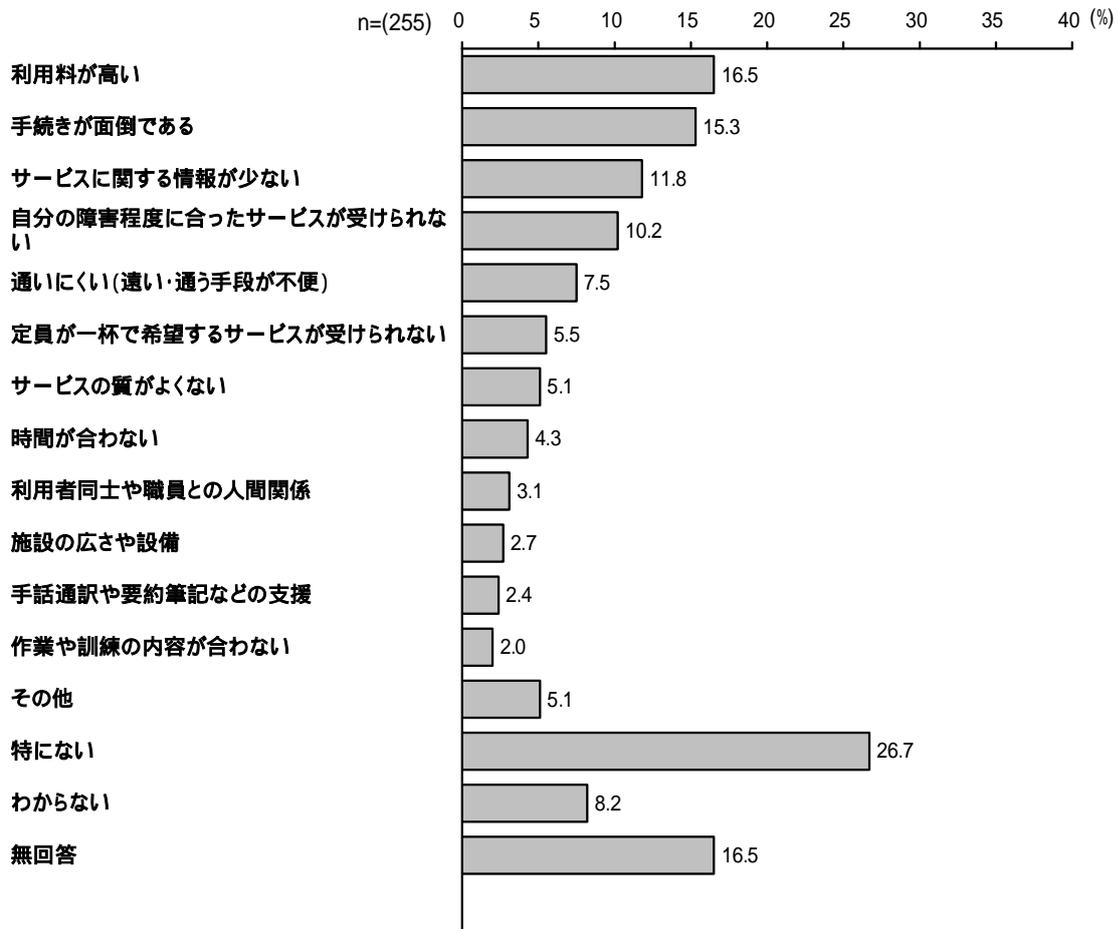
一方、障害程度区分認定は受けていない人は15.3%となっており、「わからない」も38.4%となっている。

(2) これまでにどのような福祉サービスを利用したことがありますか。(M A)



これまでに利用した福祉サービスについては、「補装具・日常生活用具」(40.4%)が最も多く、以下「ホームヘルプサービス等の訪問系サービス」(26.7%)、「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(12.5%)、「住宅改修」(11.4%)、「生活介護」(10.2%)、「移動支援」(9.8%)となっている。

(3) 福祉サービスを利用するにあたって不自由していることは何ですか。(MA)

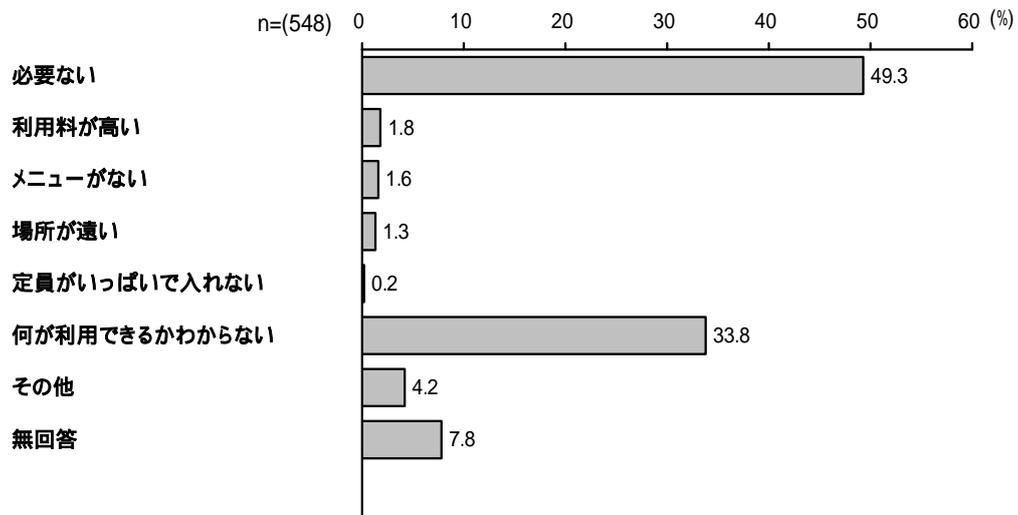


福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「利用料が高い」(16.5%)、「手続きが面倒である」(15.3%)が多く、以下「サービスに関する情報が少ない」(11.8%)、「自分の障害程度に合ったサービスが受けられない」(10.2%)となっている。

なお、「特になし」は26.7%となっている。

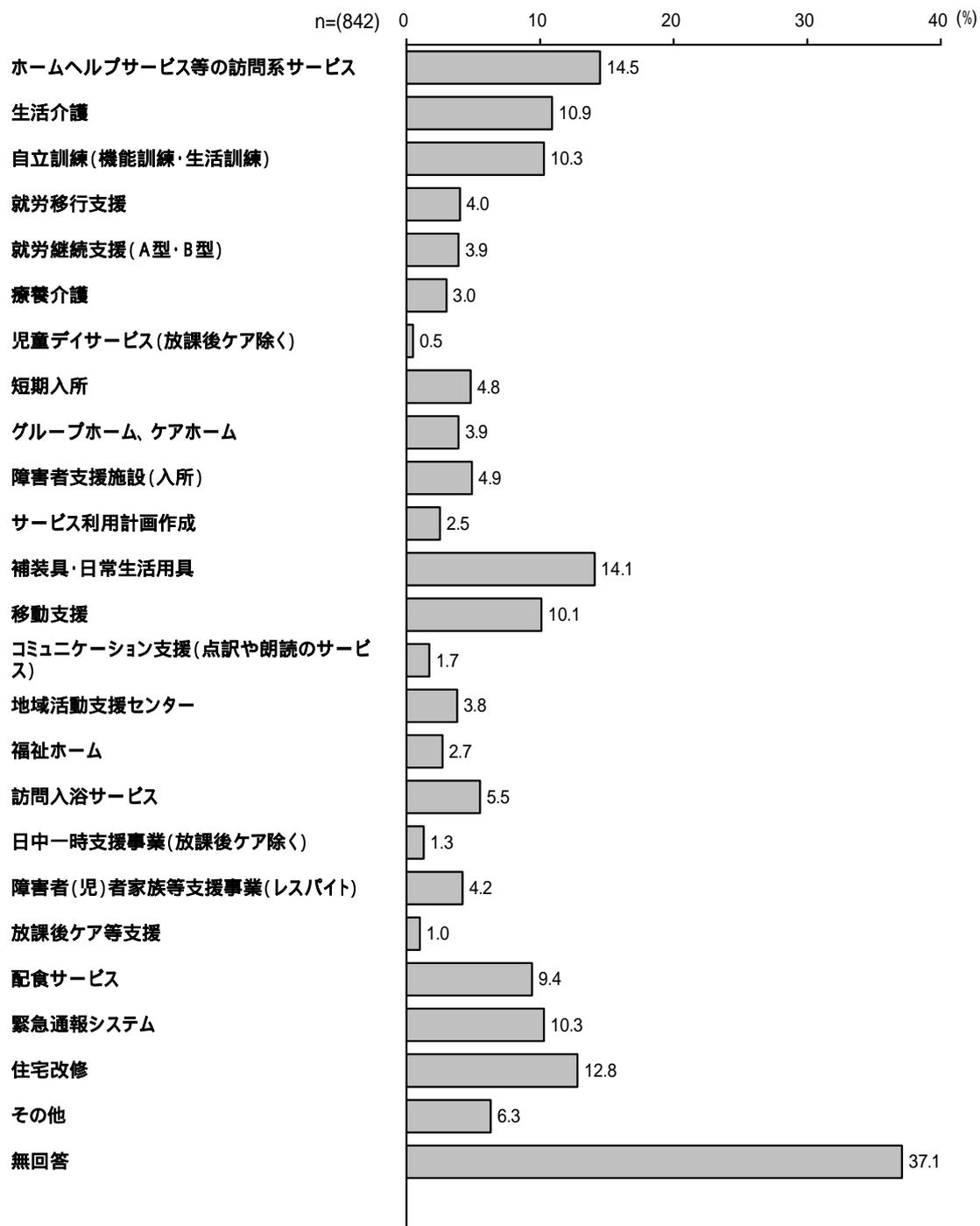
問 45 問 43 において「2 ない」を選択した方におたずねします。

利用したことがない理由は何ですか。( S A )



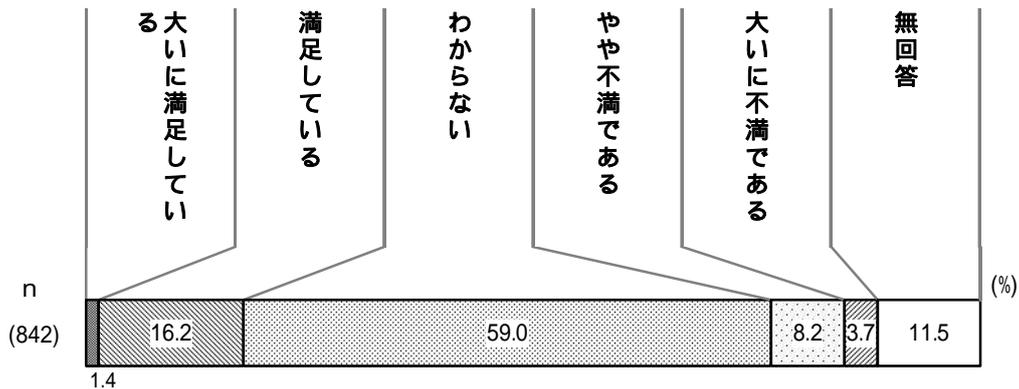
福祉サービスを利用しない理由については、「必要ない」(49.3%)が最も多く、以下「何が利用できるかわからない」(33.8%)となっている。

問 46 今後、あなたが利用したいと思う福祉サービスは何ですか。( M A )



今後、利用したいと思う福祉サービスについては、「ホームヘルプサービス等の訪問系サービス」(14.5%)、「補装具・日常生活用具」(14.1%)が多く、以下「住宅改修」(12.8%)となっている。

問 47 現在、あなたは仙台市にある障害者の福祉サービスに満足していますか。( S A )

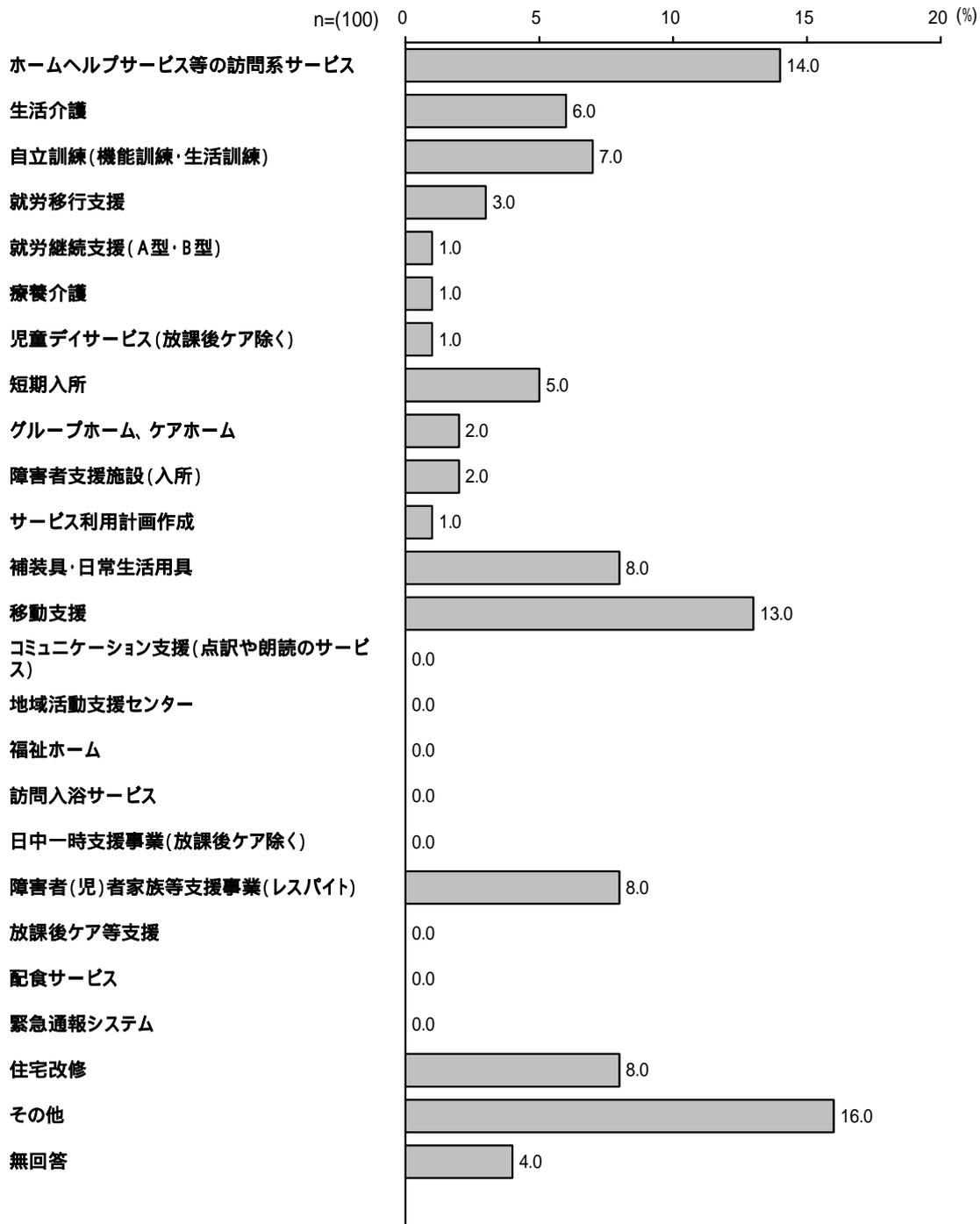


障害者の福祉サービスの満足度については、「大いに満足している」(1.4%)と「満足している」(16.2%)を合わせた《満足している》人は17.6%で、一方、「やや不満である」(8.2%)と「大いに不満である」(3.7%)を合わせた《不満である》人も11.9%となっている。

なお、「わからない」は59.0%を占めている。

問 48 問 47 において「4 やや不満である」または「5 大いに不満である」を選択した方にお  
たずねします。

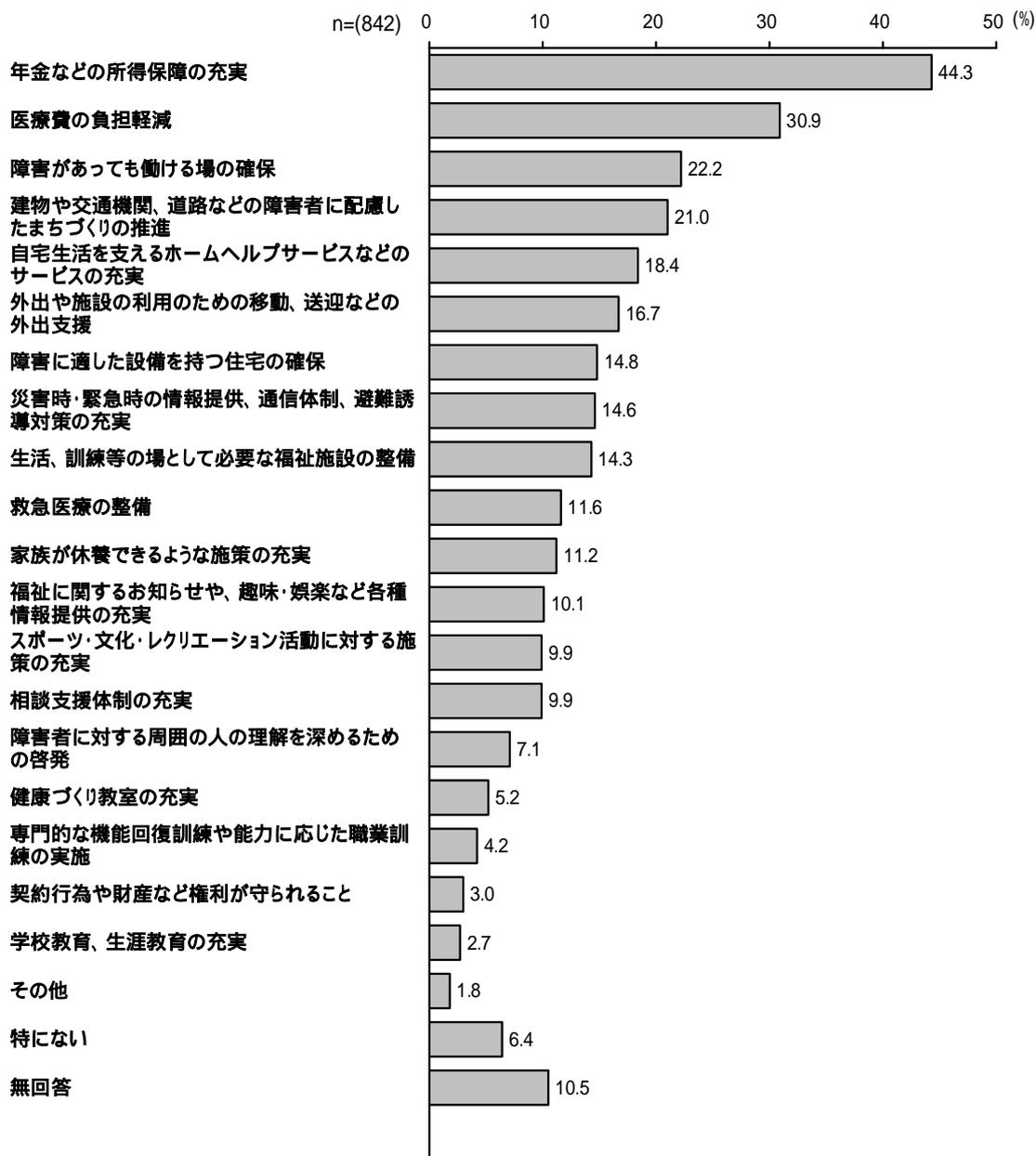
特にどのような福祉サービスに不満を感じていますか。( S A )



特に不満を感じる福祉サービスについては、「ホームヘルプサービス等の訪問系サービス」(14.0%)、「移動支援」(13.0%)が多くなっている。

なお、「その他」は16.0%となっており、その内容として、個々のサービスについての不満ではなく、サービスの情報不足や利用制限などのサービス全体を通しての理由があげられている。

問 49 あなたが今後充実してほしい施策は何ですか。( M A )



今後充実してほしい施策については、「年金などの所得保障の充実」(44.3%)が最も多く、以下「医療費の負担軽減」(30.9%)、「障害があっても働ける場の確保」(22.2%)、「建物や交通機関、道路などの障害者に配慮したまちづくりの推進」(21.0%)となっている。

【障害の等級別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	年金などの所得保障の充実	医療費の負担軽減	障害があっても働ける場の確保	たまたまの障害者に配慮したまちづくりの推進	建物や交通機関、道路などの整備	ヘルプサービスの充実	自宅生活を支えるサービスの充実	外出支援、送迎などのための移動、送迎などのための外出支援	障害に適切な設備を持つ住宅の確保	災害時・緊急時の情報提供、通信体制の充実に備える	災害時・緊急時の情報提供、通信体制の充実に備える	生活、訓練等の場の整備	救急医療の整備	家族が休養できるような施設の充実	種や趣味・娯楽など各種情報提供の充実	福祉に関するお知らせ	スポーツ・文化活動に対する施策の充実
全体	842 100.0	373 44.3	260 30.9	187 22.2	177 21.0	155 18.4	141 16.7	125 14.8	123 14.6	120 14.3	98 11.6	94 11.2	85 10.1	83 9.9	27 9.9	23 8.4	9 5.8
1級	274 100.0	127 46.4	77 28.1	48 17.5	55 20.1	58 21.2	56 20.4	39 14.2	51 18.6	36 13.1	37 13.5	44 16.1	27 9.9	23 8.4	9 5.8	5.8	9.9
2級	155 100.0	74 47.7	36 23.2	45 29.0	38 24.5	18 11.6	36 23.2	34 21.9	24 15.5	29 18.7	18 11.6	16 10.3	12 7.7	9 5.8	5.8	9.9	9.9
3級	148 100.0	60 40.5	50 33.8	42 28.4	24 16.2	33 22.3	11 7.4	25 16.9	17 11.5	18 12.2	16 10.8	7 4.7	16 10.8	18 12.2	13 9.4	14 10.1	13 9.4
4級	139 100.0	58 41.7	50 36.0	30 21.6	32 23.0	30 21.6	16 11.5	16 11.5	16 11.5	15 10.8	15 10.8	14 10.1	14 10.1	13 9.4	13 9.4	13 9.4	13 9.4
5級	58 100.0	25 43.1	22 37.9	10 17.2	14 24.1	5 8.6	9 15.5	5 8.6	10 17.2	11 19.0	6 10.3	3 5.2	3 5.2	11 19.0	13 22.4	13 22.4	13 22.4
6級	35 100.0	15 42.9	14 40.0	10 28.6	10 28.6	5 14.3	6 17.1	5 14.3	1 2.9	5 14.3	4 11.4	7 20.0	4 11.4	4 11.4	4 11.4	4 11.4	4 11.4

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	相談支援体制の充実	障害者に対する周知の充実	健康づくり教室の充実	専門的な能力に応じた職業訓練の実施	契約行為や財産など権利の確保	学校教育、生涯教育の充実	その他	特になし	無回答
全体	83 9.9	60 7.1	44 5.2	35 4.2	25 3.0	23 2.7	15 1.8	54 6.4	88 10.5
1級	22 8.0	18 6.6	11 4.0	11 4.0	10 3.6	8 2.9	7 2.6	12 4.4	26 9.5
2級	15 9.7	19 12.3	3 1.9	12 7.7	6 3.9	4 2.6	1 0.6	8 5.2	13 8.4
3級	16 10.8	11 7.4	11 7.4	2 1.4	1 0.7	6 4.1	2 1.4	11 7.4	19 12.8
4級	11 7.9	5 3.6	12 8.6	4 2.9	3 2.2	0 0.0	2 1.4	11 7.9	16 11.5
5級	12 20.7	3 5.2	5 8.6	3 5.2	0 0.0	3 5.2	0 0.0	7 12.1	2 3.4
6級	3 8.6	3 8.6	2 5.7	3 8.6	3 8.6	2 5.7	3 8.6	1 2.9	4 11.4

障害の等級別にみると、「医療費の負担軽減」は1級を除いた等級で軽くなるにしたがって多くなっている。「外出や施設の利用のための移動、送迎などの外出支援」は1~2級が2割台と他の等級に比べてやや多い。

【主たる障害別】

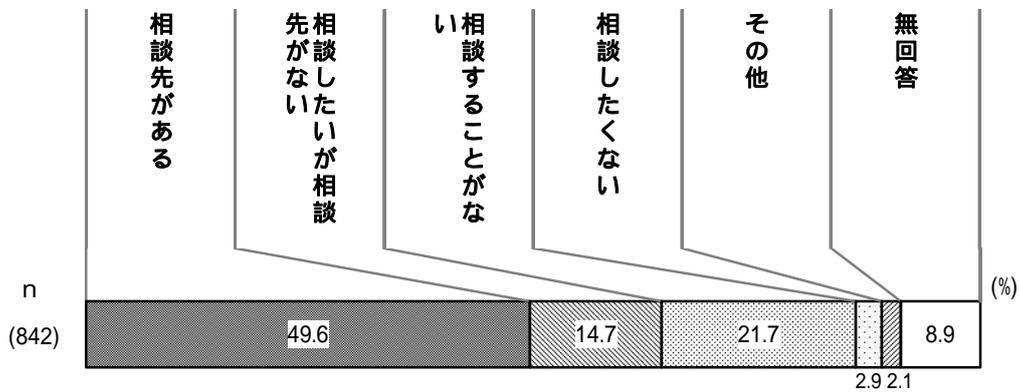
調査数 (n) 上段：件数 下段：%	年金などの所得保障の充実	医療費の負担軽減	障害があっても働ける場の確保	建物や交通機関、道路などの障害者に配慮したまちづくりの推進	自立生活を支えるホームヘルプサービスの充実	外出や施設の移動、送迎などのための支援	障害に適した設備を持つ住宅の確保	災害時・緊急時の情報提供、通信体制の充実に備える	生活、訓練等の場の整備	救急医療の整備	家族が休養できるような施策の充実	福祉に関するお知らせや趣味・娯楽など各種情報提供の充実	スポーツ・文化活動に対する施策の充実	
全体	842 100.0	373 44.3	260 30.9	187 22.2	177 21.0	155 18.4	141 16.7	125 14.8	123 14.6	120 14.3	98 11.6	94 11.2	85 10.1	83 9.9
肢体不自由	431 100.0	177 41.1	125 29.0	99 23.0	111 25.8	89 20.6	81 18.8	79 18.3	55 12.8	73 16.9	38 8.8	55 12.8	39 9.0	43 10.0
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	59 50.0	35 29.7	36 30.5	26 22.0	17 14.4	22 18.6	20 16.9	21 17.8	11 9.3	13 11.0	9 7.6	18 15.3	12 10.2
内部障害	236 100.0	117 49.6	83 35.2	44 18.6	28 11.9	39 16.5	25 10.6	21 8.9	34 14.4	26 11.0	40 16.9	19 8.1	21 8.9	23 9.7
その他の身体障害	27 100.0	7 25.9	8 29.6	5 18.5	7 25.9	6 22.2	6 22.2	1 3.7	4 14.8	5 18.5	3 11.1	6 22.2	3 11.1	4 14.8

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	相談支援体制の充実	障害者に対する周囲の理解を深めるための啓発	健康づくり教室の充実	専門的な機能回復訓練の実施	契約行為や財産など権利が守られること	学校教育、生涯教育の充実	その他	特になし	無回答
全体	83 9.9	60 7.1	44 5.2	35 4.2	25 3.0	23 2.7	15 1.8	54 6.4	88 10.5
肢体不自由	45 10.4	28 6.5	23 5.3	24 5.6	7 1.6	9 2.1	5 1.2	24 5.6	47 10.9
視覚・聴覚・音声障害	13 11.0	17 14.4	1 0.8	5 4.2	8 6.8	5 4.2	3 2.5	8 6.8	7 5.9
内部障害	22 9.3	11 4.7	17 7.2	3 1.3	9 3.8	7 3.0	5 2.1	20 8.5	24 10.2
その他の身体障害	2 7.4	1 3.7	2 7.4	2 7.4	0 0.0	1 3.7	0 0.0	1 3.7	4 14.8

主たる障害別にみると、「建物や交通機関、道路などの障害者に配慮したまちづくりの推進」、「外出や施設の利用のための移動、送迎などの外出支援」、「障害に適した設備を持つ住宅の確保」は内部障害に比べて、肢体不自由と視覚・聴覚・音声障害が多くなっている。内部障害は「医療費の負担軽減」、「救急医療の整備」が他の障害に比べて多い。さらに、視覚・聴覚・音声障害は「障害があっても働ける場の確保」、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」が他の障害に比べて多くなっている。

## 9 相談機能について

問 50 困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。( S A )



困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」(49.6%)が最も多く、以下「相談することがない」(21.7%)となっている。また、「相談したいが相談先がない」も14.7%となっている。

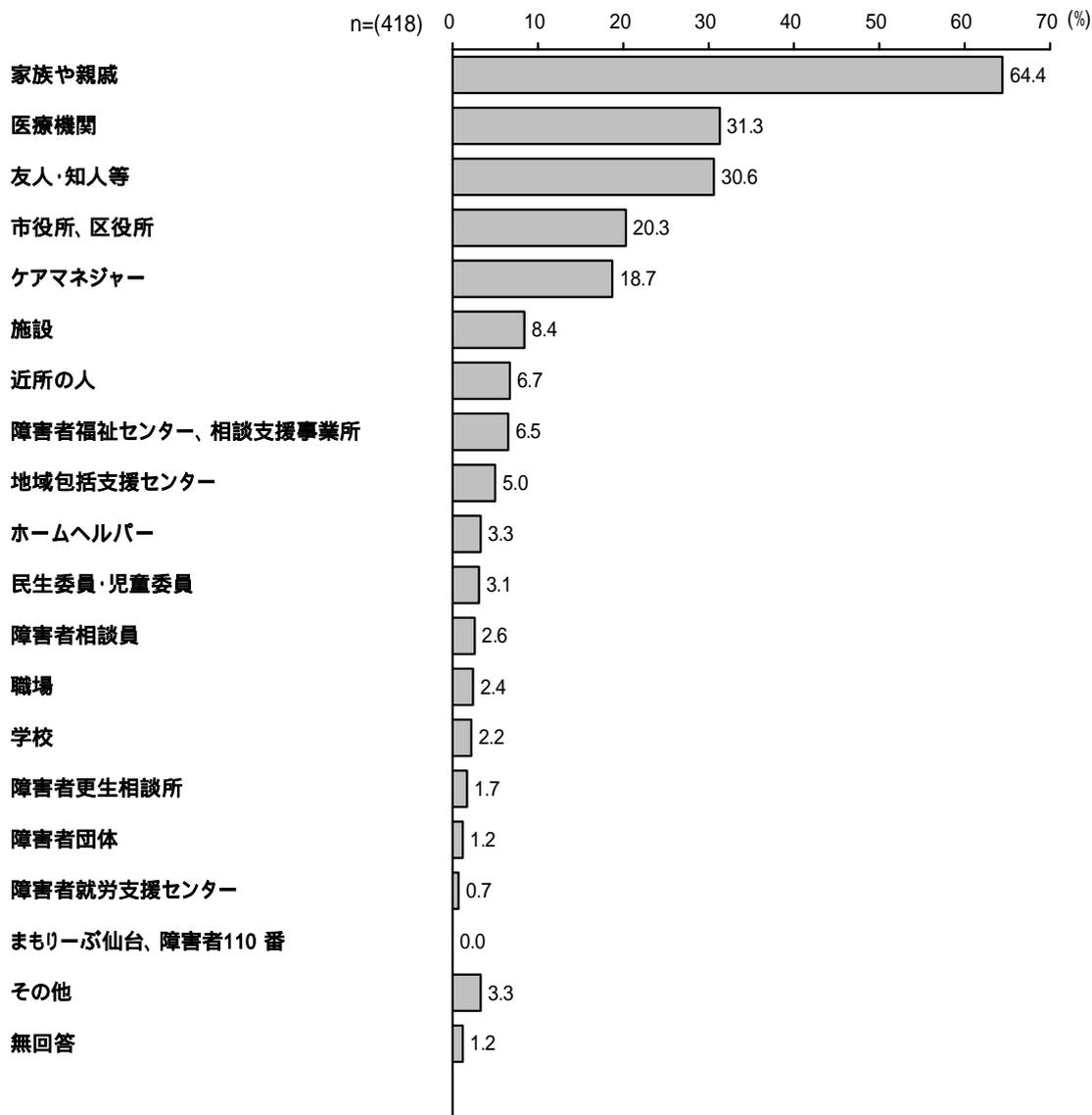
### 【年齢別】

	調査数 (n)	相談先がある	相談したいが相談先がない	相談することがない	相談したくない	その他	無回答
全体	842	418	124	183	24	18	75
	100.0	49.6	14.7	21.7	2.9	2.1	8.9
0～17歳	24	16	6	1	0	0	1
	100.0	66.7	25.0	4.2	0.0	0.0	4.2
18～29歳	32	19	3	9	0	0	1
	100.0	59.4	9.4	28.1	0.0	0.0	3.1
30～39歳	46	25	2	13	0	0	6
	100.0	54.3	4.3	28.3	0.0	0.0	13.0
40～49歳	86	47	13	18	3	2	3
	100.0	54.7	15.1	20.9	3.5	2.3	3.5
50～64歳	358	159	63	81	14	11	30
	100.0	44.4	17.6	22.6	3.9	3.1	8.4
65～74歳	129	61	19	35	3	3	8
	100.0	47.3	14.7	27.1	2.3	2.3	6.2
75歳以上	153	86	14	23	4	2	24
	100.0	56.2	9.2	15.0	2.6	1.3	15.7

年齢別にみると、いずれの年齢でも「相談先がある」が最も多いが、0～17歳と40～74歳では「相談したいが相談先がない」が1～2割台となっている。

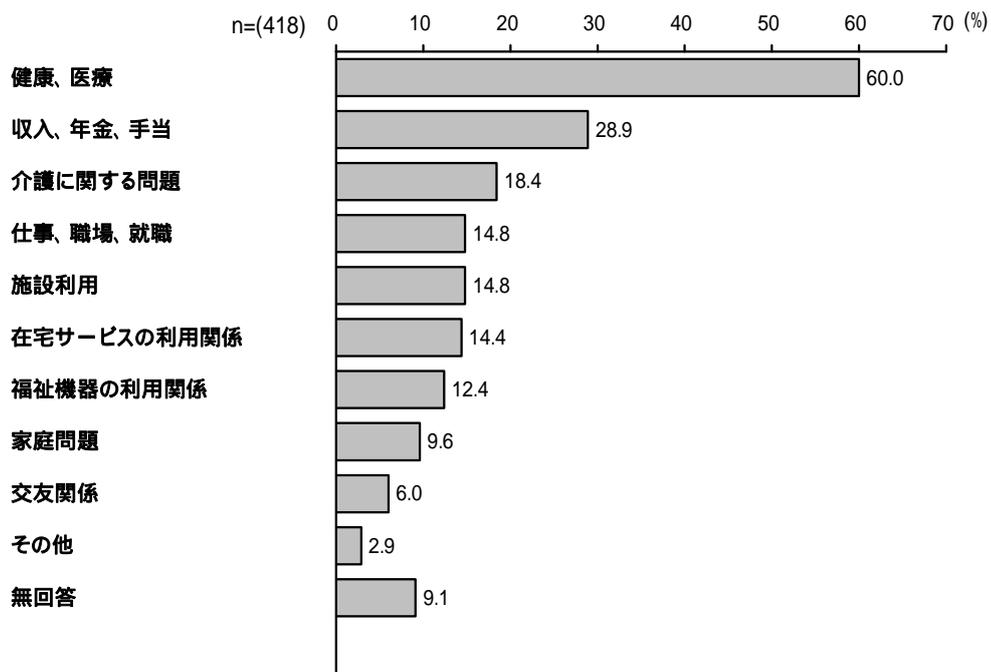
問 51 問 50 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

(1) 相談相手はどなたですか。(MA)



困ったときの相談相手については、「家族や親戚 (64.4%) が最も多く、以下「医療機関 (31.3%)」、「友人・知人等」(30.6%)、「市役所、区役所」(20.3%)、「ケアマネジャー」(18.7%) となっている。

(2) 相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)



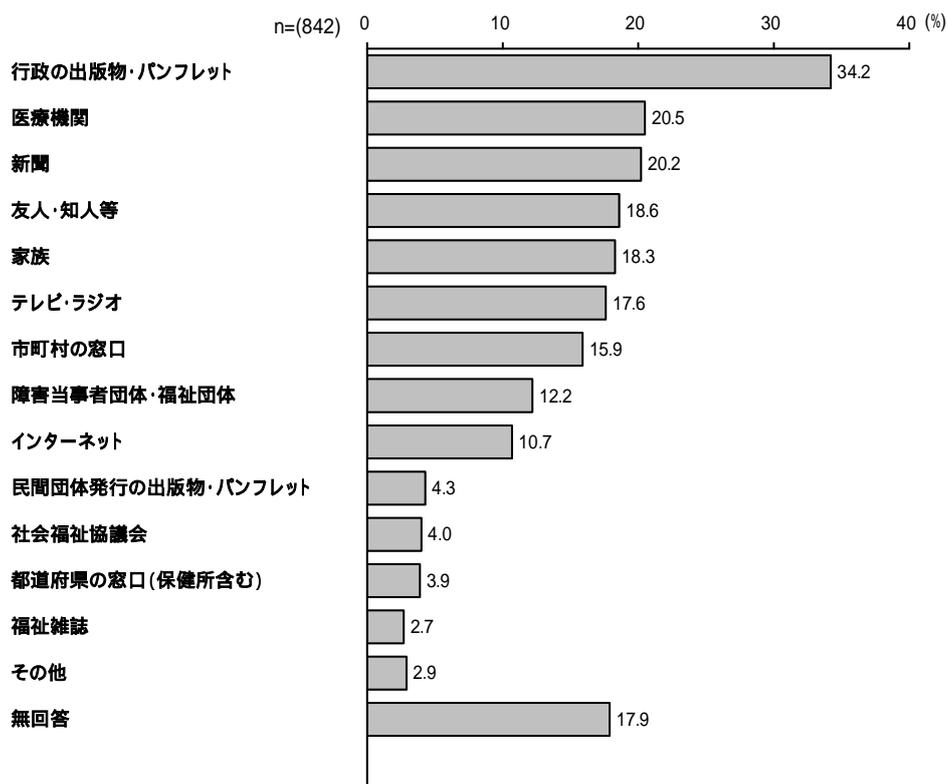
困ったときの相談相手に相談していること(したいこと)については、「健康、医療」(60.0%)が最も多く、以下「収入、年金、手当」(28.9%)、「介護に関する問題」(18.4%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	健康、 医療	収入、 年金、 手当	介護に 関する 問題	仕事、 職場、 就職	施設 利用	在宅サ ービスの 利用	福祉 機器の 利用 関係	家庭 問題	交友 関係	その他	無 回 答
全体	418	251	121	77	62	62	60	52	40	25	12	38
0～17歳	16	6	2	2	3	3	3	2	1	3	2	1
18～29歳	19	11	3	4	10	4	2	4	1	1	0	0
30～39歳	25	17	4	3	6	7	2	3	1	4	2	0
40～49歳	47	27	15	4	16	7	3	6	4	3	2	1
50～64歳	159	104	58	15	24	15	19	19	18	6	3	17
65～74歳	61	36	16	18	2	9	7	7	6	4	1	5
75歳以上	86	47	20	30	1	16	23	11	8	2	2	14
上段：件数 下段：%	100.0	60.0	28.9	18.4	14.8	14.8	14.4	12.4	9.6	6.0	2.9	9.1

年齢別にみると、「収入、年金、手当」は40～64歳で多く、「介護に関する問題」は65歳以上で他の年齢に比べて多くなっている。

問 52 あなたはどのようなところから福祉サービスなどの情報を手に入れていますか。( M A )



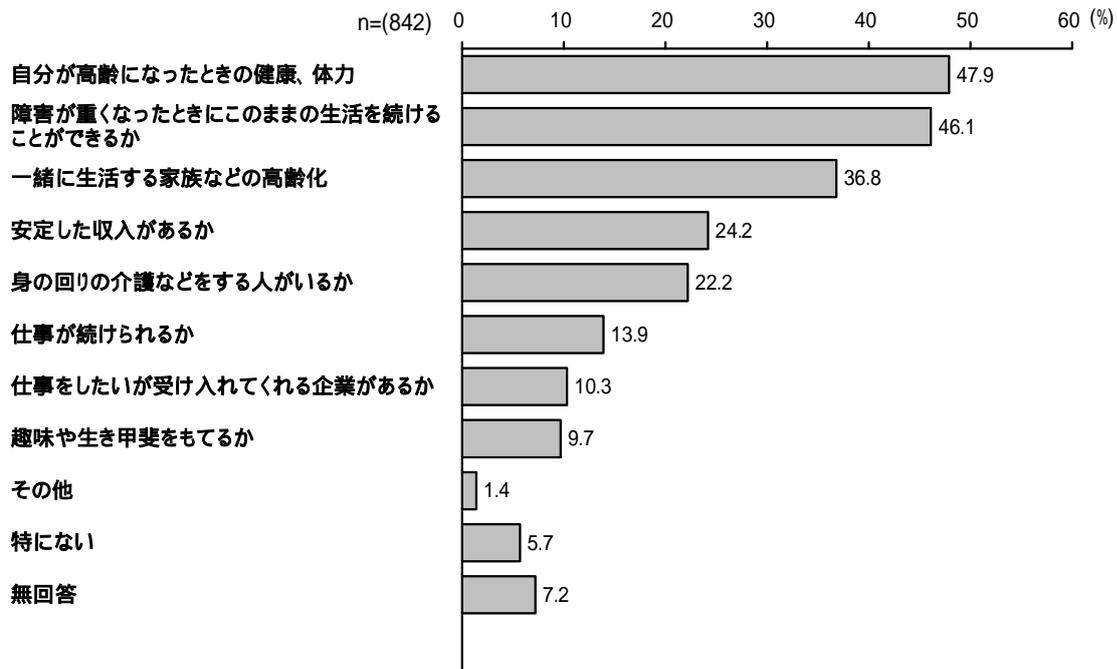
福祉サービスなどの情報の入手先については、「行政の出版物・パンフレット」(34.2%)が最も多く、以下「医療機関」(20.5%)、「新聞」(20.2%)、「友人・知人等」(18.6%)、「家族」(18.3%)、「テレビ・ラジオ」(17.6%)、「市町村の窓口」(15.9%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	行政の出版物・パンフレット	医療機関	新聞	友人・知人等	家族	テレビ・ラジオ	市町村の窓口	障害当事者団体・福祉団体	インターネット	民間団体発行の出版物・パンフレット	社会福祉協議会	都道府県の窓口(保健所含む)	福祉雑誌	その他	無回答
全体	842	288	173	170	157	154	148	134	103	90	36	34	33	23	24	151
上段：件数 下段：%	100.0	34.2	20.5	20.2	18.6	18.3	17.6	15.9	12.2	10.7	4.3	4.0	3.9	2.7	2.9	17.9
0～17歳	24	7	6	1	11	2	0	4	4	3	3	0	1	0	0	3
	100.0	29.2	25.0	4.2	45.8	8.3	0.0	16.7	16.7	12.5	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	12.5
18～29歳	32	14	1	1	10	7	4	3	9	8	2	0	2	0	1	1
	100.0	43.8	3.1	3.1	31.3	21.9	12.5	9.4	28.1	25.0	6.3	0.0	6.3	0.0	3.1	3.1
30～39歳	46	15	5	8	12	9	3	8	8	14	2	0	2	2	3	6
	100.0	32.6	10.9	17.4	26.1	19.6	6.5	17.4	17.4	30.4	4.3	0.0	4.3	4.3	6.5	13.0
40～49歳	86	37	17	17	13	9	13	17	8	21	3	3	3	3	2	13
	100.0	43.0	19.8	19.8	15.1	10.5	15.1	19.8	9.3	24.4	3.5	3.5	3.5	3.5	2.3	15.1
50～64歳	358	126	80	66	51	51	53	64	41	36	12	16	11	12	9	70
	100.0	35.2	22.3	18.4	14.2	14.2	14.8	17.9	11.5	10.1	3.4	4.5	3.1	3.4	2.5	19.6
65～74歳	129	49	24	37	26	28	36	22	17	4	5	9	7	4	5	20
	100.0	38.0	18.6	28.7	20.2	21.7	27.9	17.1	13.2	3.1	3.9	7.0	5.4	3.1	3.9	15.5
75歳以上	153	36	37	38	29	46	38	13	12	4	8	5	6	2	3	34
	100.0	23.5	24.2	24.8	19.0	30.1	24.8	8.5	7.8	2.6	5.2	3.3	3.9	1.3	2.0	22.2

年齢別にみると、おおむねいずれの年齢でも「行政の出版物・パンフレット」が最も多いが、0～17歳では「友人・知人等」、75歳以上では「家族」との回答が最も多くなっている。

問 53 今後のことで不安を感じていることはありますか。( M A )



今後のことで不安を感じていることについては、「自分が高齢になったときの健康、体力」(47.9%)、「障害が重くなったときにこのままの生活が続けることができるか」(46.1%)が多く、以下「一緒に生活する家族などの高齢化」(36.8%)、「安定した収入があるか」(24.2%)、「身の回りの介護などをする人がいるか」(22.2%)となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	自分が高齢になったときの健康、体力	けることがまわりの生活と続けることができるか	障害が重くなったとき	ど一緒に生活する家族な	安定した収入があるか	身の回りの介護などを	仕事が続けられるか	か仕事をしたい企業が受けるか	趣味や生き甲斐をもてるか	その他	特にな	無回答
全体	842 100.0	403 47.9	388 46.1	310 36.8	204 24.2	187 22.2	117 13.9	87 10.3	82 9.7	12 1.4	48 5.7	61 7.2	
0～17歳	24 100.0	3 12.5	6 25.0	12 50.0	6 25.0	9 37.5	0 0.0	9 37.5	1 4.2	0 0.0	3 12.5	1 4.2	
18～29歳	32 100.0	11 34.4	7 21.9	12 37.5	14 43.8	6 18.8	13 40.6	12 37.5	8 25.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0	
30～39歳	46 100.0	15 32.6	13 28.3	18 39.1	17 37.0	7 15.2	16 34.8	8 17.4	5 10.9	0 0.0	4 8.7	3 6.5	
40～49歳	86 100.0	37 43.0	42 48.8	26 30.2	26 30.2	16 18.6	26 30.2	15 17.4	8 9.3	3 3.5	1 1.2	5 5.8	
50～64歳	358 100.0	192 53.6	177 49.4	112 31.3	95 26.5	72 20.1	56 15.6	39 10.9	41 11.5	4 1.1	20 5.6	25 7.0	
65～74歳	129 100.0	71 55.0	67 51.9	59 45.7	27 20.9	30 23.3	4 3.1	4 3.1	11 8.5	3 2.3	6 4.7	7 5.4	
75歳以上	153 100.0	68 44.4	64 41.8	65 42.5	16 10.5	39 25.5	2 1.3	0 0.0	8 5.2	2 1.3	13 8.5	19 12.4	

年齢別にみると、40歳以上では「自分が高齢になったときの健康、体力」や「障害が重くなったときにこのままの生活を続けることができるか」が4～5割と多い。さらに、65歳以上では「一緒に生活する家族などの高齢化」も多くなっている。

【日常生活における動作の可否別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	自分が高齢になったときの健康、体力	けることがまわりの生活と続けることができるか	障害が重くなったとき	ど一緒に生活する家族な	安定した収入があるか	身の回りの介護などを	仕事が続けられるか	か仕事をしたい企業が受けるか	趣味や生き甲斐をもてるか	その他	特にな	無回答
全体	842 100.0	403 47.9	388 46.1	310 36.8	204 24.2	187 22.2	117 13.9	87 10.3	82 9.7	12 1.4	48 5.7	61 7.2	
一人ができる	563 100.0	297 52.8	237 42.1	173 30.7	162 28.8	85 15.1	105 18.7	74 13.1	60 10.7	9 1.6	38 6.7	34 6.0	
時間をかければ一人ができる	81 100.0	43 53.1	51 63.0	37 45.7	11 13.6	28 34.6	5 6.2	3 3.7	10 12.3	1 1.2	2 2.5	5 6.2	
一部介助が必要	103 100.0	33 32.0	64 62.1	52 50.5	17 16.5	38 36.9	5 4.9	6 5.8	4 3.9	0 0.0	3 2.9	6 5.8	
全部介助が必要	75 100.0	19 25.3	30 40.0	42 56.0	10 13.3	35 46.7	1 1.3	2 2.7	8 10.7	2 2.7	5 6.7	9 12.0	

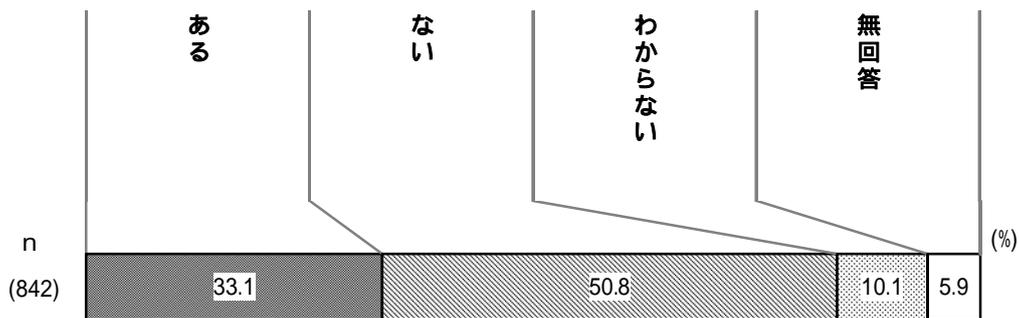
日常生活における動作の可否別にみると、「一緒に生活する家族などの高齢化」、「身の回りの介護などをする人がいるか」は何らかの介助が必要になるにシフトが多くなっている。「自分が高齢になったときの健康、体力」は一人ができる、時間をかければ一人ができる人では半数以上、「障害が重くなったときにこのままの生活を続けることができるか」は時間をかければ一人ができる、一部介助が必要な人では6割以上を占めている。

【主な介助者別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	自分の健康、体力になつたと	けることがまくなつたか	障害が重くなつたとき	ど一緒に生活する家族な	安定した収入があるか	身の回りの介護などを	仕事が続けられるか	かたてくられる企業が受ける人	趣味や生き甲斐をもて	その他	特にな	無回答
全体 842 100.0	403 47.9	388 46.1	310 36.8	204 24.2	187 22.2	117 13.9	87 10.3	82 9.7	12 1.4	48 5.7	61 7.2	
配偶者 53 100.0	20 37.7	30 56.6	34 64.2	10 18.9	26 49.1	3 5.7	0 0.0	3 5.7	0 0.0	0 0.0	1 1.9	
子ども 14 100.0	1 7.1	12 85.7	7 50.0	1 7.1	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	
親 44 100.0	15 34.1	20 45.5	33 75.0	8 18.2	21 47.7	1 2.3	7 15.9	4 9.1	1 2.3	1 2.3	1 2.3	
兄弟姉妹 5 100.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
祖父母 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
親戚 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
近所の人 1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
ホームヘルパー 17 100.0	4 23.5	9 52.9	3 17.6	3 17.6	6 35.3	1 5.9	1 5.9	1 5.9	0 0.0	2 11.8	3 17.6	
ガイドヘルパー 1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
友人・知人等 2 100.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
介助のために雇った人 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
ボランティア 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
施設職員 27 100.0	8 29.6	12 44.4	12 44.4	3 11.1	8 29.6	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 14.8	4 14.8	
その他 11 100.0	1 9.1	2 18.2	3 27.3	1 9.1	5 45.5	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	1 9.1	4 36.4	

主な介助者別にみると、配偶者または親が主な介助者は「一緒に生活する家族などの高齢化」、「身の回りの介護などをする人がいるか」が多くなっている。

問 54 障害を理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。( S A )



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことについては、差別を受けたりいやな思いをしたことがない人が 50.8%となっている。一方、差別を受けたりいやな思いをしたことがある人は 33.1%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	842 100.0	279 33.1	428 50.8	85 10.1	50 5.9
0～17歳	24 100.0	16 66.7	3 12.5	5 20.8	0 0.0
18～29歳	32 100.0	18 56.3	11 34.4	2 6.3	1 3.1
30～39歳	46 100.0	25 54.3	13 28.3	5 10.9	3 6.5
40～49歳	86 100.0	35 40.7	37 43.0	12 14.0	2 2.3
50～64歳	358 100.0	134 37.4	174 48.6	35 9.8	15 4.2
65～74歳	129 100.0	25 19.4	84 65.1	15 11.6	5 3.9
75歳以上	153 100.0	20 13.1	101 66.0	11 7.2	21 13.7

年齢別にみると、65歳以上では差別を受けたりいやな思いをしたことがない人が6割以上となっている。一方、年齢が低くなるにしたがって、差別を受けたりいやな思いをしたことがある人が多くなっている。

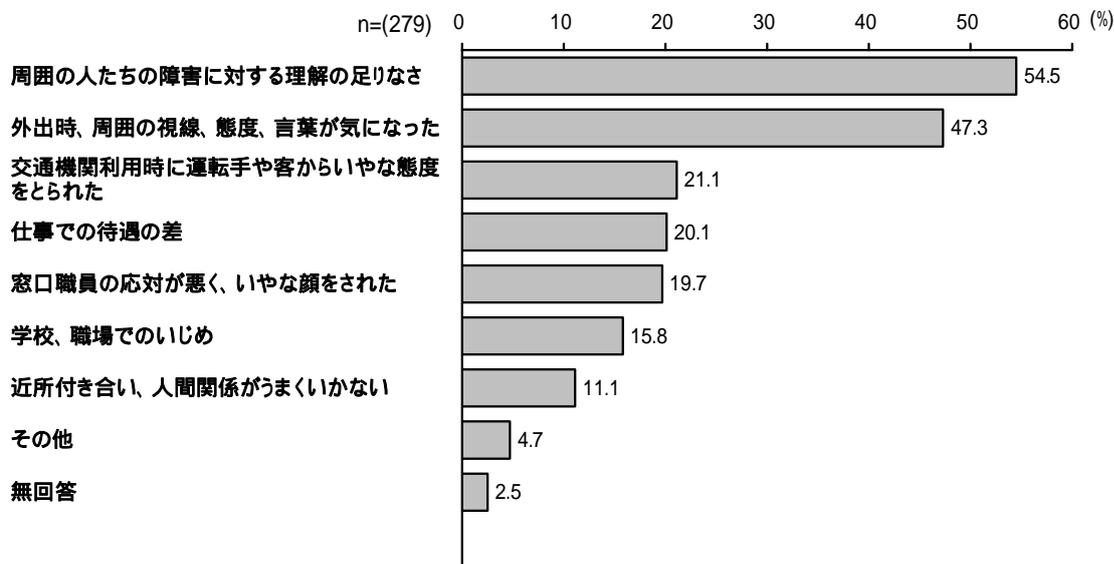
【主たる障害別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	842 100.0	279 33.1	428 50.8	85 10.1	50 5.9
肢体不自由	431 100.0	161 37.4	203 47.1	48 11.1	19 4.4
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	57 48.3	39 33.1	17 14.4	5 4.2
内部障害	236 100.0	49 20.8	154 65.3	14 5.9	19 8.1
その他の身体障害	27 100.0	8 29.6	15 55.6	1 3.7	3 11.1

主たる障害別にみると、肢体不自由と視覚・聴覚・音声障害では差別を受けたりいやな思いをしたことがある人が3~4割となっている。一方、内部障害は差別を受けたりいやな思いをしたことがない人が6割以上と多い。

問 55 問 54 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) あなたは、どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(MA)



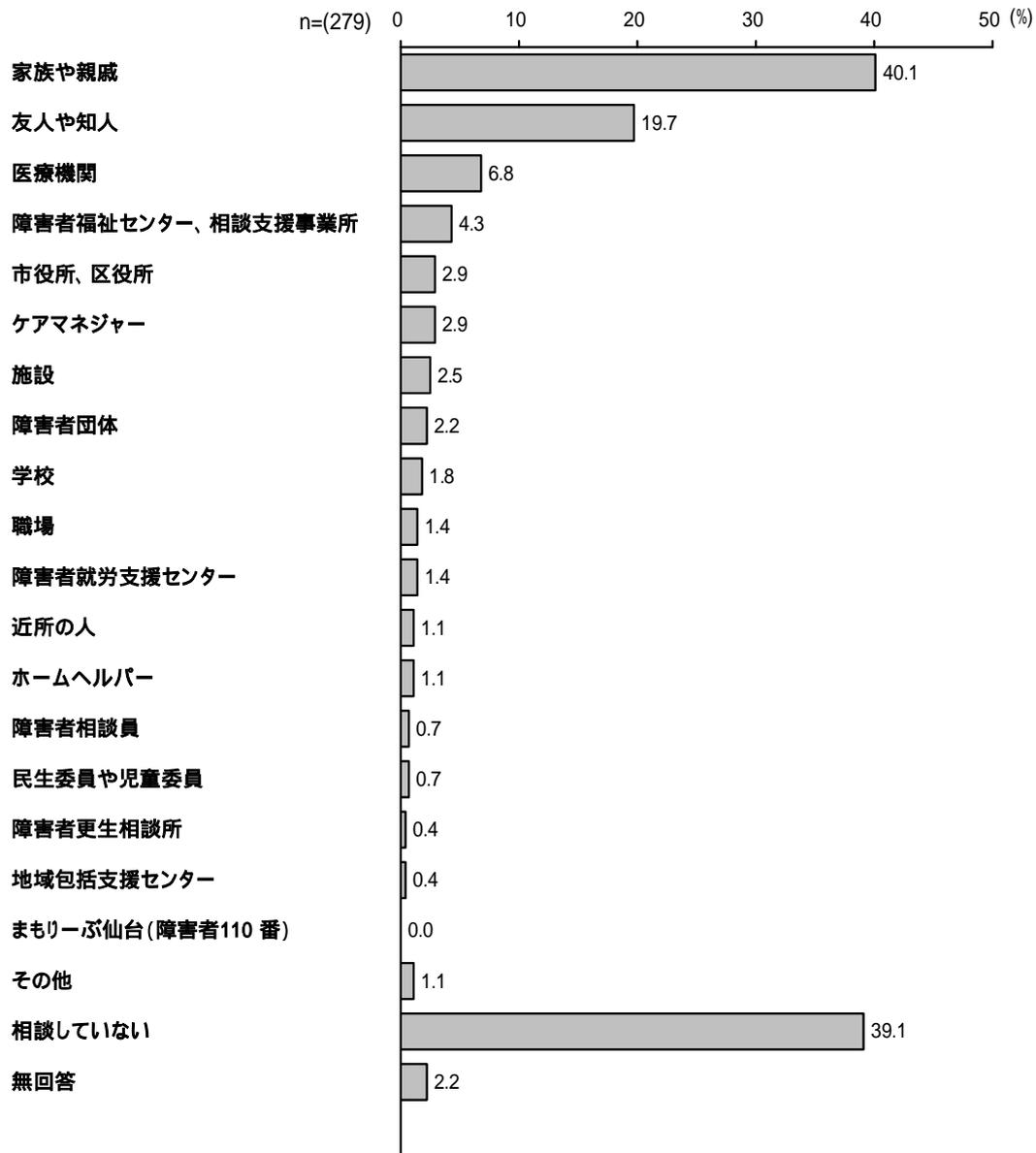
受けた差別やいやな思いの内容については、「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」(54.5%)が最も多く、以下「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(47.3%)となっている。

【性別】

	調査数 (n)	周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ	外出時、言葉が周囲の視線、態度	乗客からいやな態度をとられた	交通機関利用時に運転手や客からいやな態度をとられた	仕事での待遇の差	窓口職員の対応が悪く、いやな顔をされた	学校、職場でのいじめ	近所付き合い、人間関係がうまくいかない	その他	無回答
全体	279	152	132	59	56	55	44	31	13	7	
	100.0	54.5	47.3	21.1	20.1	19.7	15.8	11.1	4.7	2.5	
男	151	91	70	29	38	25	24	17	5	5	
	100.0	60.3	46.4	19.2	25.2	16.6	15.9	11.3	3.3	3.3	
女	127	60	62	30	18	29	20	14	7	2	
	100.0	47.2	48.8	23.6	14.2	22.8	15.7	11.0	5.5	1.6	

性別にみると、男性は「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」、「仕事での待遇の差」が女性に比べて多く、一方、女性は「交通機関利用時に運転手や客からいやな態度をとられた」、「窓口職員の対応が悪く、いやな顔をされた」が男性に比べて多くなっている。

(2) 差別を受けたり、いやな思いをしたときに誰かに相談しましたか。(M A)

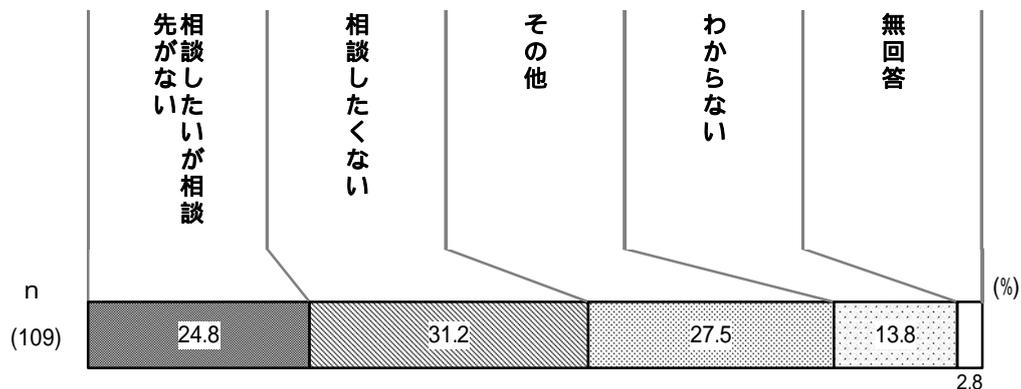


差別を受けたり、いやな思いをしたときの相談先については、「家族や親戚」(40.1%)が最も多く、以下「友人や知人」(19.7%)となっている。

なお、「相談していない」は39.1%となっている。

(3)(2)において「20 相談していない」を選択した方におたずねします。

相談しない理由は何ですか。( S A )

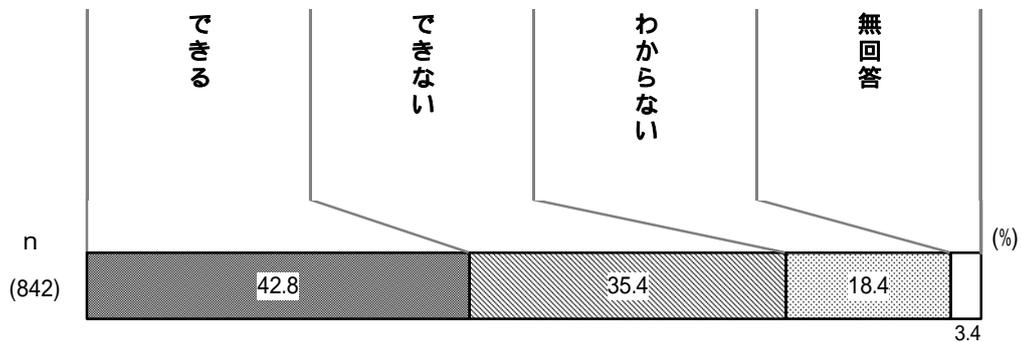


差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談したくない」(31.2%)が最も多く、以下「相談したいが相談先がない」(24.8%)となっている。

なお、「その他」は27.5%となっており、その内容として、相談しても解決につながらない、それぞれの考え方の違いがあるため理解が足りなくても仕方がないなどの理由があげられている。

## 10 災害対策について

問 56 あなたは地震などの災害発生時、一人で避難することができますか。( S A )



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、一人で避難できる人が42.8%となっている一方、一人で避難できない人も35.4%となっている。

【障害の等級別】

	調査数 (n)	できる	できない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	842	360	298	155	29
	100.0	42.8	35.4	18.4	3.4
1級	274	100	128	39	7
	100.0	36.5	46.7	14.2	2.6
2級	155	37	83	29	6
	100.0	23.9	53.5	18.7	3.9
3級	148	76	38	30	4
	100.0	51.4	25.7	20.3	2.7
4級	139	80	22	32	5
	100.0	57.6	15.8	23.0	3.6
5級	58	34	8	13	3
	100.0	58.6	13.8	22.4	5.2
6級	35	23	6	6	0
	100.0	65.7	17.1	17.1	0.0

障害の等級別にみると、1～2級では一人で避難できない人が4～5割と多くなっている。

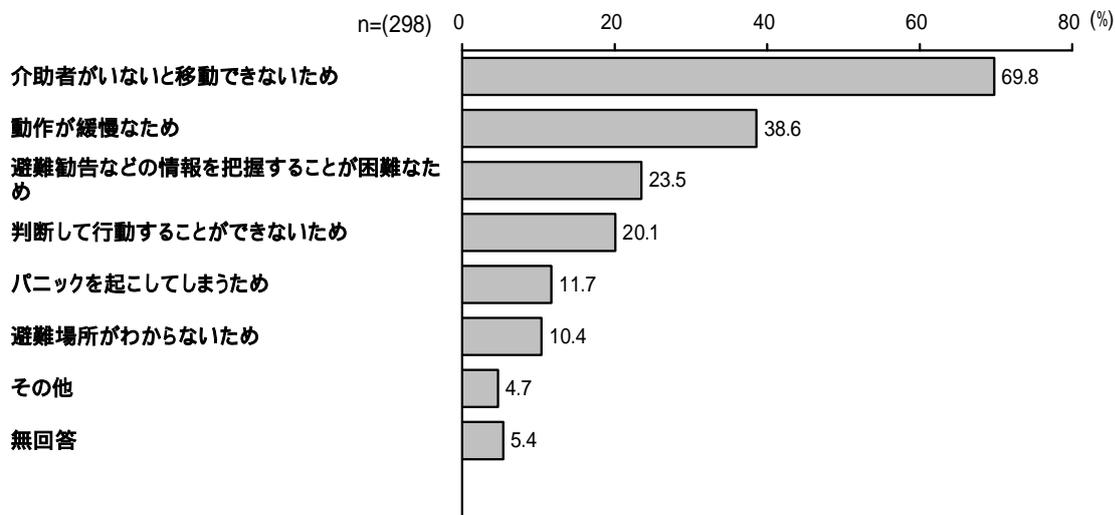
【主たる障害別】

	調査数 (n)	できる	できない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	842 100.0	360 42.8	298 35.4	155 18.4	29 3.4
肢体不自由	431 100.0	150 34.8	194 45.0	73 16.9	14 3.2
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	43 36.4	44 37.3	27 22.9	4 3.4
内部障害	236 100.0	153 64.8	36 15.3	40 16.9	7 3.0
その他の身体障害	27 100.0	7 25.9	12 44.4	6 22.2	2 7.4

主たる障害別にみると、内部障害では64.8%が一人で避難できると回答しているが、肢体不自由と視覚・聴覚・音声障害では一人で避難できない人が3~4割となっている。

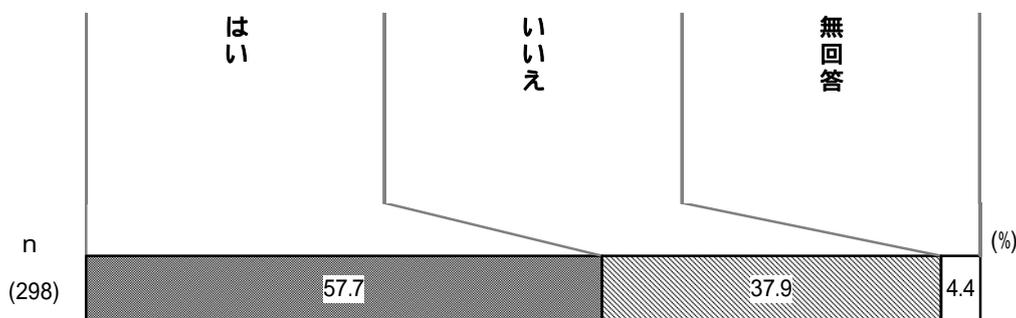
問 57 問 56 において「2 できない」を選択した方におたずねします。

(1) 災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。( M A )



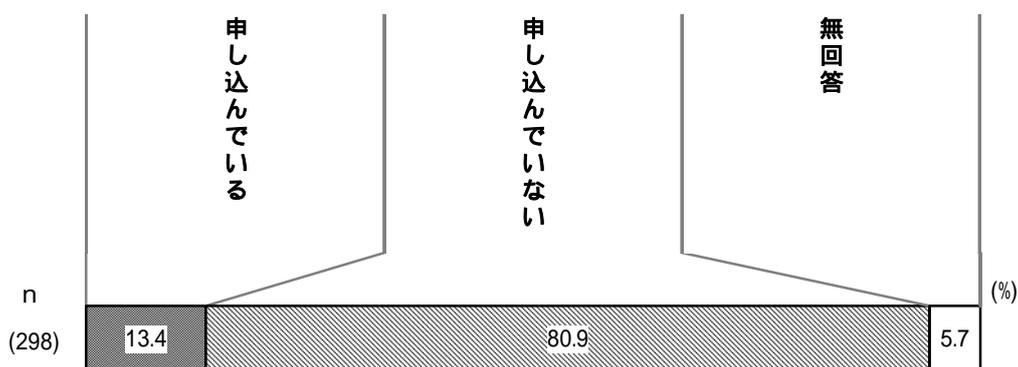
災害のとき一人で避難することができない理由については、「介助者がいないと移動できないため」(69.8%) が最も多く、以下「動作が緩慢なため」(38.6%)、「避難勧告などの情報を把握することが困難なため」(23.5%)、「判断して行動することができないため」(20.1%) となっている。

(2) あなたのお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。( S A )



住んでいる地区の避難所の場所の認知については、避難場所を知っている人は57.7%となっているが、避難場所を知らない人も37.9%となっている。

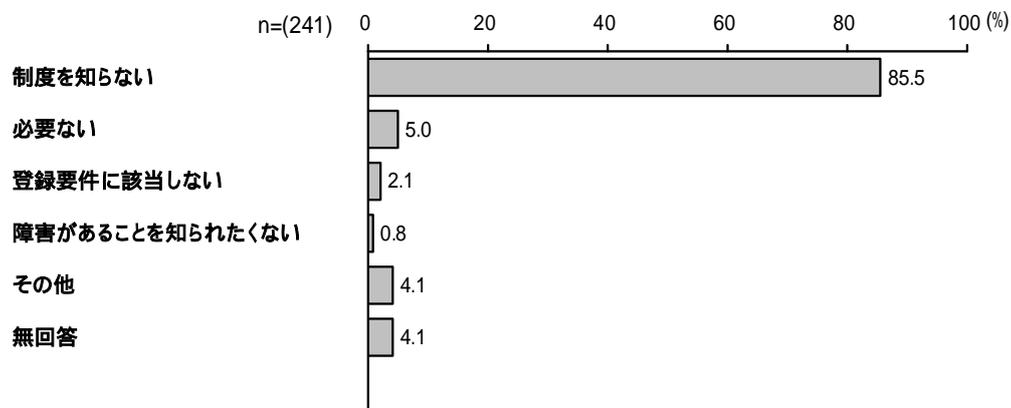
(3) あなたは仙台市が実施している災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでいますか。( S A )



災害時における要援護者情報登録制度への申し込みについては、登録制度に申し込んでいない人が80.9%を占めている。

(4)(3)において「2 申し込んでいない」を選択した方におたずねします。

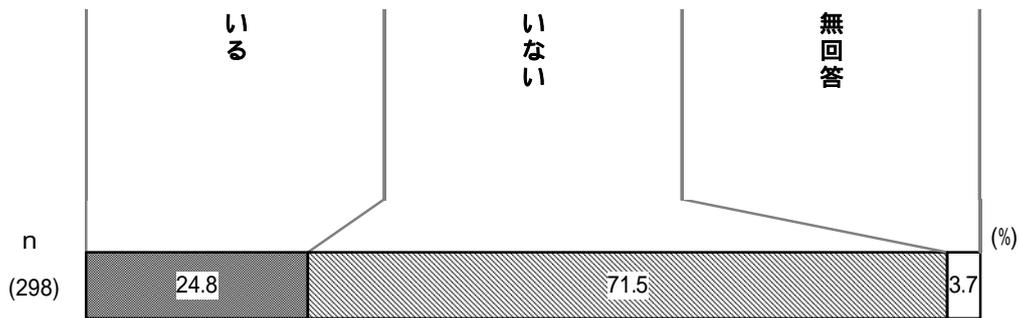
その理由は何ですか。( M A )



災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでいない理由については、「制度を知らない」が85.5%を占めている。

(5) 家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はいますか。

( S A )



家族以外で災害時に助けてくれる人の有無については、家族以外で助けてくれる人がいない人が71.5%を占めている。

【主たる障害別】

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
全体	298	74	213	11
	100.0	24.8	71.5	3.7
肢体不自由	194	44	143	7
	100.0	22.7	73.7	3.6
視覚・聴覚・音声障害	44	14	29	1
	100.0	31.8	65.9	2.3
内部障害	36	11	22	3
	100.0	30.6	61.1	8.3
その他の身体障害	12	3	9	0
	100.0	25.0	75.0	0.0

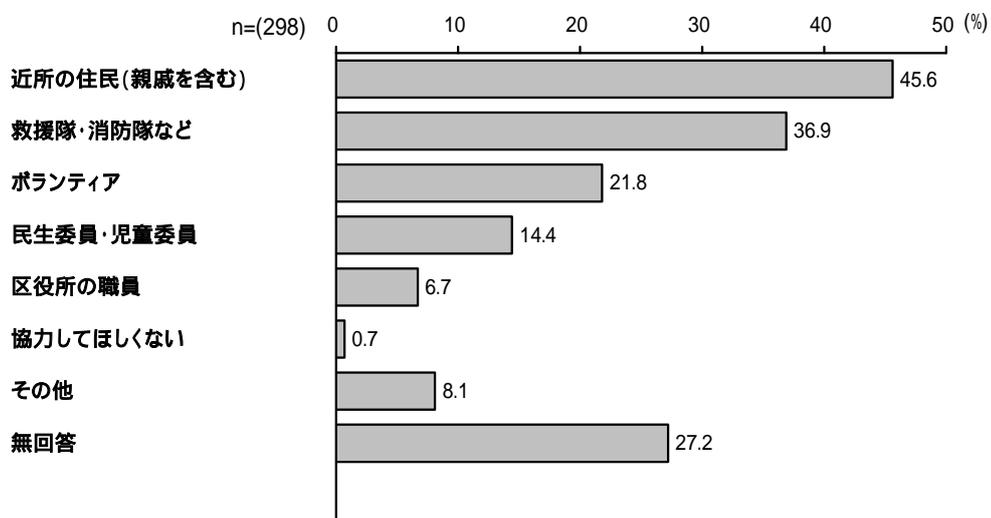
主たる障害別にみると、家族以外で助けてくれる人がいない人は、視覚・聴覚・音声障害と内部障害は6割台だが、肢体不自由では7割以上と多くなっている。

(6) (5)で「1 いる」を選択した方におたずねします。

家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はどなたですか。(MA)

また、(5)で「2 いない」を選択した方におたずねします。

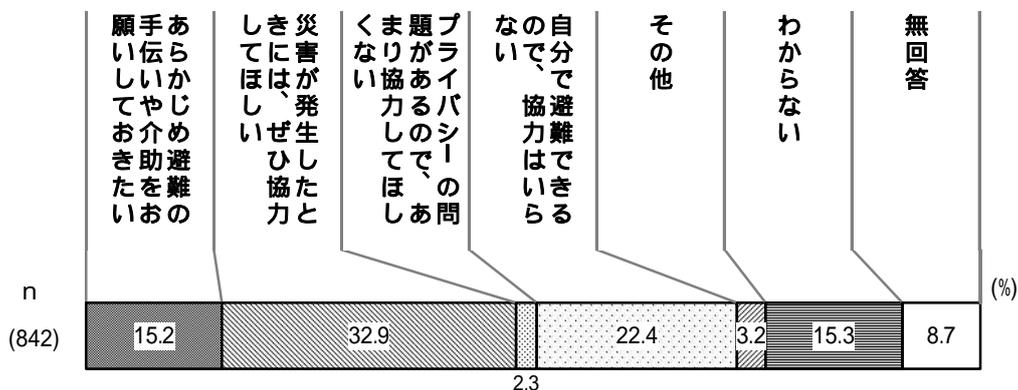
どなたに助けてほしいですか。(MA)



家族以外で災害時に助けてくれる人、または助けて欲しい人については、「近所の住民(親戚を含む)」(45.6%)が最も多く、以下「救援隊・消防隊など」(36.9%)、「ボランティア」(21.8%)、「民生委員・児童委員」(14.4%)となっている。

問 58 地震などの災害が発生したときのために、あらかじめ近所の人やボランティアなどにあなたの避難の手伝いや介助をお願いしておくことについて、どのように思いますか。

( S A )



あらかじめ避難の手伝いや介助を依頼することへの意向については、「災害が発生したときには、ぜひ協力してほしい」(32.9%)、「自分で避難できるので、協力はいらぬ」(22.4%)、「あらかじめ避難の手伝いや介助をお願いしておきたい」(15.2%)となっている。

なお、「わからない」は15.3%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	たやあ い介ら 助かじ をおめ 願い難 いして てお伝 きい	は災 害が ぜひ 協生 力し した とき に い	ほる しの くで ない あ ま り の 協 力 し が て あ	自 分 で 避 難 で き る の で 、 協 力 は い ら な い	そ 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	842	128	277	19	189	27	129	73
	100.0	15.2	32.9	2.3	22.4	3.2	15.3	8.7
0~17歳	24	5	10	1	0	1	5	2
	100.0	20.8	41.7	4.2	0.0	4.2	20.8	8.3
18~29歳	32	6	14	0	6	0	6	0
	100.0	18.8	43.8	0.0	18.8	0.0	18.8	0.0
30~39歳	46	8	15	0	13	2	7	1
	100.0	17.4	32.6	0.0	28.3	4.3	15.2	2.2
40~49歳	86	18	15	6	23	3	17	4
	100.0	20.9	17.4	7.0	26.7	3.5	19.8	4.7
50~64歳	358	38	120	9	86	15	60	30
	100.0	10.6	33.5	2.5	24.0	4.2	16.8	8.4
65~74歳	129	21	51	2	33	2	12	8
	100.0	16.3	39.5	1.6	25.6	1.6	9.3	6.2
75歳以上	153	31	46	0	25	4	21	26
	100.0	20.3	30.1	0.0	16.3	2.6	13.7	17.0

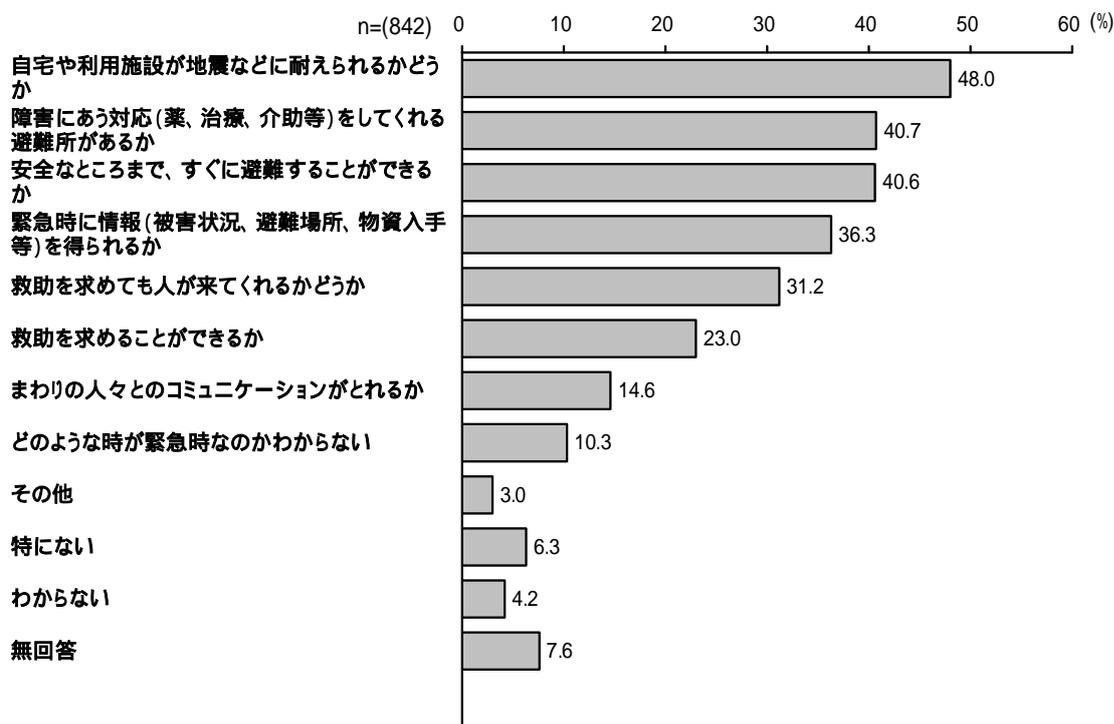
年齢別にみると、いずれの年齢でも「災害が発生したときには、ぜひ協力してほしい」が3~4割で最も多くなっているが、40~49歳では2割弱とやや少なくなっている。

【日常生活における動作の可否別】

	調査数 (n)	た い 介 助 を お め 願 い し て お 伝 い き い	あ ら か じ め 避 難 の 手 伝 い や 介 助 を お 願 い し て お き たい	災 害 が 発 生 し た と き に は 、 ぜ ひ 協 力 し て ほ しい	ほ る の で は い ら な い あ ま り の 問 題 が あ り ま す	自 分 で は 避 難 で き る の で 、 協 力 は い ら な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	842 100.0	128 15.2	277 32.9	19 2.3	189 22.4	27 3.2	129 15.3	73 8.7	
一人 で で き る	563 100.0	58 10.3	168 29.8	14 2.5	178 31.6	21 3.7	86 15.3	38 6.7	
時 間 を か け れ ば 一 人 で で き る	81 100.0	13 16.0	39 48.1	3 3.7	1 1.2	2 2.5	12 14.8	11 13.6	
一 部 介 助 が 必 要	103 100.0	30 29.1	41 39.8	2 1.9	6 5.8	2 1.9	16 15.5	6 5.8	
全 部 介 助 が 必 要	75 100.0	26 34.7	26 34.7	0 0.0	0 0.0	2 2.7	12 16.0	9 12.0	

日常生活における動作の可否別にみると、いずれも「災害が発生したときには、ぜひ協力してほしい」が多くなっているが、一人のできる人は「自分で避難できるので、協力はらない」も約3割と多い。また、何らかの介助が必要になるにしたがって、「あらかじめ避難の手伝いや介助をお願いしておきたい」が多くなっている。

問 59 地震などのいざという時のことで、あなたがふだん不安に感じていることは何ですか。  
( M A )



地震などのいざという時、ふだん不安に感じていることについては、「自宅や利用施設が地震などに耐えられるかどうか」(48.0%)が最も多く、以下「障害にあう対応(薬、治療、介助等)をしてくれる避難所があるか」(40.7%)、「安全なところまで、すぐに避難することができるか」(40.6%)、「緊急時に情報(被害状況、避難場所、物資入手等)を得られるか」(36.3%)、「救助を求めても人が来てくれるかどうか」(31.2%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	どに宅に耐えられ利用施設が地震かな	る療に介助等があるか	障害にあう対応(薬、治療、介助等)をしてもらえるか	かに安全なところまでできるか	等)を得られるか	緊急時に情報(被害状況、避難場所、物資入手)	く救助を求めても人が来てくれるかどうか	る救助を求められることができるか	二まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか	のどのような時が緊急時なのかかわからない	その他	特にな	わからない	無回答
全体	842 100.0	404 48.0	343 40.7	342 40.6	306 36.3	263 31.2	194 23.0	123 14.6	87 10.3	25 3.0	53 6.3	35 4.2	64 7.6	
0～17歳	24 100.0	9 37.5	17 70.8	11 45.8	13 54.2	11 45.8	8 33.3	5 20.8	6 25.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	
18～29歳	32 100.0	15 46.9	15 46.9	13 40.6	10 31.3	13 40.6	10 31.3	11 34.4	7 21.9	2 6.3	2 6.3	0 0.0	0 0.0	
30～39歳	46 100.0	25 54.3	23 50.0	19 41.3	23 50.0	13 28.3	11 23.9	12 26.1	8 17.4	2 4.3	2 4.3	4 8.7	2 4.3	
40～49歳	86 100.0	40 46.5	43 50.0	28 32.6	32 37.2	26 30.2	12 14.0	13 15.1	7 8.1	5 5.8	4 4.7	3 3.5	4 4.7	
50～64歳	358 100.0	175 48.9	141 39.4	143 39.9	130 36.3	98 27.4	72 20.1	40 11.2	24 6.7	12 3.4	26 7.3	13 3.6	27 7.5	
65～74歳	129 100.0	68 52.7	48 37.2	53 41.1	53 41.1	45 34.9	37 28.7	21 16.3	13 10.1	2 1.6	11 8.5	4 3.1	5 3.9	
75歳以上	153 100.0	65 42.5	50 32.7	70 45.8	40 26.1	50 32.7	38 24.8	16 10.5	19 12.4	2 1.3	8 5.2	10 6.5	24 15.7	

年齢別にみると、「障害にあう対応(薬、治療、介助等)をしてもらえる避難所があるか」、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか」、「どのような時が緊急時なのかかわからない」はおおむね若い世代の方が多い。

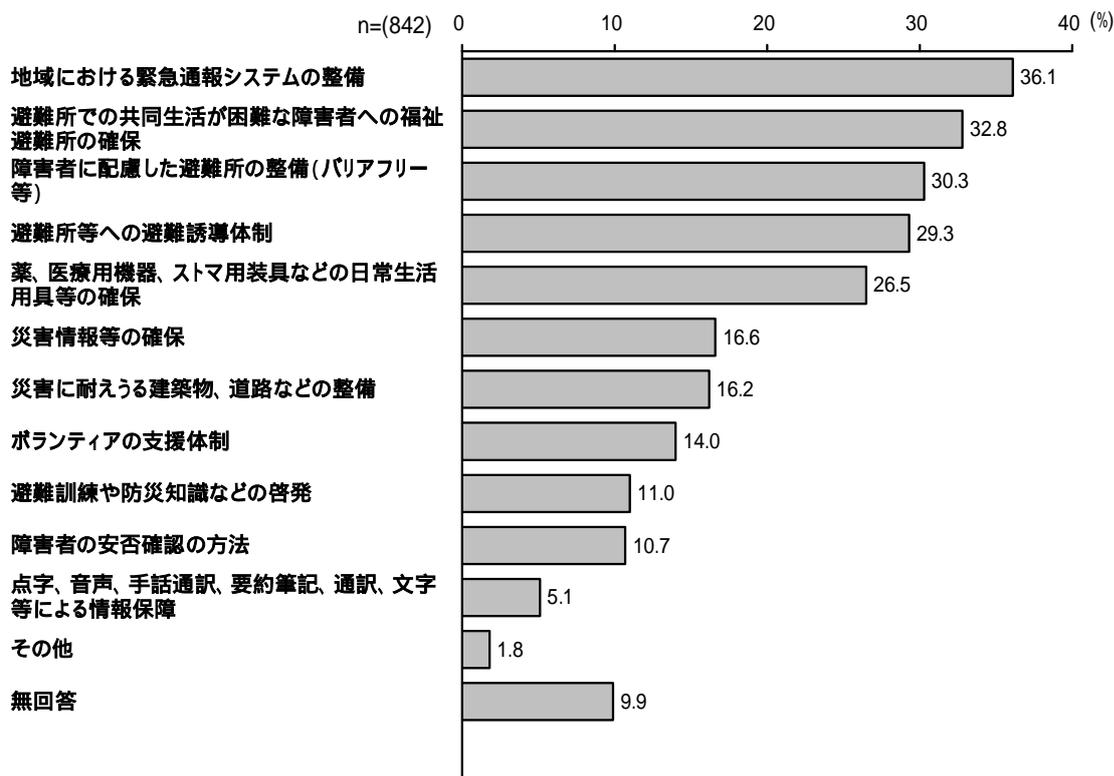
【主たる障害別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	どに宅に耐えられ利用施設が地震かな	る療に介助等があるか	障害にあう対応(薬、治療、介助等)をしてもらえるか	かに安全なところまでできるか	等)を得られるか	緊急時に情報(被害状況、避難場所、物資入手)	く救助を求めても人が来てくれるかどうか	る救助を求められることができるか	二まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか	のどのような時が緊急時なのかかわからない	その他	特にな	わからない	無回答
全体	842 100.0	404 48.0	343 40.7	342 40.6	306 36.3	263 31.2	194 23.0	123 14.6	87 10.3	25 3.0	53 6.3	35 4.2	64 7.6	
肢体不自由	431 100.0	205 47.6	172 39.9	193 44.8	148 34.3	142 32.9	119 27.6	55 12.8	42 9.7	10 2.3	26 6.0	15 3.5	34 7.9	
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	53 44.9	38 32.2	51 43.2	55 46.6	47 39.8	26 22.0	39 33.1	25 21.2	2 1.7	4 3.4	8 6.8	6 5.1	
内部障害	236 100.0	116 49.2	106 44.9	75 31.8	80 33.9	53 22.5	37 15.7	23 9.7	13 5.5	12 5.1	21 8.9	8 3.4	18 7.6	
その他の身体障害	27 100.0	12 44.4	14 51.9	11 40.7	11 40.7	7 25.9	5 18.5	3 11.1	3 11.1	1 3.7	2 7.4	2 7.4	3 11.1	

主たる障害別にみると、「緊急時に情報(被害状況、避難場所、物資入手等)を得られるか」、「救助を求めても人が来てくれるかどうか」、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか」、「どのような時が緊急時なのかかわからない」は、視覚・聴覚・音声障害が他の障害に比べて多くなっている。

問 60 地震、台風などの災害に対してもっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。

( M A )



地震、台風などの災害に対してもっとも大切と思う対策については、「地域における緊急通報システムの整備」(36.1%)が最も多く、以下「避難所での共同生活が困難な障害者への福祉避難所の確保」(32.8%)、「障害者に配慮した避難所の整備(バリアフリー等)」(30.3%)、「避難所等への避難誘導體制」(29.3%)、「薬、医療用機器、ストマ用装具などの日常生活用具等の確保」(26.5%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	地域における緊急通報システムの整備	避難所での共同生活が困難な障害者への福祉避難所の確保	障害者に配慮した避難所の整備（バリアフリー等）	障害者に配慮した避難所の制	避難所等への避難誘導体制	薬、医療用機器、ストマ用具などの日常生活用具等の確保	災害情報等の確保	災害に耐えうる建築物、道路などの整備	ボランティアの支援体制	避難訓練や防災知識などの啓発	障害者の安否確認の方法	点字、音声、手話通訳、要約筆記、通訳、文字等による情報保障	その他	無回答
全体	842 100.0	304 36.1	276 32.8	255 30.3	247 29.3	223 26.5	140 16.6	136 16.2	118 14.0	93 11.0	90 10.7	43 5.1	15 1.8	83 9.9
0～17歳	24 100.0	6 25.0	11 45.8	9 37.5	8 33.3	15 62.5	3 12.5	1 4.2	4 16.7	0 0.0	3 12.5	4 16.7	0 0.0	0 0.0
18～29歳	32 100.0	4 12.5	13 40.6	14 43.8	6 18.8	5 15.6	4 12.5	8 25.0	6 18.8	4 12.5	5 15.6	3 9.4	0 0.0	1 3.1
30～39歳	46 100.0	14 30.4	13 28.3	14 30.4	16 34.8	16 34.8	5 10.9	6 13.0	6 13.0	3 6.5	7 15.2	4 8.7	1 2.2	4 8.7
40～49歳	86 100.0	26 30.2	27 31.4	28 32.6	23 26.7	24 27.9	18 20.9	11 12.8	16 18.6	4 4.7	6 7.0	5 5.8	3 3.5	6 7.0
50～64歳	358 100.0	138 38.5	118 33.0	114 31.8	104 29.1	86 24.0	71 19.8	65 18.2	43 12.0	47 13.1	38 10.6	23 6.4	4 1.1	31 8.7
65～74歳	129 100.0	57 44.2	43 33.3	33 25.6	40 31.0	29 22.5	22 17.1	28 21.7	16 12.4	18 14.0	15 11.6	4 3.1	1 0.8	12 9.3
75歳以上	153 100.0	54 35.3	46 30.1	39 25.5	46 30.1	43 28.1	17 11.1	15 9.8	24 15.7	13 8.5	14 9.2	0 0.0	6 3.9	27 17.6

年齢別にみると、「地域における緊急通報システムの整備」は50歳以上が他の年齢に比べてやや多くなっている。

【主たる障害別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	地域における緊急通報システムの整備	避難所での共同生活が困難な障害者への福祉避難所の確保	障害者に配慮した避難所の整備（バリアフリー等）	障害者に配慮した避難所の制	避難所等への避難誘導体制	薬、医療用機器、ストマ用具などの日常生活用具等の確保	災害情報等の確保	災害に耐えうる建築物、道路などの整備	ボランティアの支援体制	避難訓練や防災知識などの啓発	障害者の安否確認の方法	点字、音声、手話通訳、要約筆記、通訳、文字等による情報保障	その他	無回答
全体	842 100.0	304 36.1	276 32.8	255 30.3	247 29.3	223 26.5	140 16.6	136 16.2	118 14.0	93 11.0	90 10.7	43 5.1	15 1.8	83 9.9
肢体不自由	431 100.0	144 33.4	164 38.1	181 42.0	129 29.9	89 20.6	56 13.0	60 13.9	73 16.9	35 8.1	44 10.2	5 1.2	5 1.2	48 11.1
視覚・聴覚・音声障害	118 100.0	45 38.1	30 25.4	26 22.0	46 39.0	18 15.3	21 17.8	17 14.4	21 17.8	11 9.3	15 12.7	32 27.1	3 2.5	9 7.6
内部障害	236 100.0	91 38.6	62 26.3	33 14.0	58 24.6	102 43.2	54 22.9	45 19.1	16 6.8	40 16.9	24 10.2	4 1.7	6 2.5	20 8.5
その他の身体障害	27 100.0	10 37.0	9 33.3	6 22.2	9 33.3	7 25.9	4 14.8	4 14.8	5 18.5	2 7.4	2 7.4	2 7.4	1 3.7	2 7.4

主たる障害別にみると、肢体不自由では「避難所での共同生活が困難な障害者への福祉避難所の確保」と「障害者に配慮した避難所の整備（バリアフリー等）」、視覚・聴覚・音声障害は「点字、音声、手話通訳、要約筆記、通訳、文字等による情報保障」、内部障害は「薬、医療用機器、ストマ用具などの日常生活用具等の確保」などが多くなっている。

## 11 身体障害者本人の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は162件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

市の施策の方針の考え方について、当アンケートを出したようですが、充実した施設ができることを望みます。私の住んでいるところには、市としてこれらのことにどれだけ力を入れているのかわからないのが現実です。地域に来て調べてほしいし、住民との話し合いも大切なんだろうと考えております。

在宅の人や施設の人が情報交換のできる場所、ネットなどがあると良いと思います。窓口に行かなくても、自分達（家族）が情報をすぐ見られるのは、ありがたいです。医療やヘルパーについての情報も仙台は乏しい。

私は見た目では障がい者だとわからないので、毎日の通勤で福祉割引で切符を買おうと変な目で見られるのがとても辛いです。駅員さんに止められることがないのが幸いです。手帳を見せれば良いとはわかっていますが、辛いですね。

医療助成などの行政手続きが平日の～17時までに限られているのがとても不便です。仕事があり、通院のために休暇を取るのに職場へ気をつかいます。それに加え手続のために区役所へ行くことを理由に休むことはできません。土、日の1日でも、平日のうち1日でも窓口延長してくれると助かるのに・・・と思います。障害を抱えて働くのは大変です。周囲に理解を求めただけでなく、こちらも周囲に気をつけています。そういう障がい者の立場を想像してもらえたらと思います。

今後大地震などがきたとき、ストームがあるので集団での生活、入浴場所、装具の交換場所などがどうなるのか大変に不安です！また必要な装具、薬など、手に入れられるのか？災害発生時のことが非常に気がかりです。プライバシーのない避難場所での生活はとても無理だと思うのですが市では何か対策が考えられているのでしょうか？ぜひこの点を早く対策してほしいと思います。

一緒に出かける友人がいないので、ボランティアの方などで街や買い物などにいっしょに行ってくれるといい。洋式トイレしか使えないのもっと増えるといい。「話せないのかわりに電話をかけてください」という手帳があるが「目がよく見えないので、かわりに電話をかけてください」という手帳もできるとよい。

来年仕事が定年で辞めるので年金だけの生活になる。家には両親（94才、87才）がおり、介護生活になる。自分は手術をして普通の生活ができるようになったが、生活をしていく上での年金だけという事に不安を感じる。

私は聴覚障がい者なので、災害が起きた時にどうすれば良いかについては、やはり不安がある。自宅にいる時や地元で起きた場合なら、地元の対応で十分大丈夫そうという安心感がありますが、離れた場所や、他県で災害にあった場合は不安です。今は本当に昔に比べて聴障者に対する災害情報、保障が進歩していますが、さらにもっとよくなっていくように我々も協力しないといけないと思います。身近なところでは家庭の火災報知機設置義務でも音のみで残念に思っていました。報道で「この問題についてこれからの課題として取りくむ」とあったので。これはうれしかったです。ぜひ、早く実現してほしい。

すべての障がい者の方に見合った福祉サービス。行政の取り組み方が、大変難しい事は理解しているつもりですが、これから障がい者生活の長い私たちのような者に希望の持てるような道筋を作っていただきたい。今後、どのように国の財政が変わっても私たち弱者に負担がかからない「福祉制度」を確立していただきたい。様々な手続の更新時期（期限切れ）のお知らせを頂きたい。障がい者一人に対して、どのような福祉サービスが行われているか一目で分かるようなカード形式にしていきたいと思います（障がい者手帳の携帯は紛失の恐れがあり、上下肢不自由で車イスの私には首から下げるカード式が最良かと思えます）。以上よろしくお願ひします。

路線バスなどをリフト付きにしてもらいたい。そうすれば障がい者やお年寄りも気楽に乗り降りが可能になり、従って外出などの機会も数多くなって生活が向上すると思う。自家用車（障がい者用）でスーパーなどに出かけた際に、車イス専用駐車場に健常者の車が平気で駐車されており、迷惑した事が何回もあります。障がい者のことを理解してくれない人たちがまだまだ多いんだと悲しくなります。ルールをきちっと守ってほしいと思います。

障がい者も介護する家族も高齢化しています。最近それに関することで話をすることが多くなったような気がします。少しでも不安を感じたりした時、気軽に相談できる場所がもっと増えるといいなあと個人的にですが思います。

身障者はもちろんですが、介助者への心のケア。仕事もできず、介護をしている人もいるので介護者への生活援助も少し考えてほしい。安心して生活を送れるように！！ゆったりとした気持ちで介助ができるように考えてほしい！介護うつになりそう。

ヘルパーさんに来ていただいととても助かっています。移動支援も利用させていただいていますが、車椅子利用のため、家の近くからのバスの利用は乗り降りの問題、気候の問題があり、難しいので親が送迎しています。ヘルパーさんにも車を利用しての送迎をしてもらえるととても助かります。また親に何かあった時も学校までの送迎など使えるとありがたいです。車椅子の子どもでも安心して夜も預けられるようなレスパイトの施設などがあればありがたいです。今後、主たる介助者である親に何かあったらという不安があります。日中も利用し、コミュニケーションなど本人をしっかり理解していただいたうえで宿泊とつなげられれば。理想です。